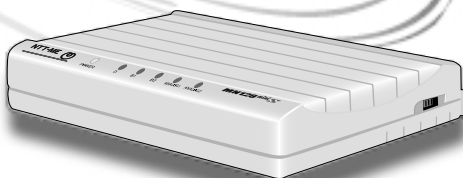


MN128 mini S

取扱説明書



MN128mini 取扱説明書

	お使いになる前に			1	
	機器を接続してみよう			2	
アナログ編	電話、ファックス、モデムを使ってみよう			3	
	便利な機能を使ってみよう			4	
	(アナログポートの設定)	簡単設定ユーティリティ	インストールと起動/終了	Windows	5
				Macintosh	6
			設定例		7
		電話機ATコマンド	設定方法		8
			設定例		9
		アナログポート設定リファレンス			10
		デジタル編	インターネットに接続しよう	接続する前に	
	設定と接続			Windows	12
Macintosh				13	
便利な機能を使ってみよう			14		
DTEポート設定ATコマンドリファレンス			15		
	困ったときは -Q&A-			16	
	付 録			17	

1. お使いになる前に

■ 表記上の約束	10
■ 安全にお使いいただくために	12
■ NTTへの届け出	14
■ 添付品を確認しよう	15
■ 特 徴	16
MN128mini-S とは	16
INSネット64 とは	18
動作確認 OS	18

2. 機器を接続してみよう

■ 各部の名前と機能	20
■ ハードウェアセットアップ	22
mini-S を壁にかける	23
■ 機器との接続とスイッチの設定	24
ANALOG1/2 (ポート1/2) について	25
DC 端子について	26
FG 端子について	26
ISDN S/T点について	26
DTE ポートについて	27
リセットスイッチについて	27
■ 電源を入れてみよう	28

●-- アナログ編 --●

3. 電話、FAX、モデムを使ってみよう

■ 電話やFAXを使う前に	30
電話機を2台接続する	30
電話機を1台だけ接続する	30
電話機とFAXを接続する	31
■ 電話を使う	32
電話をかける	32
電話を受ける	33
■ FAXを使う	34
■ モデムを使う	35

4. 便利な機能を使ってみよう

■ i・ナンバーを利用する	38
i・ナンバーとは	38
i・ナンバーを利用するには	38
■ フレックスホンを利用する	42
キャッチホン (コールウェイティング)	42
三者通話	43
通信中転送	44
着信転送	46
■ 発信者番号通知サービスを利用する	46
■ INS ナンバー・ディスプレイを利用する	48
■ 擬似ナンバーリクエストを利用する	49
■ INS マジックボックス、INS ポイスワープを利用する (迷惑電話お断りサービス・Fネットを利用する)	49
■ 擬似キャッチホン	50
■ 内線通話	51
■ 内線転送	52
■ 擬似なりわけサービス (発信電話番号識別機能)	54
■ アナログ優先モード (リソース BOD)	54
■ RVS - COM を利用する	55
パソコンから FAX を送信する	55
パソコンで FAX を受信する	55
■ 設定の初期化	56

5. Windows 版 簡単設定ユーティリティ

■ Windows 版 簡単設定ユーティリティ	58
インストール方法	58
起動と終了の方法	60

6. Macintosh 版 簡単設定ユーティリティ

■ Macintosh 版 簡単設定ユーティリティ	62
インストール方法	62
起動と終了の方法	64

7. 簡単設定ユーティリティの設定例

■ 設定画面から使える機能	68
■ 着信ポート、ダイヤルインを設定する	70
■ 着信ポート、ダイヤルインを設定する (FAXを利用する)	71
■ 擬似キャッチホンを設定する	74

7. 簡単設定ユーティリティの設定例 (続き)

■ フレックスホンのキャッチホン (コールウェイティング) を設定する	76
■ フレックスホンの三者通話を設定する	78
■ フレックスホンの通信中転送を設定する	79
■ フレックスホンの着信転送を設定する	80
■ ナンバー・ディスプレイ電話機 (アダプタ) を接続する	82
■ 発信者番号通知を設定する	83
■ 擬似なりわけサービス (発信電話番号識別) を利用する	86
■ アナログ優先モード (リソース BOD) を利用する	87
■ 擬似ナンバーリクエストを利用する	88
■ INS マジックボックス、INS ボイスワープを利用する (迷惑電話お断りサービス・Fネットを利用する)	89
■ RVS - COM を利用して FAX を受信する	92

8. アナログポートを設定しよう (電話機 / A T コマンド)

■ アナログポートの設定方法	94
■ アナログ電話機で設定する	95
アナログ電話機での設定方法	95
■ アナログ電話機で設定の確認をする	97
アナログ電話機での設定確認方法	97
■ パソコンから「A T コマンド」で設定する	99
ATコマンドとは	99
ATコマンドを入力する前に	99
ATコマンドの入力方法	100
Windows 98 (Second Edition) / 95 (ハイパーターミナル) でのATコマンド入力方法	101
設定の保存 / 初期化 / 内容表示	104
ATコマンドが入力できない	105

9. アナログポートの設定例 (電話機 / A T コマンド)

■ 着信ポート、ダイヤルインを設定する	108
■ 擬似キャッチホンを設定する	111
■ フレックスホンのキャッチホン (コールウェイティング) を設定する	112
■ フレックスホンの三者通話を設定する	113
■ フレックスホンの通信中転送を設定する	114
■ フレックスホンの着信転送を設定する	115
■ ナンバー・ディスプレイ電話機 (アダプタ) を接続する	117
■ 発信者番号通知を設定する	118
■ 擬似なりわけサービス (発信電話番号識別) を利用する	120
■ アナログ優先モード (リソース BOD) を利用する	121

■ 擬似ナンバーリクエストを利用する	122
■ INS マジックボックス、INS ボイスワープを利用する (迷惑電話お断りサービス・Fネットを利用する)	123
■ RVS - COM を利用して FAX を受信する	125

10. アナログポート設定リファレンス

■ 電話機設定、ATコマンド書式	128
■ 設定の管理	電話機 AT コマンド 128
設定の初期化	21 @ A 128
設定の保存	(なし) @ B 128
設定の表示	(なし) @ C 128
■ ポート共通設定	電話機 AT コマンド 129
グローバル着信の設定	72 @ R 129
内線通話の設定	73 @ S 129
擬似キャッチホンの設定	63 @ O 129
フレックスホンの設定	71 @ P 130
アナログ機器優先モード (リソース BOD) の設定	82 @ U 130
フッキングタイミング調節	34 # D 131
i・ナンバー利用設定	64 # M 131
■ ポート毎設定	電話機 AT コマンド 132
アナログポート接続機種	32 @ E 132
発信までの時間 (桁間タイマー) の設定	41 @ G 132
内線呼び出し音の設定	42 @ H 132
内線着信表示の設定	(なし) @ D 132
発信者番号通知の設定	93 @ Y 133
発信者番号の設定	81 @ T 134
機能ボタンの設定	33 @ F 135
音量調節	24 # A 135
■ 電話番号毎設定	電話機 AT コマンド 135
回線番号の登録	43 @ I 135
着信転送先電話番号の登録	01 @ Q 136
着信ポートの設定	52 @ K 136
サブアドレスの登録	51 @ J 137
話中着信の設定	62 @ N 138
外線呼び出し音の設定	61 @ M 138
RVS - COM モードの設定	35 # E 139
RVS - COM への自動転送時間の設定	36 # F 139
■ 擬似なりわけサービス	電話機 AT コマンド 140
相手先回線番号の登録	83 @ V 140
相手先サブアドレスの登録	91 @ W 140
擬似なりわけサービスと 擬似ナンバーリクエストの設定	92 @ X 140

●-- デジタル編 --●

11. インターネットに接続しよう

■ インターネットに接続する前に	142
パソコンの用意	142
通信ソフトウェアの用意	143
プロバイダとの加入契約	145
■ デジタルデータ通信と通信モード	146
デジタルデータ通信の特徴	146
非同期 / 同期 PPP 自動変換	146
MP (Multilink Protocol) 通信	146
回線速度と通信モード	147

12. Windowsでの設定 (inf) ファイルの登録

■ Windows での設定 (inf) ファイルの登録	149
■ Windows 98 (Second Edition) / 95 のネットワークの設定と接続	155
プロバイダにダイヤルアップ接続する	157
Windows 98 (Second Edition) / 95 でコマンドの追加設定をする	162
■ Windows NT4.0でネットワークの設定	163
設定 (inf) ファイルを登録する	163
リモートアクセスのセットアップ	163
プロバイダにダイヤルアップ接続する	165

13. Macintoshでの設定と接続

■ Macintoshでの設定と接続	169
ソフトウェアの準備	169
リモートアクセス「Open Transport / PPP (V2.0.1)」のとき	169
Free PPP (V2.6.2) のとき	171

14. 便利な機能を使ってみよう

■ スループット BOD 機能を使う	176
■ 手動で B チャンネル数を変更する	178
■ ピアツーピア通信をする	180
■ Apple Remote Access で通信する	182
■ パソコン通信をするためには	183
■ パソコン通信に接続する	184

15. DTEポート設定ATコマンドリファレンス

■ ATコマンド書式	ATコマンド	186
直前に入力したATコマンドの再実行	A /	187
呼び出しで手動着信	A	187
発信	D	187
エコーバックの有無	E	187

回線が接続しているときに切断	H	187
製品情報表示	I	187
コマンド入力モードからオンラインモードにもどる	O	187
応答コードの表示の有無	Q	187
Sレジスタ設定／設定内容表示	S	188
応答コードの表示形式の設定	V	188
RINGの表示形式の設定	W	188
応答コードの選択	X	188
ブレーク信号による動作の設定	Y	188
内部ファイルの読み込み	Z	188
DCD 信号制御の設定	& C	188
DTR 信号 OFF 時の動作設定	& D	188
回線接続時の速度表示内容の設定	& E	189
購入時設定にもどす	& F	189
通信モードの設定	& Q	189
DSR 信号制御の設定	& S	189
MN128mini - S の動作チェック	& T	189
発信相手先登録回線番号の表示	& V	189
設定の保存	& W	189
起動時に読み込むファイルの選択	& Y	190
発信相手先回線番号の登録/削除	& Z	190
フロー制御形式の設定	¥ Q	190
設定内容/課金情報の表示	¥ S	190
無通信監視タイマーの設定	¥ T	190
DTE 着信時の最高回線速度の設定	% B	190
すべてのレジスタの設定内容表示	% R	190
ダイヤルイン追加番号の登録/削除	\$ C	191
サブアドレスの登録/削除	\$ E	191
発信時の回線速度の設定	\$ S	191
発信者番号通知の可否設定	! B	192
識別着信の設定	! C	193
識別着信番号の登録/削除/表示	! D	193
グローバル着信の可否	! E	194
通信フォーマット選択	! F	194
自動MP変換機能の設定	! H	194
初期接続 B チャネル数の設定	! I	195
スループット BOD での B チャネル追加/削除	! J	195
スループット BOD でのデータ送信/受信時の B チャネル追加	! K	195
スループット BOD でのデータ送信/受信時の B チャネル削除	! L	195
ユーザ名とパスワードの登録/表示	! M	196
リソース BOD でのアナログ機器優先モードの設定	! S	196

16. 困ったときは - Q & A -

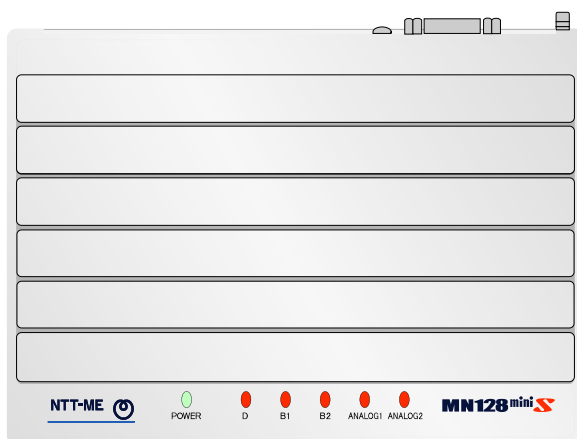
■ ハードウェア	198
■ ISDN 回線	199
■ ANALOG1/2 (ポート1/2)	200
■ パソコン通信	203
■ RVS - COM	203
■ DTE ポート	204
■ インターネット	205
■ 付属の CD-ROM	206

17. 付 録

■ S レジスタ	208
■ 応答コード一覧	209
■ ハードウェア仕様	211
■ 機能	212
■ お問い合わせシート	215

お使いになる前に

1



本書での表記上の約束、MN128mini-S を安全にお使い頂くための注意事項、MN128mini-S の特徴、添付品の確認、NTTへの届け出について説明します。
必ず一度はお読みください。

(以下、「MN128mini-S」は特に必要が無い限り「mini-S」と書きます)

■表記上の約束

本書では、次のような表現を使っています。

○ 警告表示の意味

危険 : 記載内容を守らないと、ケガや事故の原因となり、人体の危険につながる場合があります。

注意 : 記載内容を守らないと、mini-Sを正しく使えません。

○ 「NTT」の表記

・「NTT東日本」または「NTT西日本」のことです。

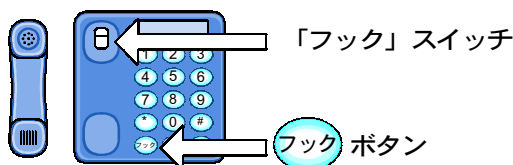
○ 設定機能の表記

・「設定機能名」(電話機設定コード/ATコマンド名)のように表します。

例 : 「フレックスホンの設定」(71/AT@P)

○ **フック** について

・この表示は、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。



○ マウス操作の表現

Windows



: マウスの左ボタンをクリックする操作を表します。



: マウスの左ボタンをダブルクリックする操作を表します。



: マウスの右ボタンをクリックする操作を表します。

Macintosh



: マウスのボタンをクリックする操作を表します。



: マウスのボタンをダブルクリックする操作を表します。

■安全にお使いいただくために

危険

○電源について

- ・商用電源 (家庭用 AC100V) 以外ではお使いにならないでください。
 - ・専用 AC アダプタのプラグは、確実に差し込んでください。感電などの原因になります。
 - ・ぬれた手で専用 AC アダプタのプラグの抜き差しは絶対にしないでください。感電などの原因になります。
 - ・電源コードを傷つけたり、加工したりしないでください。感電や故障の原因になります。
 - ・タコ足配線のコンセントに mini-S の専用 AC アダプタのプラグを差し込まないでください。火災や故障の原因となります。
 - ・付属の専用 AC 電源アダプタ以外は絶対に使わないでください。火災や故障の原因となります。
 - ・万一煙が出ている、へんな臭いがするなど異常な場合はすぐに mini-S の電源スイッチを切り、専用 AC アダプタのプラグをぬいて、技術サポートセンターまでお問い合わせください。そのままお使いになると火災や故障の原因になります。
 - ・必ずアース線を接続してお使いください。アース線を接続しないと感電などの原因になります。
 - ・アース線の取り付け、取り外しは必ず mini-S の電源を切り、専用 AC アダプタのプラグを抜いた状態で行なってください。電源を入れたままで取り付け取り外しをすると、感電などの原因になります。
 - ・雷が近くで発生したときは必ず mini-S の電源を切り、専用 AC アダプタのプラグをぬいてお使いにならないでください。場合によっては感電や故障のおそれがあります。
 - ・雷が鳴っている最中に専用 AC アダプタのプラグを差し込んだり、機器の接続をしないでください。感電などの原因になります。
- ※ 電子機器などを雷の被害から守る市販の機器がパソコンショップなどで販売されています。詳しくはパソコンショップなどへお問い合わせください。

○その他

- ・mini-S を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源を切り、専用 AC アダプタのプラグを抜いて、技術サポートセンターまでお問い合わせください。そのままお使いになると感電や故障の原因になります。
- ・mini-S を水につけたり、かけたりして内部に水が入ってしまったときは、電源を切り、専用 AC アダプタのプラグを抜いて、技術サポートセンターまでお問い合わせください。そのままお使いになると感電や故障の原因になります。
- ・mini-S の上に花瓶、植木鉢、コップ、薬品の入った容器、化粧品などを置かないでください。こぼれた時に火災や故障の原因になります。
- ・mini-S の分解、改造はしないでください。火災、感電や故障の原因になります。



●本書について

- 本書の内容の一部または全てを無断で転載することは禁止されています。
- 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の著作権は、すべて株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーに帰属します。

●MN128mini-Sについて

- mini-Sの故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。
- mini-Sは日本国内の仕様であり、外国ではお使いになれません。また、外国での保守サービスなども行なっておりません。
- Windows98 Second Edition のインターネット共有接続サービスを利用した場合の自動接続/切断に関する料金トラブルについては、当社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。

●商標について

- Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- Macintosh は、米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
- RVS-COM は、ドイツ RVS 社の登録商標です。
- その他の商品名などは、各社の商標、登録商標です。

●設置場所について

- 水のかかる場所や湿度が高い所でお使いになったり、設置しないでください。漏電や故障などの原因になります。
- 直射日光があたるところに置いたり、他の電気機器と重ねてはお使いにならないでください。温度が上がり火災や故障の原因になります。
- mini-S 同士、またはモデムなどを重ねて設置しないでください。筐体に変形したり、火災や故障の原因となります。
- ほこりの多い所には設置しないでください。故障などの原因になります。
- 通気孔をふさぐような設置はしないでください。熱がこもり火災や故障の原因になります。
- 衝撃や振動が加わるような場所で使ったり設置することはさけてください。

■ NTT への届け出

mini-S をご利用になるときは、NTT の「INS ネット 64」をお申し込みになる必要があります。NTT 各支店備え付けの申込票に記入の上お申し込みください。

申込票の記入に際しては、下記の必要事項を参照してください。

○接続する通信機器

- ・ 通信機器の名称 : MN128mini-S
- ・ メーカー名 : NTT-ME
- ・ 認定番号 : MN128mini-S 底面の認定番号参照
- ・ お客様工事の場合 : DSU の折り返し機能有り

○コンサルティング項目

- ・ インタフェース形態およびレイヤ 1 起動種別 : 「P-MP呼毎」または「P-MP常時」
- ・ 発信者番号通知サービス : 通話ごと非通知 (呼毎通知許可) (※ 1)
- ・ ユーザ間情報通知サービス : 着信許可 (※ 2)
- ・ 通信中着信通知サービス : 許可 (※ 2)

※ 1. 相手に番号を通知したくないときは「回線ごと非通知 (呼毎通知拒否)」または「常時非通知 (常時通知拒否)」を選んでください。詳しくは、NTT までお問い合わせください。

※ 2. MN128mini-S の機能を便利に使うためにお勧めします。

注意

一般電話回線 (アナログ回線) から INS ネット 64 に切り替える時、銀行振り込み、キャッチホン、テレジョーズなど一般電話回線時に契約していたものはすべて再契約が必要になります。詳しくは、NTT までお問い合わせください。

「市外電話会社専用アダプタ」、「ガス会社検針用機器」、「警備会社の通報機器」などが接続されていたアナログ回線をそのまま INS ネット 64 回線に切り替えた場合、以下のような現象が確認されています。

- ・ 通話が途中で切れてしまう。
- ・ mini-S の電源を入れた時に B 1、B 2 ランプが点滅し、電話の発信着信ができなくなる。
- ・ NTT の回線故障係が回線試験すると正常だったり、数回試験を繰り返すと値がその都度変化する。
- ・ 発信はできるが着信ができない。発信者には「通話できません…」などのメッセージ、または話中の音が聞こえます。
- ・ 着信時に電話機が鳴動して、受話器を上げると切れてしまう。
- ・ 発信時に相手先を呼び出して、相手が応答すると切れてしまう。
- ・ 通信中に「相手先から一時的障害で切断された…」とメッセージが聞こえ切れてしまう。

INS ネット 64 回線に切り替えるときは、上記アダプタなどはすべて取り外してください。尚、アダプタの取り外し工事などについては、上記アダプタなどを取り付けた工事会社、または該当するアダプタに記載されている連絡先にご相談ください。

■ 添付品を確認しよう

★MN128mini-S 本体	1 台
★AC アダプタ	1 個
★CD-ROM	1 枚
Windows用 inf ファイル	
Windows用 簡単設定ユーティリティ	
Macintosh用 CCLファイル	
Macintosh用 簡単設定ユーティリティ	
★ISDN U点ケーブル (3m)	1 本
★D-Sub 9ピン専用シリアルケーブル (クロス)	1 本
★簡単設定ガイド	
- 接続してみよう / 設定ファイルの登録	1 部
/ インターネットプロバイダに接続する	1 部
- 電話機で設定してみよう / アナログポート設定表	
★取扱説明書 (本書)	1 冊
★保証書	1 部
★登録ハガキ	1 部

< オプション >

★MN128miniシリーズ専用バックアップ電池ボックス 標準価格3,500円
(税別)

- ・ 連続通話 : 約 120 分 (アナログ、S/T の各 1 ポート使用の場合)
- ・ 待ち受け時間 : 約 240 分 (すべてのポートを使用しない場合)
- ・ 使用電池 : 単三アルカリ乾電池 10 本

★Mac用mini-DIN8ピン変換ケーブル 標準価格800円 (税別)

- ・ Macintoshでシリアルポートのコネクタ形状がmini-DIN8ピンの機種である場合に、付属の専用シリアルケーブルとつなぎ合わせて利用します。

★D-Sub25ピン変換アダプタ 標準価格800円 (税別)

- ・ PC98 シリーズなどシリアルポートのコネクタ形状が D-Sub25 ピンの機種である場合に、付属の専用シリアルケーブルとつなぎ合わせて利用します。

※その他予告なしに補足説明書、チラシなどを同梱することがあります。

特 徴

● MN128mini-S とは

mini-S は、INS ネット 64 を使って、従来のアナログ通信機器を接続してアナログ通信、コンピュータ機器を接続してデジタルデータ通信が可能な DSU 内蔵タイプの TA (ターミナルアダプタ) です。

- DSU 内蔵 (切離し可) → [説明] P.21 [操作] P.24

内蔵している DSU をスイッチで切離せます。

- 電話機からアナログポートの設定/設定確認が可能 → [操作] P.95～98

mini-S のアナログポートに接続したアナログ電話機 (PB 信号) からアナログポートの設定や設定確認ができます。

- RVS-COM 対応 → [操作] P.55～56 [設定] P.92、125～126、139

ドイツ RVS 社のコミュニケーションソフト「RVS-COM」に対応しています。RVS-COM を利用して、mini-S に接続したパソコンから直接 FAX の送受信などができます。

- リセットスイッチ → [操作] P.27

リセットスイッチで簡単に初期化できます。

- i・ナンバー対応 → [説明] P.38～41 [設定] P.131

NTT と i・ナンバー契約をすることにより、購入時設定の状態でアナログポートごとに 2 つの電話番号を鳴り分けさせることができるので、電話と FAX の着信を番号毎に区別するなど便利な使い方ができます。

- INS ナンバー・ディスプレイ対応 → [説明] P.48 [設定] P.82、117、132

ナンバーディスプレイ対応アナログ電話機またはアダプタを mini-S のアナログポートに接続して相手先の電話番号を表示できます。

- 擬似ナンバーリクエスト → [説明] P.49 [設定] P.88、122、140

mini-S 独自の機能で、相手から発信者番号を通知してこない場合に、着信拒否したり、予め呼び出し音を指定できます。

- INSマジックボックス対応、INSボイスワープ対応

→ [説明] P.49～50 [設定] P.88～91、123～124

ステイミュラスプロトコルに対応していますので、INS マジックボックスや INS ボイスワープのカスタムコントロール機能を利用できます。

- フレックスホン対応 → [操作] P.42～46 [設定] P.76～81、112～116、130
NTT のフレックスホン (キャッチホン (コールウェイティング)、三者通話、通信中転送、着信転送) を利用できます。
- 擬似なりわけサービス (発信電話番号識別機能) → [説明] P.54 [設定] P.86、120、140
相手先の電話番号を mini-S に事前に登録し、登録されている相手から着信があったときに呼び出し音を変えたり、着信を拒否できます。
- 擬似キャッチホン → [説明] P.50 [設定] P.74～75、111、129～130
NTT のフレックスホンのキャッチホン (コールウェイティング) 機能と同様の機能です。片方の B チャンネルを使って通話中に話中着信したとき、通話を切り替えられます。
- 音量調節 → [設定] P.135
アナログポートの音量を調節できます。
- 同期 64k、128kMP 通信 → [説明] P.142～148
同期 64kbps、128kbpsMP 通信に対応しています。
- アナログ優先モード (リソース BOD) → [説明] P.54 [設定] P.87、121、130～131
128kbpsMP 通信中でも、電話や FAX などのアナログ通信を優先して発着信できます。
- スループット BOD 機能 → [設定] P.176、177、195、208
128kbpsMP 通信をしているとき、データ量に応じて自動的に使う B チャンネルを追加/削除できます。
- 非同期 / 同期 PPP 自動変換 → [説明] P.146
パソコンからの非同期 PPP データと回線側の HDLC フォーマットデータを自動的に変換します。
- ファームウェアバージョンアップ
Flash ROMを使っていますので、mini-SのDTEポートに接続したパソコンを使ってバージョンアップができます。

● INS ネット 64 とは

ISDN (Integrated Services Digital Network) デジタル通信の国際標準規格で、NTT の ISDN サービスの商品名が「INS ネット 64」または、「INS ネット 64・ライト」です。

○ 2 つの B チャンネル

NTT の INS ネット 64 は、1 回線で 2 つの通信チャンネル (B チャンネル) がありますので、電話と FAX、または電話とデジタルデータ通信 (64kbps まで)、またはデジタルデータ通信 (128kbps) といういろいろな使い方ができます。

○ 2 つのアナログ機器が同時に利用できる → [説明] P.30～35

電話機 2 台、または電話機と FAX などアナログ機器を 2 台同時に使えます。また、パソコンでインターネットに接続しているときも電話か FAX が使えます。

※ 電話機と FAX とパソコンの計 3 台の機器を接続していても、同時に通信できるのはあくまでも最大 2 台までです。

● 動作確認 OS

Windows98、Windows98 Second Edition、Windows95、WindowsNT4.0
MacOS8.6、MacOS8.5、MacOS8.1、MacOS8.0、MacOS7.6、漢字Talk7.5

○ 簡単設定ユーティリティ動作確認 OS

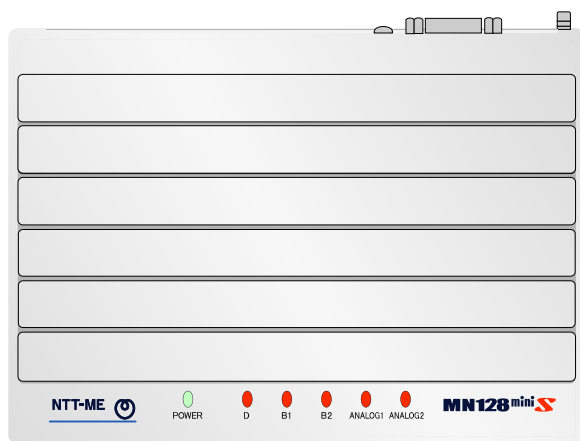
Windows98、Windows98 Second Edition、Windows95、WindowsNT4.0
MacOS8.6、MacOS8.5、MacOS8.1、MacOS8.0

※ 動作確認 OS は、すべて日本語版だけです。

注意

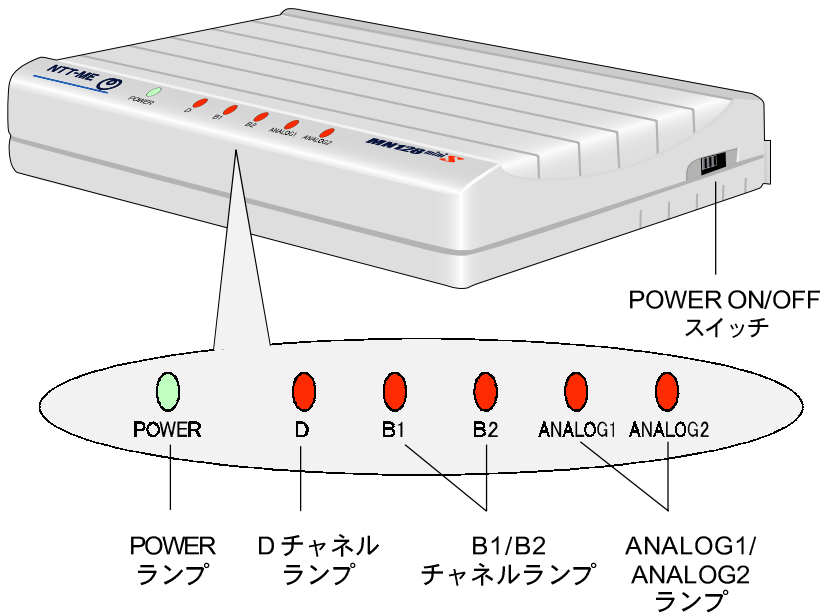
- Windows98 Second Edition のインターネット共有接続サービスを利用した場合の自動接続 / 切断に関する料金トラブルについては、当社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。

機器を接続してみよう

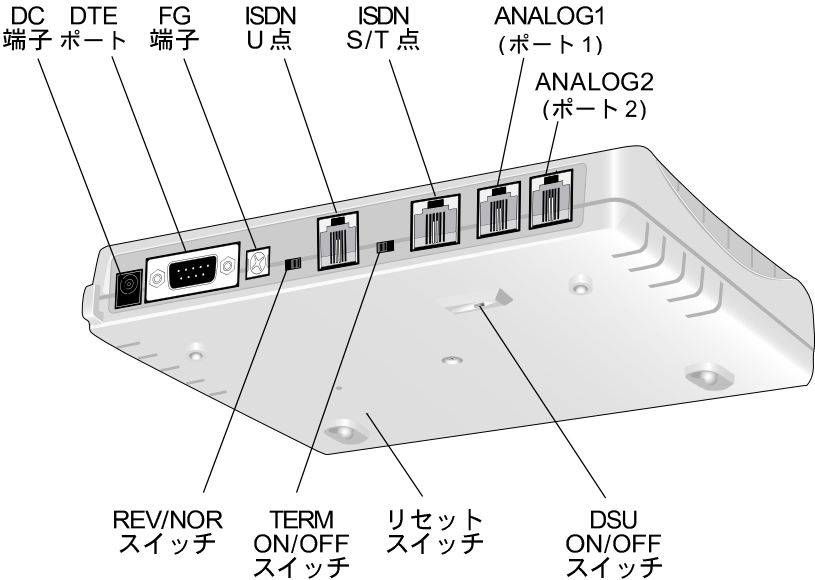


mini-Sの各部の名前や機能と設置・接続方法について説明します。

■各部の名前と機能



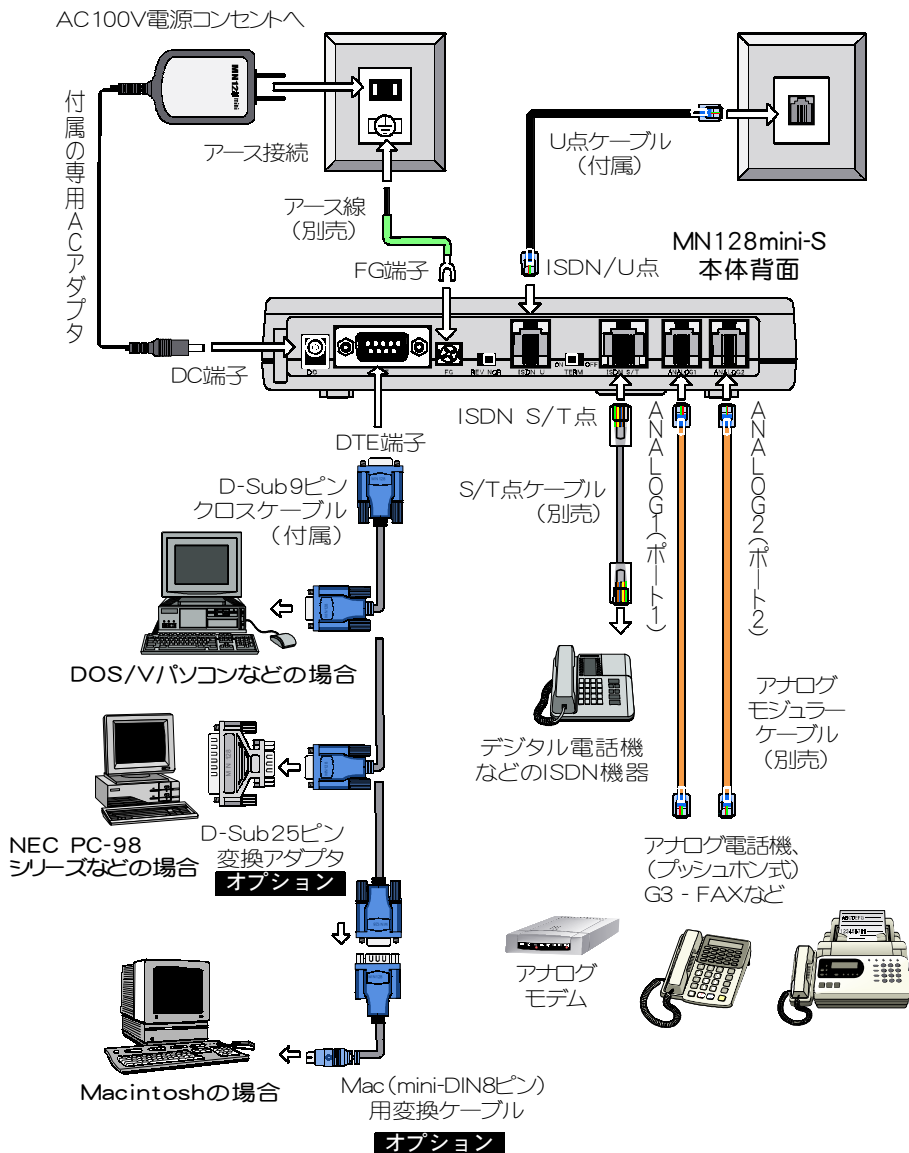
名 前	状態	機 能
POWER ON/OFF スイッチ	—	電源を入れるときは「ON」にします。
POWERランプ	点灯	POWER ON/OFFスイッチを「ON」にすると点灯します。
Dチャンネルランプ	点滅	コマンド入力時に点滅します。
B1/B2 チャンネルランプ	点灯	Bチャンネル（通信チャンネル）を使用すると点灯します。 ISDNでは通信チャンネルが2つありますので、2つとも使用したときは B1/B2チャンネルランプが2つとも点灯します。
	点滅	データ転送中は点滅します。 (注) 電源を入れたとき、B1、B2が同時に点滅するときはISDN回線が正常に認識できていません。
ANALOG1/ ANALOG2 ランプ	点灯	ANALOG1または2にアナログ機器を接続している場合、そのアナログ機器が通信中のときに点灯します。
	点滅	アナログ機器がオフフック、または呼び出し音が鳴っているとき、および呼び出しているときに点滅します。



名 前	機 能
DC端子	付属のACアダプタを接続します。
DTEポート	付属の専用シリアルケーブルを接続します。
FG端子	アース線を接続します。
ISDN U点	ISDNモジュージャックと付属のU点ケーブルで接続します。
ISDN S/T点	内蔵DSUを利用するとき、他のISDN機器を接続します。 外付けDSUを利用するとき、DSUとISDNケーブルで接続します。
ANALOG1(ポート 1)/ ANALOG2(ポート 2)	アナログ通信機器を接続します。
REV/NOR スイッチ	「REV」側にすると、U点の極性を反転できます。
TERM ON/OFF スイッチ	ISDN回線の終端抵抗のON/OFFを切り替えます。
リセットスイッチ	設定を初期化できます。
DSU ON/OFF スイッチ	「OFF」側にすると、DSUの切り離しができます。

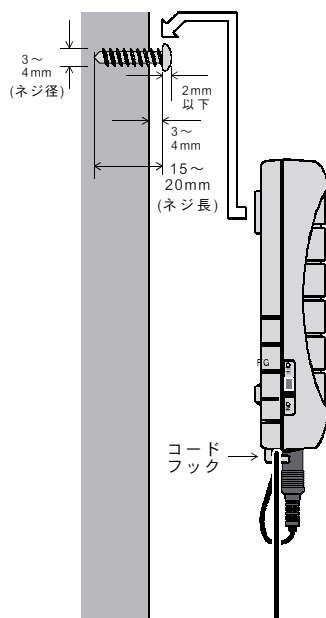
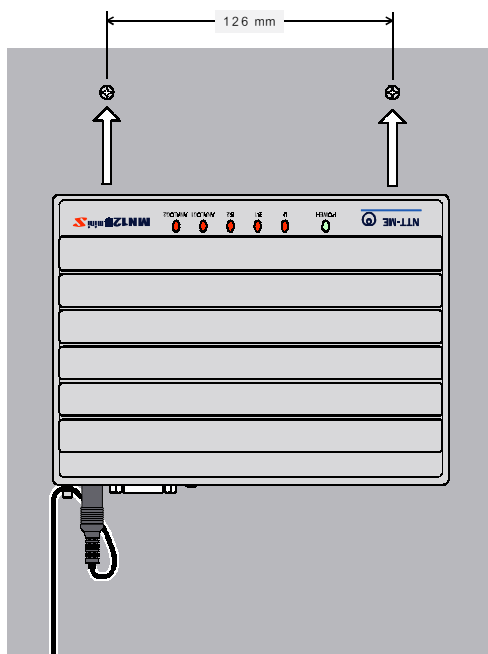
■ ハードウェアセットアップ

- ・他の機器との接続は、下図のようにします。



● mini-S を壁にかける

- mini-S を下図のように木ネジ 2 本 (別売) で壁にかけると、設置スペースを節約できます。
- AC アダプタのコードをコード・フックに掛けると、プラグが DC 端子から抜けるのを防げます。

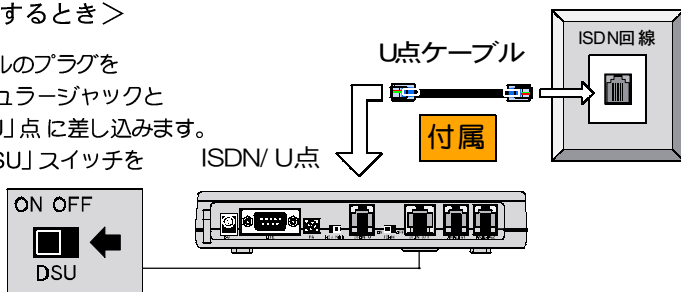


■ 機器との接続とスイッチの設定

○ ISDN ケーブルの接続と DSU スイッチを確認する

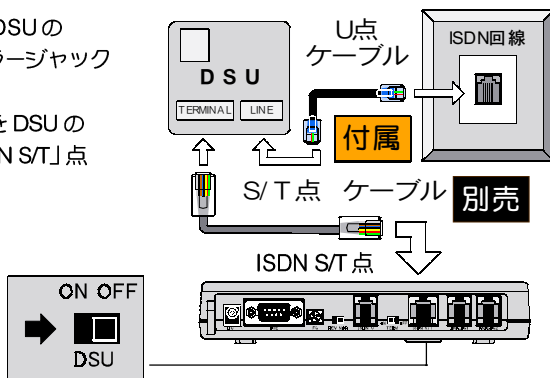
＜内蔵DSUを利用するとき＞

- ISDN U 点ケーブルのプラグを ISDN 回線のモジュージャックと mini-S の「ISDN U」点に差し込みます。
- mini-S 底面の「DSU」スイッチを ON にします。



＜外付けDSUを利用するとき＞

- ISDN U 点ケーブルのプラグを DSU の「LINE」と ISDN 回線のモジュージャックに差し込みます。
- ISDN S/T 点ケーブルのプラグを DSU の「TERMINAL」と mini-S の「ISDN S/T」点に差し込みます。
- mini-S 底面の「DSU」スイッチを OFF にします。



○ 「REV/NOR」スイッチで極性反転する

＜内蔵DSUを利用するとき＞

ISDN ケーブル接続と「DSU」スイッチを確認し、電源を入れると「B1」「B2」ランプが点滅するときは、電源を切り、「REV/NOR」スイッチで極性を反転させてから電源を入れ直してください。

● ANALOG1/2(ポート 1/2) について

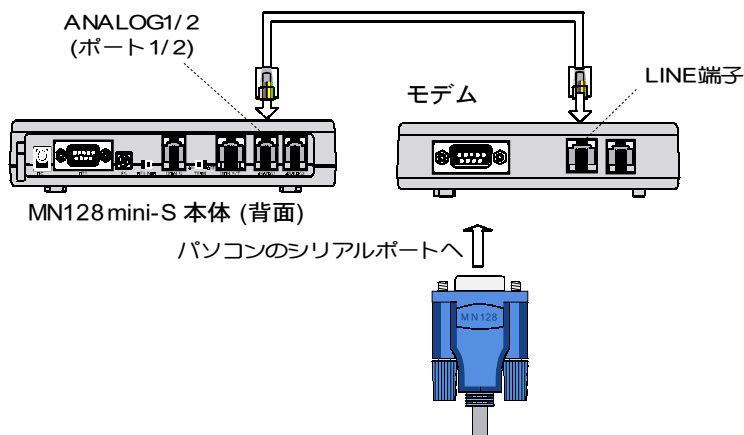
- 一般電話回線 (アナログ回線) 用のアナログ機器 (アナログ電話機、FAX (G3)、モデムなど) が接続できます。

④ 注意

- 接続できるアナログ機器はプッシュボタン (PB) 信号の通る電話機しか使用できません。お持ちの電話機の設定を「PB」または「トーン」に設定してください。
- ANALOG1/2(ポート 1/2) の片方に複数のアナログ機器を接続する (ブランチ接続) 場合の動作保証はできません。

○ モデムを接続するには

ANALOG1/2(ポート 1/2) の片方とモデムの回線 (LINE) 端子とを電話線で接続します。



④ 注意

- モデムの電話機 (TEL) 端子に電話機を接続した場合の動作保証はできません。

● DC 端子について

- 付属の専用ACアダプタのコード側のプラグをつなぎ、ACアダプタ本体側のプラグを電源コンセントに差し込みます。
- 専用ACアダプタの本体側のプラグを電源コンセントに差し込む場合、必ずmini-Sの「POWER ON/OFF」スイッチは「OFF」にしておいてください。
- 停電時には、アナログ電話機を含めmini-Sに接続したすべての通信機器が利用できません。別売のバックアップ電池ボックスを利用すると、mini-Sに接続したすべての通信機器を利用できます。

危険

- 付属の専用AC電源アダプタ、オプションの専用バックアップ電池ボックス以外は絶対に使わないでください。火災や故障の原因になります。

● FG 端子について

- アース線は添付しておりません。別途ご用意ください。

危険

- 必ずアース線を接続してお使いください。アース線を接続しないと感電などの原因になります。また、雷発生時のDSU故障の原因になります。
- アース線は必ずmini-Sの電源を切り、電源プラグを抜いた状態で取り付け、取り外しをしてください。電源を入れたままで取り付け、取り外しをすると、感電などの原因になります。

● ISDN S/T 点について

<内蔵DSUを利用するとき>

- デジタル電話機、G4-FAX、TAなどのISDN機器を接続できます。
- ISDN機器を接続するときは「TERM」スイッチをOFFにし、接続したISDN機器または配線上で終端抵抗を入れてください。「ISDN S/T」点に何も接続しないときは「TERM」スイッチをONにしてください。
- ISDN機器を接続するときは、接続するISDN機器にサブアドレスを付けて、着信を識別してください。サブアドレスを付けられない場合は、mini-Sの「DTE」ポートを着信拒否(AT%B0)に設定します。

<外付けDSUを利用するとき>

ISDNケーブルでDSUの「TERMINAL」端子とmini-Sの「ISDN S/T」点を接続します。

● DTE ポートについて

- D-Sub9 ピン専用シリアルケーブルのネジは、インチネジ形状です。
- D-Sub25 ピン変換アダプタ (オプション) のネジは、ミリネジ形状です。

⑧ 注意

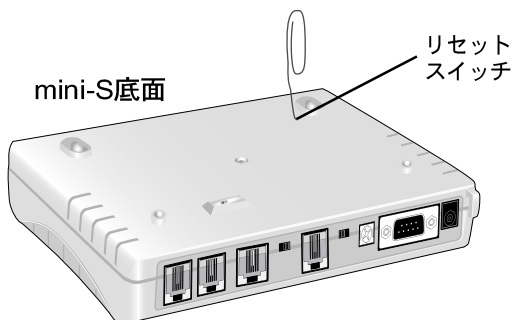
- 必ず専用シリアルケーブルをお使いください。市販のシリアルケーブルを使われた場合は、正常に動作しない可能性があります。
- ノートパソコンなど一部のパソコンでは、付属の専用シリアルケーブルと変換ケーブルでは形状が合わない場合があります。この場合、お持ちのパソコンのシリアルポートに合った形状の市販の変換ケーブル / 変換アダプタ (ストレート) をご用意いただき、付属の専用シリアルケーブルと接続して使う必要がありますが、動作の保証は致しかねます。
- パソコンと mini-S 間を延長したいとき、お持ちのパソコンのシリアルポートに合った形状の市販の変換ケーブル / 変換アダプタ (ストレート) をご用意いただき、添付の専用シリアルケーブルと接続して使う必要がありますが、動作の保証は致しかねます。

● リセットスイッチについて

- mini-S の底面にあるリセットスイッチ (小さい穴) で購入時の設定に初期化できます。

○ 初期化方法

1. mini-S の電源が入り、動作している状態で、リセットスイッチにクリップをのばして差し込み、10 秒以上押し続けます。
2. 前面の LED ランプがすべて点滅したらクリップを抜きます。
3. POWER ランプだけ点灯する状態になったら電源を OFF にして、5 秒くらいしてから ON にしてください。



■ 電源を入れてみよう

専用 AC アダプタの接続などを確認し、ISDN 回線と接続して mini-S の「POWER ON/OFF」スイッチを ON にします。

次に mini-S のランプ表示が次のように変わることを確認してください。

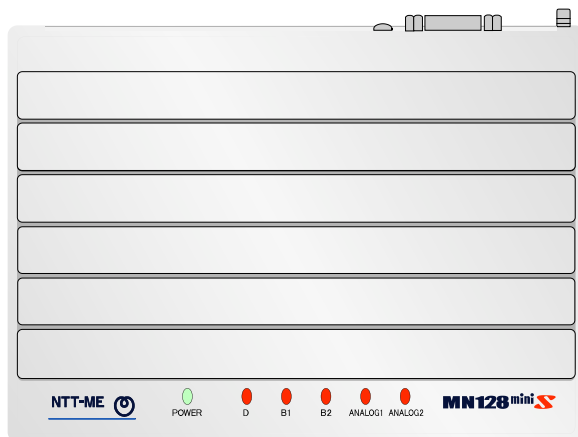
- ① 「POWER」ランプだけが点灯したままで、「ANALOG2 (ポート 2)」から「D」まで赤いランプが順番に点灯。
- ② 「POWER」の緑のランプだけが点灯し、他のランプは消灯。
ランプ表示が上記以外の状態になる場合は、以下の項目を確認してください。

状 況	対 策
B 1 と B 2 のランプが点滅する。	<内蔵DSUを利用するとき> - ISDN回線のモジュージャックと mini-S の「ISDN U」点を付属のISDN Uケーブルで接続します。 「DSU」スイッチをONにして電源を入れ直してください。 ⇒ それでも点滅するときは「REV/NOR」スイッチを切り替えてから電源を入れ直してください。 ⇒ それでも点滅するときはISDN回線の異常です。 <外付けDSUを利用するとき> - DSUのTERMINAL端子とmini-Sの「ISDN S/T」点をISDNケーブルで接続します。 「DSU」スイッチをOFFにします。 - 電源を入れ直してください。 ⇒ それでも点滅するときは ISDN回線の異常です。
ランプが点灯しない。 正常にランプが点灯・点滅しない。	mini-SまたはACアダプタの故障の可能性があります。 技術サポートセンターまでお問い合わせください。

④ 注意

- ISDN 回線を接続していないときに電源を入れて B 1、B 2 ランプが点滅するのは正常動作です。
- ISDN 回線 (INS ネット 64) に切り替えてから mini-S を接続してください。アナログ回線に mini-S を接続しても動作しませんのでご注意ください。

電話、FAX、モデム を試してみよう



アナログ電話機での電話のかけ方と受け方、その他のアナログ通信機器の基本的な使い方について説明します。

ここでは、以下のような表現を使います。

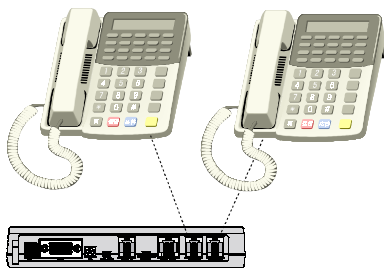
〔簡単〕 P.xx : 簡単設定ユーティリティの設定例の記載ページ

〔電話 / A T〕 P.xx : 電話機と A T コマンドの設定例の記載ページ

■ 電話やFAXを使う前に

購入時設定で電話の発信・着信が可能ですが、接続する台数やNTTとの契約内容によって設定が必要になる場合があります。

● 電話機を2台接続する



★i・ナンバーを契約しているとき

購入時設定で、契約者回線番号は「ANALOG1 (ポート 1)」、追加番号は「ANALOG2 (ポート 2)」に着信します。

★i・ナンバー未契約のとき

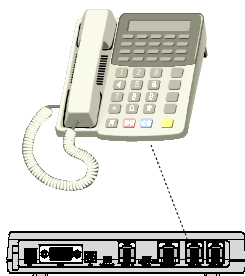
購入時設定では、着信があると「ANALOG1 (ポート 1)」と「ANALOG2 (ポート 2)」を同時に呼び出します。

★ダイヤルイン契約をしているとき

購入時設定では、着信があると「ANALOG1 (ポート 1)」と「ANALOG2 (ポート 2)」を同時に呼び出します。ダイヤルインを利用する場合は設定が必要です。

設定方法は、[簡単] P.70～73 [電話 / A T] P.108～110 を参照してください。

● 電話機を1台だけ接続する



着信する ANALOG1/2 (ポート 1/2) を指定する設定が必要です。

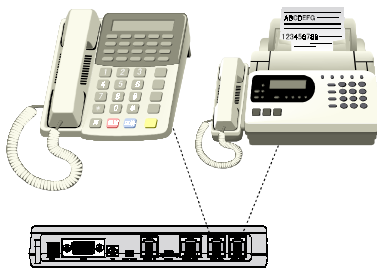
設定方法は、[簡単] P.70～73 [電話 / A T] P.108～110 を参照してください。

★購入時設定では

着信があると、「ANALOG1 (ポート 1)」と「ANALOG2 (ポート 2)」を同時に呼び出します。

したがって、電話中に他の着信があると、電話機が接続していない ANALOG1/2 (ポート 1/2) を呼び出してしまおうので、電話をかけた相手先には呼出音が鳴り続けてしまいます。

●電話機とFAXを接続する



i・ナンバーまたはダイヤルイン契約をお勧めします。

FAXを接続するANALOG1/2 (ポート 1/2) に接続機種の設定が必要です。接続機種の設定についてはP.132を参照してください。

★i・ナンバーを契約しているとき

購入時設定で、契約者回線番号は「ANALOG1 (ポート 1)」追加番号は「ANALOG2 (ポート 2)」に着信します。

★ダイヤルイン契約をしているとき

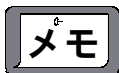
購入時設定の状態では、着信があると「ANALOG 1 (ポート 1)」と「ANALOG2 (ポート 2)」を同時に呼び出します。

したがって、電話の着信であっても、FAXが自動着信であれば着信してしまいます。

ダイヤルインを利用する場合は設定が必要です。設定方法は、【簡単】P.70～73 【電話 / A T】P.108～110を参照してください。

◎i・ナンバー、またはダイヤルインで 電話とFAXの着信を使い分ける

i・ナンバー、またはダイヤルインを契約すると、契約者回線番号の他にもう1つ電話番号(追加番号)がもらえます。契約者回線番号を電話の着信用に、追加番号をFAX着信用になど使い分けることができます。



- ・ i・ナンバー、またはダイヤルインは、NTTとの契約が必要になります。
- ・ ビジネスホンやホームテレホンは、正常に動作しないことがあります。

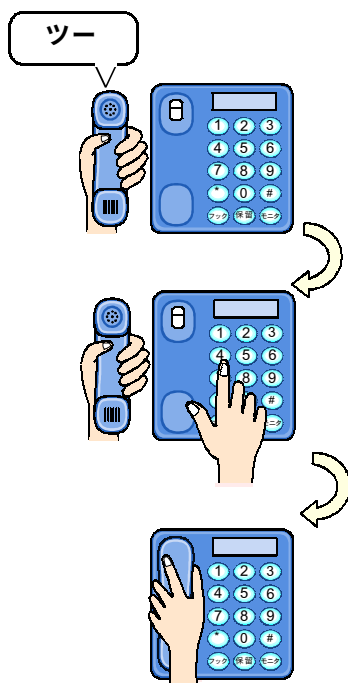
■電話を使う

●電話をかける

mini-Sの「ANALOG1 (ポート 1)」または「ANALOG2 (ポート 2)」に電話機を接続してあるか、または「I SDN S/T」点にデジタル電話機など通信可能な機器を接続してあるかを確認してください。

注意

発信ができる (電話をかけられる) 電話機は、プッシュボタン (PB) 信号のものであります。電話機のスイッチなどで切り替えが必要な場合があります。詳しくは電話機の取扱説明書をご覧ください。



1. 受話器をとり、発信音を確認してください。

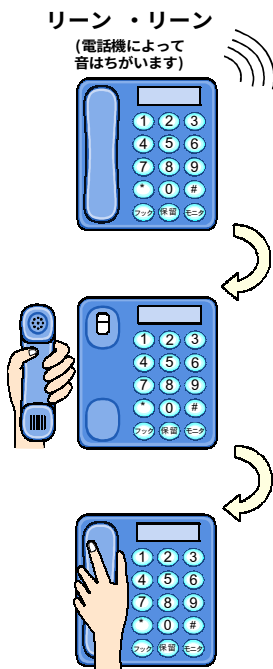
2. 相手先の電話番号をダイヤルします。

3. 電話が終わったら受話器を戻します。



- 電話番号を押した後すぐに発信するには、ダイヤルの最後に **#** を押してください。
- **#** を押さないときは「発信までの時間 (桁間タイマー)」(簡単設定 : ポート毎設定 / 電話機設定コード: 41 / AT コマンド: @G) (P.132) の設定値 (購入時設定 5 秒) 後に発信します。
- サブアドレス付きで発信するときは電話番号の後に *****、「サブアドレス」の順にダイヤルしてください。
- ダイヤルしても「ツー」という発信音が消えないときは、電話機がプッシュボタン (PB) 信号の設定になっていないことがありますので、電話機の取扱説明書を参照して確認してください。

●電話を受ける



1. 電話機の呼び出し音が鳴っています。
2. 受話器をとって通話してください。
3. 電話が終わったら受話器を戻します。

■ FAX を使う

mini-S の「ANALOG1 (ポート 1)」または「ANALOG2 (ポート 2)」に FAX (G3) が接続されているか、「ISDN S/T」点に G4-FAX が接続されているかを確認してください。



1. FAX を接続する ANALOG1/2 (ポート 1/2) の接続機器種別を FAX に設定してください。
(×モ / ※ 1)
2. FAX の送り方、受け方は FAX の取扱説明書をご覧ください。
(×モ / ※ 2)

☐ ×モ

※ 1

- ・「アナログポート接続機種」(簡単設定 : ポート毎設定 / 設定コード:32 / AT コマンド:@E) (P.132) で設定してください。
- ・「ISDN S/T」点に G4-FAX を接続した時は手順 1 の設定は必要ありません。
- ・手順 1 は最初に設定すれば、2 回目以降は設定の必要はありません。

※ 2

- ・電話番号を押した後すぐに発信するには、ダイヤルの最後に **#** を押してください。
- ・**#** を押さない時は「発信までの時間(桁間タイマー)」(簡単設定 : ポート毎設定 / 電話機設定コード : 41/AT コマンド : @G) (P.132) の設定値 (購入時設定 5 秒) 後に発信します。
- ・サブアドレス付きで発信するときは電話番号の後に *****、「サブアドレス」の順にダイヤルしてください。
- ・ダイヤルしても「ツー」という発信音が消えない時は FAX がプッシュボタン (PB) 信号の設定になっていないことがあるので、FAX の取扱説明書を参照して確認してください。

📌 注意

- ・ANALOG1/2 (ポート 1/2) に接続できる FAX は G3-FAX に限ります。G4-FAX は「ISDN S/T」点に接続してください。
- ・発信ができる G3-FAX はプッシュボタン (PB) 信号のするものに限り、G3-FAX のスイッチなどで切り替えが必要な場合があります。詳しくは G3-FAX の取扱説明書をご覧ください。

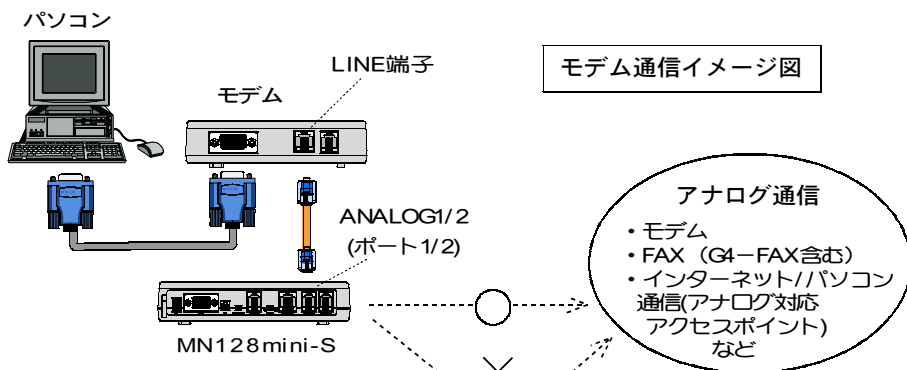
■ モデムを使う

- ・ モデムはアナログ機器です。したがって、mini-S の ANALOG1/2 (ポート 1/2) に接続し、モデムとパソコンの接続が必要になります。
- ・ 購入時設定では、接続する機器種別の設定が「電話」になっています。モデムを接続する ANALOG1/2 (ポート 1/2) には「アナログポート接続機種」の設定 (P.132) が必要です。

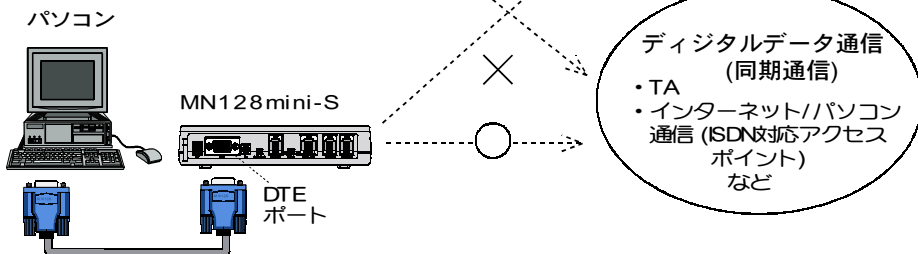
⚠ 注意

- ・ 接続先がアナログ回線対応の通信機器 (モデム・FAX (G4-FAX含む) など) のときは、mini-S の ANALOG1/2 (ポート 1/2) にモデムを接続して、モデムから発信しないと接続できません。
 - ・ mini-S から直接 FAX の送受信などはできません。下図を参照してください。
- ※ RVS-COM を利用する場合は、mini-S から直接 FAX の送受信が可能です。

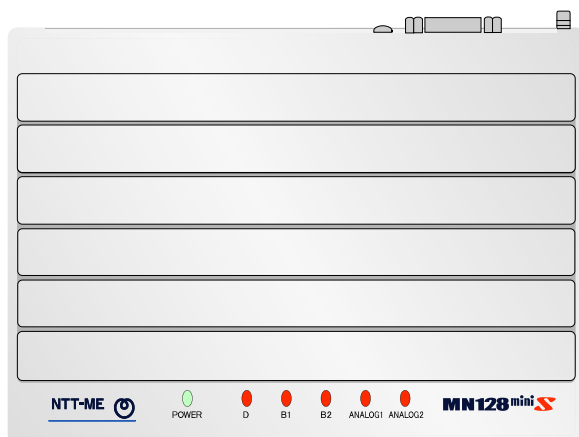
◎ MN128mini-S のアナログポートに接続したモデムから通信するとき



◎ MN128mini-S から直接通信するとき



便利な機能を使ってみよう (アナログ編)



mini-Sが持つさまざまな機能を使う方法を説明します。
ここでは、以下のような表現を使います。

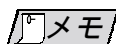
[簡単] P. xx : 簡単設定ユーティリティの設定例の記載ページ

[電話 / A T] P. xx : 電話機とA Tコマンドの設定例の記載ページ

■ i・ナンバーを利用する

● i・ナンバーとは

i・NS ネット 64 × 1 回線で 2 つの電話番号を利用できるサービスです。発信者がダイヤルする電話番号に応じて、予め決められた mini-S の ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) に着信させられます。



- ・ i・ナンバーサービスの詳細については、NTT にお問い合わせください。
- ・ mini-S で i・ナンバーサービスを利用するには、NTT と契約が必要です。

● i・ナンバーを利用するには

mini-S のかんたん利用モード (購入時設定) で i・ナンバーを利用できます。i・ナンバー契約をしている i・NS ネット 64 回線に購入時設定で mini-S を接続した場合、契約者回線番号は ANALOG1 (ポート 1) へ、追加番号は ANALOG2 (ポート 2) へ着信します。

NTT と発信者番号を通知する契約の場合には、ANALOG1 (ポート 1) から発信したときには契約者回線番号を、ANALOG2 (ポート 2) から発信したときには追加番号を相手先に通知します。また、カスタム利用モードの場合、番号によって着信する ANALOG1/2 (ポート 1/2) を変えたり、発信時に通知する電話番号を変えるなど詳細な設定ができます。



- ・ ダイヤルインサービスとの併用はできません。
- ・ mini-S の 購入時設定では i・ナンバーを使う設定になっていますが、i・ナンバー契約をしていない i・NS ネット 64 回線に mini-S を接続しても問題なく動作します。
- ・ 発信時、着信時の動作の詳細は、以下の「発信時の動作」、「着信時の動作」、「着信時の関連コマンドとの競合条件と動作」を参照してください。

◎発信時の動作

i・ナンバー契約時に、ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) から発信時に、設定によって通知する電話番号とサブアドレスが次のように変わります。i・ナンバー未契約時は、「i・ナンバー利用設定」(64/AT#M) の内容に関わらず設定通りに動作します。

i・ナンバー利用設定 (AT#Mn)	発信する アナログポート	通知する 電話番号	通知する サブアドレス
かんたん利用モード (n=0：購入時設定)	ANALOG1 (ポート1)	契約者回線番号	通知不可
	ANALOG2 (ポート2)	追加番号	
カスタム利用モード (n=1)	ANALOG1 (ポート1)	契約者回線番号	サブアドレスの 登録(51/AT@J) の設定内容を 通知
	ANALOG2 (ポート2)	追加番号	
i・ナンバーを利用しない (n=2)	ANALOG1 (ポート1)	契約者回線番号	
	ANALOG2 (ポート2)		

※ 通知する電話番号は「発信者番号の設定」(81/AT@T1) で変えられます。

- ・「かんたん利用モード」に設定されているとき、「発信者番号の設定」(81/AT@T) は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号 0、追加番号はダイヤルイン登録番号 1 として設定します。
簡単設定ユーティリティ / 電話機 / A T コマンドで発信者番号の設定を変更するときは、「回線番号の登録」(43/AT@I) で、ダイヤルイン登録番号 0 に契約者回線番号、ダイヤルイン登録番号 1 に追加番号を登録する必要があります。
- ・「カスタム利用モード」に設定されているとき、「発信者番号の設定」(81/AT@T)、「サブアドレスの登録」(51/AT@J) は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号 0、追加番号はダイヤルイン登録番号 1 として設定します。
簡単設定ユーティリティ / 電話機 / A T コマンドで発信者番号の設定を変更するときは、「回線番号の登録」(43/AT@I) で、ダイヤルイン登録番号 0 に契約者回線番号、ダイヤルイン登録番号 1 に追加番号を登録する必要があります。
- ・i・ナンバー契約時に、「i・ナンバーを利用しない」設定にしていると、購入時設定では契約者回線番号を通知します。
「発信者番号の設定」(81/AT@T)、「サブアドレスの登録」(51/AT@J) の設定は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号 0、追加番号はダイヤルイン登録番号 1 として設定します。
簡単設定ユーティリティ / 電話機 / A T コマンドで発信者番号、またはサブアドレスの設定を変更するときは、「回線番号の登録」(43/AT@I) で、ダイヤルイン登録番号 0 に契約者回線番号、ダイヤルイン登録番号 1 に追加番号を登録する必要があります。
- ・i・ナンバーに契約していて、「発信者番号通知の設定 - 通常通知」(93r1/AT@Yr=1)を設定して発信もしくは、「発信者番号通知の設定 - 通常非通知」(93r2/AT@Yr=2) を設定して「186」を付加して発信したとき、「発信者番号の設定」(81/AT@T)と「回線番号の登録」(43/AT@I) も合わせて設定しないと、ANALOG2 (ポート 2) からでも契約者回線番号を通知します。

◎着信時の動作

i・ナンバー契約時、設定によってアナログ着信時の動作が下記のように違います。i・ナンバー未契約時は、「i・ナンバー利用設定」(64/AT#M) の設定内容は無効です。ただし、「カスタム利用モード」(641/AT#M1) を設定すると、自動的に「契約者回線番号の着信ポート =1」(5201/AT@K0=1)、「追加番号の着信ポート =2」(5212/AT@K1=2) が設定されます。

i・ナンバー利用設定 (AT#Mn)	着信する 電話番号	着信する アナログポート	サブアドレス付き 着信時の動作
かんたん利用モード (n=0: 購入時設定)	契約者回線番号	ANALOG1 (ポート1) (変更不可)	サブアドレスを 無視して着信
	追加番号	ANALOG2 (ポート2) (変更不可)	
カスタム利用モード (n=1)	契約者回線番号	ANALOG1 (ポート1) (※1)	サブアドレスの 設定(51/AT@J)と 比較して着信
	追加番号	ANALOG2 (ポート2) (※2)	
i・ナンバーを利用しない (n=2)	契約者回線番号	両ポート (※1)	
	追加番号	両ポート (※1)	

※1.着信するポートは「着信ポートの設定」(52/AT@K0)で変えられます。

※2.着信するポートは「着信ポートの設定」(52/AT@K1)で変えられます。

○かんたん利用モード

- ・「かんたん利用モード」に設定されているとき(購入時設定)、「話中着信の設定」(62/AT@N)はすべて「話中着信する」に設定されています。(AT@Cで設定内容を表示しても、「話中着信しない」になっていますが、「話中着信する」と同様の動作になります。)着信時の呼び出し音は「外線呼び出し音の設定」(61/AT@M)の「呼び出し音1」固定になります。ただし「擬似なりわけサービス」(92/AT@X)が設定されている場合は、擬似なりわけの設定が優先されます。フレックスホンの着信転送は利用できません。
- RVS-COMを利用する場合、電話機操作でFAXを受信できます。「RVS-COMモードの設定」(35/AT#E)で「電話機操作で転送/時間で自動転送」(購入時設定)、「RVS-COMへの自動転送時間の設定」(36/AT#F)で「転送しない」に設定されているときと同じ動作になります。また、「RVS-COMモードの設定」(35/AT#E)と「RVS-COMへの自動転送時間の設定」(36/AT#F)は変えられません。

○カスタム利用モード

- ・「カスタム利用モード」に設定されているとき、「着信ポートの設定」(52/AT@K)、「サブアドレスの登録」(51/AT@J)の設定は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号0、追加番号はダイヤルイン登録番号1として設定します。このとき、「回線番号の登録」(43/AT@I)で電話番号を登録する必要はありません。
- カスタム利用モードを設定すると、ダイヤルイン登録番号0をANALOG1(ポート1)に着信させる設定(5201/AT@K0=1)とダイヤルイン登録番号1をANALOG2(ポート2)に着信させる設定(5212/AT@K1=2)が同時設定されます。ANALOG1(ポート1)優先着信(5204/AT@K0=4)などの設定をする場合、「カスタム利用モード」(AT#M1)を設定した後に「着信ポートの設定」(52/AT@K)を変えてください。ANALOG1(ポート1)優先着信(5204/AT@K0=4)などの設定をした後に「カスタム利用モード」(AT#M1)を設定すると、「着信ポートの設定」(52/AT@K)でダイヤルイン登録番号0をANALOG1(ポート1)に着信させる設定(5201/AT@K0=1)とダイヤルイン登録番号1をANALOG2(ポート2)に着信させる設定(5212/AT@K1=2)が上書きされます。また、着信時の呼び出し音は「外線呼び出し音の設定」(61/AT@M)で変えられます。

○ i・ナンバーを利用しない

- i・ナンバー契約時に、「i・ナンバーを利用しない」に設定にしていると、2つの電話番号で異なる設定はできません。契約者回線番号、追加番号の2つの電話番号ともダイヤルイン登録番号0として設定します。したがって、2つの電話番号で ANALOG1 (ポート 1) と ANALOG2 (ポート 2) に着信を鳴り分けることはできません。また、「グローバル着信の設定」(72/AT@R) で「使わない」に設定すると着信できません。

○その他

- データ通信の着信時には、グローバル着信と同様の着信になります。したがって、「ダイヤルイン追加番号の登録/削除」(AT\$C) は無効です。「グローバル着信の可否」(AT!E) で「グローバル着信しない」(n=0) に設定すると着信できません。

◎着信時の関連コマンドとの競合条件と動作

i・ナンバー契約時に「i・ナンバー利用設定」(64/AT#M) の設定によって以下のコマンドは着信時の動作が違います。i・ナンバー未契約時は、「i・ナンバー利用設定」(64/AT#M) の設定に関わらず、設定通りの動作になります。

設定項目	コマンド	かんたん利用モード (AT#M0)	カスタム利用モード (AT#M1)
ダイヤルイン	43/AT@I	無効	無効
サブアドレス	51/AT@J	無効	有効
着信ポートの設定	52/AT@K	無効 契約者回線番号はANALOG1 (ポート1) 追加番号はANALOG2 (ポート2) に着信	有効
外線呼び出し音	61/AT@M	無効 (「92/AT@X」が優先) 呼び出し音 1 で固定	有効
話中着信	62/AT@N	無効 話中着信許可で固定	有効
擬似キャッチホン	63/AT@O	有効	有効
フレックスホン	71/AT@P	着信転送以外は有効	有効
着信転送先	01/AT@Q	無効	有効
電話番号の登録			
グローバル着信	72/AT@R	無効	無効
相手先番号登録	83/AT@V	有効	有効
相手先サブアドレス	91/AT@W	有効	有効
擬似なりわけ	92/AT@X	有効	有効
RVS-COMモード	35/AT#E	無効 電話機操作で転送は可能	有効
RVS-COM自動転送 時間の設定	36/AT#F	無効 n=00 (パソコンへ転送 しない) と同様の動作	有効

- 上記で有効なコマンドを設定する場合、契約者回線番号をダイヤルイン登録番号0、追加番号をダイヤルイン登録番号1として設定します。
- 上記で無効な設定をした場合、設定はされますが設定内容が無視して動作します。

■フレックスホンを利用する

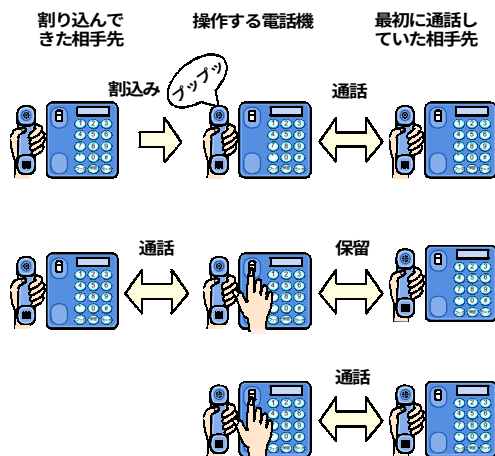
フレックスホンとは NTT の INS ネット 64 の付加サービスで、「キャッチホン (コールウェイティング)」「三者通話」「着信転送」「通信中転送」の4つのメニューがあります。利用するにはそれぞれ NTT との契約が必要です。

mini-S は、4つのメニュー全てに対応しています。

●キャッチホン (コールウェイティング)

通話中に着信があったとき受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチまたは電話機の「フラッシュ」などのボタンを押すことで通話を切り替えるられます。

使い方は、以下の通りです。



1. 通話中に話中着信音が聞こえます。

2. 電話機の **フック** を押します。
通話中だった相手を保留し、話中着信の相手との通話に切り替わります。

3. もう一度電話機の **フック** を押すと元の相手との通話に戻ります。

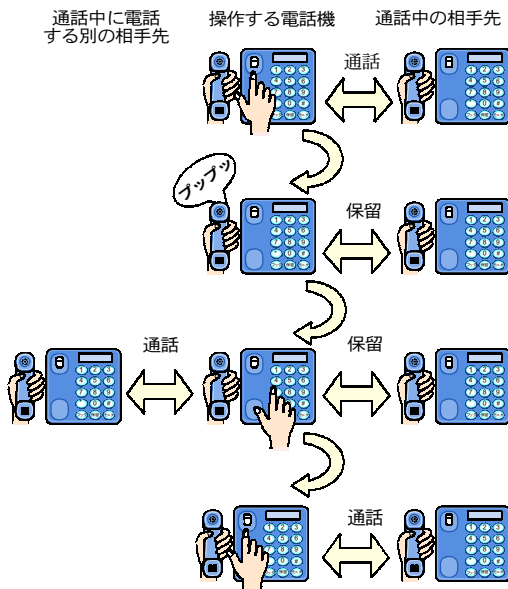
メモ

- ・ 設定方法は、[簡単] P.76 [電話 / A T] P.112 を参照してください。
- ・ NTT との INS ネット 64 の契約内容で「通信中着信通知サービス」が許可、「ユーザ間情報通知サービス」を着信許可にする必要があります。
- ・ **フック** は、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
- ・ mini-S の擬似キャッチホン機能を利用する設定のときはキャッチホンは使えません。
- ・ キャッチホンを設定しているとき、割り込み着信中は内線通話 / 転送は利用できません。
- ・ フレックスホンは、NTT との契約が必要です。詳しくは NTT までお問い合わせください。

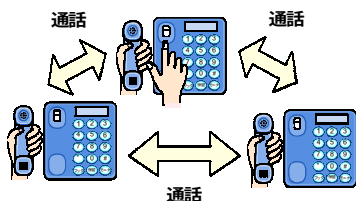
●三者通話

通話中の相手を保留して、別の相手に電話ができたり、三者で通話ができます。
使い方は以下の2通りが利用できます。

○通話中に別の相手に電話をかける



○三者で通話する



- ・ 設定方法は、[簡単] P.78 [電話 / A T] P.113を参照してください。
- ・ 三者通話は、ANALOG1 (ポート 1) と ANALOG2 (ポート 2) での同時利用はできません。

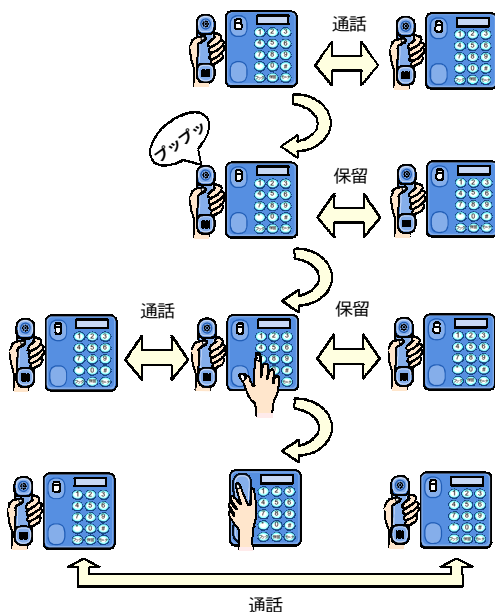
- ・ **フック** は、受話器を置くとときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
- ・ 三者通話を設定しているときは、通話中に内線通話 / 転送、RVS-COM の手動転送は利用できません。
- ・ mini-S の擬似キャッチホン機能を利用する設定のときは、三者通話は使えません。
- ・ フレックスホンは NTT との契約が必要です。詳しくは NTT までお問い合わせください。

●通信中転送

着信した電話を別の相手に転送できます。
発信した電話は別の相手に転送できません。
使い方は以下の2通りが利用できます。

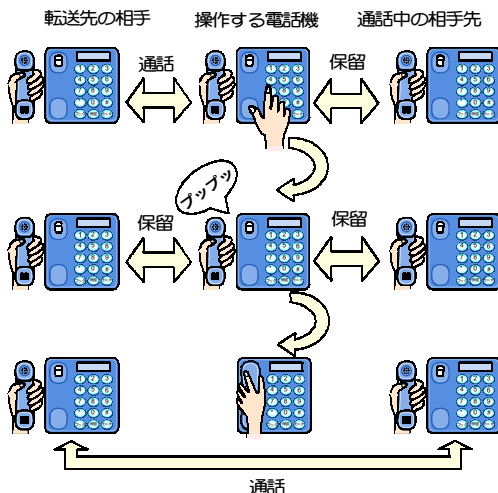
○相手先が応答する前に転送する

転送先の相手 操作する電話機 通話中の相手先



1. 通話中に **フック** を押します。
2. 第2ダイヤルトーン (フツ・フツ・フツ) が聞こえ、通話していた相手を保留します。
3. 別の相手先の電話番号をダイヤルします。
4. 相手先が応答する前に受話器をおきます。

○相手先が応答後に転送する



5. 手順1～2までは前頁と同様の手順、手順3で相手先電話番号をダイヤルし、相手先が応答します。

6. **フック**を押すと、第2ダイヤルトーン(ブツ・ブツ・ブツ)が聞こえます。

7. すぐに受話器を置きます。

メモ

- 上記手順6で第2ダイヤルトーンが聞こえているのは2～3秒です。その間に受話器を置かないときは保留中の相手先との通話に戻ります。
- 上記手順4で相手先が話し中などなんらかの理由で応答しないときは、受話器をおいた電話機のベルが鳴ることがあります。そのときに受話器を上げると元の相手との通話に戻ります。
- 設定方法は、[簡単] P.79 [電話 / A T] P.114を参照してください。
- ANALOG1 (ポート 1) と ANALOG2 (ポート 2) で同時に通信転送を利用することはできません。
- フック**は、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
- 通信転送を設定しているときは、通話中に内線通話 / 転送、RVS-COMの手動転送は利用できません。
- mini-Sの擬似キャッチホン機能を利用する設定のときは、通信転送は使えません。
- フレックスホンはNTTとの契約が必要です。詳しくはNTTまでお問い合わせください。

●着信転送

あらかじめ着信転送先の電話番号を登録しておく、着信した電話を登録されている電話番号に転送できます。使い方は以下の通りです。



1. 着信転送先の電話番号の登録、着信転送開始などの設定をします。
2. 着信があると自動的に転送されます。



- ・設定方法は、[簡単] P.80 ~ 81 [電話 / A T] P.115 ~ 116 を参照してください。
- ・i・ナンバーを契約していて「かんたん利用モード」(購入時設定) でご利用の時は利用できません。「カスタム利用モード」(641/AT#M1) に移行してから着信転送の設定をしてください。設定例は P.115 ~ 116 を参照してください。
- ・mini-S の擬似キャッチホン (631/AT @ O1) と着信転送 (711/AT@P1) を同時に設定した場合、着信ポートの設定 (52/AT@K) によって以下のように動作します。
 - (1)「着信ポート」の設定が「着信転送先」に設定されてとき (52q6/AT@Kq=6) は、着信転送が利用できます。
 - (2)「着信ポート」の設定が「着信転送先」以外に設定されているときは、擬似キャッチホンが利用できます。
- ・フレックスホンは NTT との契約が必要です。詳しくは NTT までお問い合わせください。

■発信者番号通知サービスを利用する

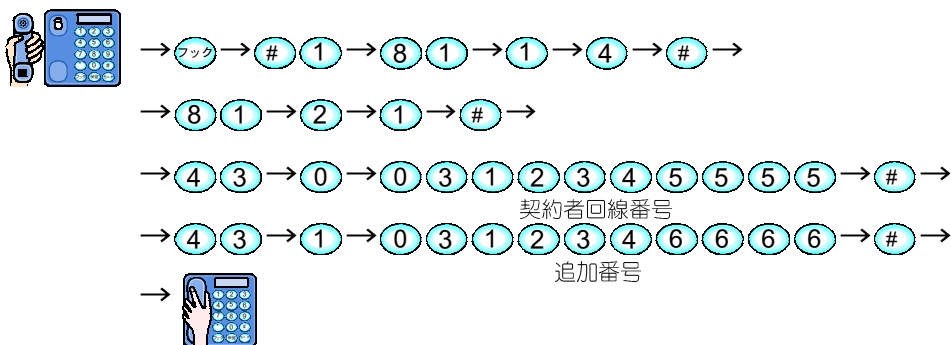
NTT との INS ネット 64 の契約内容で発信者番号通知、すなわち相手先に自分の電話番号を通知するか通知しないかをどのようにするか選べますが、mini-S では「通話ごとと非通知」または「回線ごとと非通知」の契約内容とは無関係に相手先に電話番号を通知するか通知しないかを設定できます。

NTT との契約内容と mini-S の設定 (「発信者番号通知の設定」(93/AT@Y)) の関係

NTTとの契約	mini-Sの設定	相手の電話番号の前に…	発信者番号 (81/AT@T) の通知
常時非通知	無関係	無関係	しない
通話ごとと非通知 (呼毎通知許可)	NTTとの契約による (93r0/AT@Yr=0)	(何もなし)	する (※1)
	通常通知 (93r1/AT@Yr=1)	「184」をダイヤル	しない
	通常非通知 (93r2/AT@Yr=2)	(何もなし)	する (※2)
		「186」をダイヤル	しない
回線ごとと非通知 (呼毎通知拒否)	NTTとの契約による (93r0/AT@Yr=0)	(何もなし)	する (※1)
	通常通知 (93r1/AT@Yr=1)	「184」をダイヤル	しない
	通常非通知 (93r2/AT@Yr=2)	(何もなし)	する (※2)
		「186」をダイヤル	しない

- ※ 1. i・ナンバー契約時、「かんたん利用モード」(購入時設定) または「カスタム利用モード」のときには、ANALOG1 (ポート 1) から発信したときは契約者回線番号、ANALOG2 (ポート 2) から発信したときは追加番号を相手先に通知します。
- ※ 2. i・ナンバー契約時、「発信者番号通知の設定」(93m/AT@Yr=n) で「通常通知」(n=1) または「通常非通知」(n=2) に設定したとき、「発信者番号の設定」(81/AT@T) と「回線番号の登録」(43/AT@I) も設定しないと ANALOG2 (ポート 2) から発信しても契約者回線番号を通知します。(「通常通知」のときは「186」を付加した場合)

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

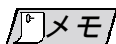
AT@T1=4

AT@T2=1

AT@I0=契約者回線番号

AT@I1=追加番号

AT@B



- ・ 設定方法は、[簡単] P.83 ~ 85 [電話 / A T] P.118 ~ 119 を参照してください。
- ・ NTT との契約が「常時非通知」の契約の場合は、mini-S の設定に関わらず相手先に電話番号は通知されません。

- 相手に通知する番号は、「発信者番号の設定」(81/AT@T) と「回線番号の登録」(43/AT@I) の設定内容にしたがって通知します。何も設定していないときは、契約者回線番号を通知します。
- ダイヤル番号の前に「186」を付加したときは NTT との契約が「通話ごと非通知」または「回線ごと非通知」に関わらず相手先に電話番号を通知します。



186 + △△△△ - ○○○○

- ダイヤル番号の前に「184」を付加したときは NTT との契約が「通話ごと非通知」または「回線ごと非通知」に関わらず相手先に電話番号を通知しません。

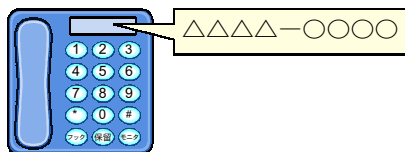


184 + △△△△ - ○○○○

■ INS ナンバー・ディスプレイを利用する

mini-S の ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) にナンバー・ディスプレイ対応電話機またはアダプタを接続し、着信があったときに相手先の電話番号を表示させることができます。

使い方は、以下の通りです。



1. ナンバー・ディスプレイ対応電話機 (アダプタ) を ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) に接続する。
2. 着信があったとき、相手先が発信者番号通知をしていれば、相手先の電話番号が表示されます。

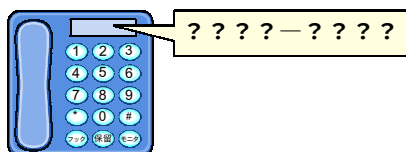
● 注意

INS ナンバー・ディスプレイを NTT の INS ネット 64 の付加サービスで利用するには、NTT との契約が必要です。

📖 メモ

- ・ 設定方法は、[簡単] P.82 [電話 / AT] P.117 を参照してください。
- ・ 手順 2 で相手の電話番号を表示できないときは、非通知理由を表示します。

■ 疑似ナンバーリクエストを利用する



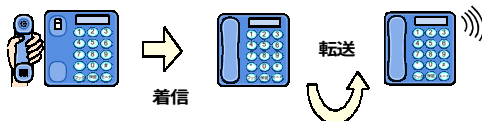
- ナンバーリクエストとは、相手先から発信者番号が通知されてこないときに「番号を通知しておかけ直してください」というメッセージを伝える NTT の付加サービスですが、mini-S の疑似ナンバーリクエストは相手先から発信者番号が通知されてこないときに、着信拒否したり、呼び出し音を指定できます。
- 設定方法は、[簡単] P.88 [電話 / A T] P.122 を参照してください。

メモ

- INS ナンバー・ディスプレイ契約をしていないときのアナログ回線からの着信、公衆電話からの着信、または、番号を通知してこない相手先には話し中の音 (プープー) が聞こえます。
- 相手先に「番号を通知しておかけ直してください」などのメッセージは流れません。

■ INS マジックボックス、INS ボイスワープを利用する

(迷惑電話お断りサービス・F ネットを利用する)



INS マジックボックス、INS ボイスワープ、迷惑電話お断りサービス、F ネットは NTT の INS ネット 64 の付加サービスで、利用するには NTT との契約が必要です。INS マジックボックス、INS ボイスワープを利用して、あらかじめ登録しておいた登録先に着信を転送できます。mini-S はステイミュラスプロトコルに対応していますので、INS マジックボックス、INS ボイスワープのカスタマコントロール機能を利用できます。したがって、転送先の電話番号の登録などを mini-S の ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) に接続しているアナログ電話機 (PB) から設定できます。

メモ

- ・カスタムコントロール機能の使い方などは INS マジックボックス、INS ボイスワープの取扱説明書を参照するか、NTT までお問い合わせください。
- ・INS マジックボックスの話中時着信を利用するときは、フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を利用する設定にしてください。
- ・INS ボイスワープセレクトにも対応しています。mini-S の設定などは INS ボイスワープと同じです。
- ・INS マジックボックス、INS ボイスワープや迷惑電話お断りサービス、F ネットを利用するためには mini-S で発信者番号通知の設定が必要な場合があります。以下の表を参照してください。

NTTとの契約	mini-S の設定	意 味
i・ナンバー契約あり	不要	購入時設定では「ANALOG1（ポート1）」から契約者回線番号、「ANALOG2（ポート2）」から追加番号を相手先に通知します。
i・ナンバー契約なし/ ダイヤルイン契約なし	不要	購入時設定で契約者回線番号を相手先に通知します。
ダイヤルイン契約あり	必要	あわせてダイヤルイン契約をしている場合は、mini-S で設定が必要です。

- ・設定方法は、[簡単] P.89～91 [電話 / A T] P.123 を参照してください。

■ 擬似キャッチホン

NTT とキャッチホンを契約しなくても同様の機能を利用できます。

使い方は、キャッチホンと同じです。P.42 を参照してください。

メモ

- ・設定方法は、[簡単] P.74～75 [電話 / A T] P.111 を参照してください。
- ・相手に保留音は流れません。
- ・空いている通信チャネル（B チャネル）を利用して話中着信するため、通信チャネルを 2 つとも使っているときは利用できません。
- ・擬似キャッチホンを設定している時の割り込み着信中は内線 / 転送、RVS-COM の手動転送は利用できません。
- ・擬似キャッチホンを利用する設定のときは、フレックスホン（着信転送以外）は使えません。

■ 内線通話

mini-SのANALOG1 (ポート 1) と ANALOG2 (ポート 2) の間で内線通話ができます。
内線通話には以下の2つの方法があります。

○ 使い方 1

1. 受話器を上げ、発信音 (ツー) を確認します。
2. **フック** ボタンを押し、第2ダイヤルトーン (プツ・プツ・プツ) を確認します。
3. **0** をダイヤルすると他の ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) を呼び出します。
4. 通話します。
5. 受話器を置くと通話が終了します。

○ 使い方 2

1. 受話器を上げ、発信音 (ツー) を確認します。
2. ***0** とダイヤルすると他の ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) を呼び出します。
3. 通話します。
4. 受話器を置くと通話が終了します。



- **フック** は、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
- 三者通話、通信中転送を設定している場合、またはキャッチホン (コールウェイティング) が擬似キャッチホンを設定している場合の割り込み着信中は内線通話 / 転送は利用できません。

■ 内線転送

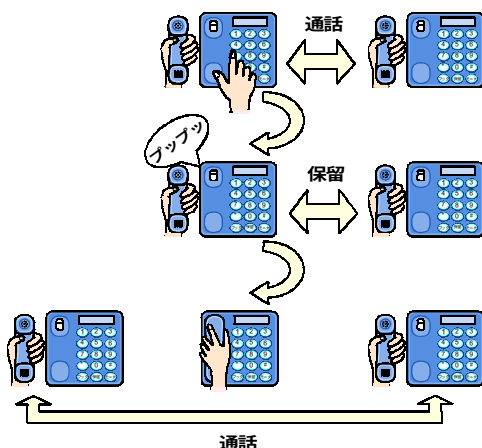
通話中の電話を他の ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) に転送できます。使い方は以下の 2 通りがあります。

○他の ANALOG1/2 (ポート 1/2) が応答する前に転送する

転送先の他の
アナログポート

操作する電話機

通話中の相手先



1. 通話中に **フック** を押します。

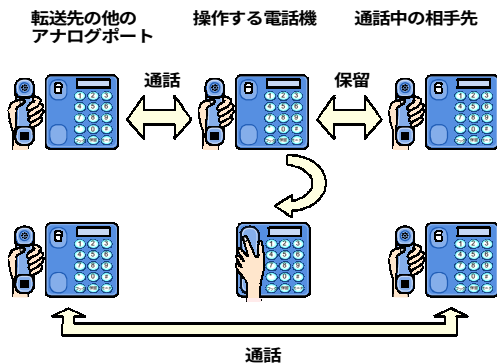
2. 第2ダイヤルトーン (プツ・プツ・プツ) が聞こえているときに **0** をダイヤルすると他の ANALOG1/2 (ポート 1/2) を呼び出します。

3. 相手先が応答する前に受話器をおきます。

メモ

- ・ 上記 2 で相手先に保留音は流れません。
- ・ 上記 2 の状態のとき、以下の方法で転送手順中の通話を元の相手先にもどせます。
 - (1) 第2ダイヤルトーン (プツ・プツ・プツ) が聞こえているときに **フック** を押します。
 - (2) 呼び出し音が聞こえているときに **フック** を押します。
 - (3) 他の ANALOG1/2 (ポート 1/2) が話し中で話し中の音が聞こえているときに **フック** を押します。

○他の ANALOG1/2（ポート 1/2）が応答後に転送する



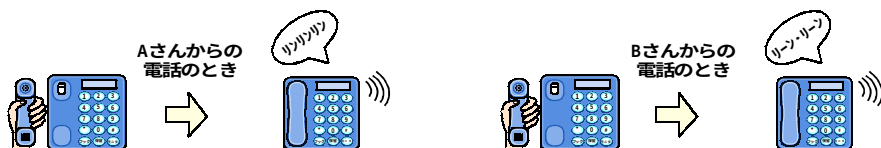
3. 1～2 までは「他の ANALOG1/2（ポート 1/2）が応答する前に転送する」（前頁）と同じ手順で、相手先が応答します。

4. 受話器をおきます。

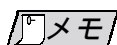
メモ

- ・ **フック** は、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
- ・ 発信したとき、着信したときに関わらず転送が可能です。
- ・ 三者通話、通信中転送を設定している場合、またはキャッチホン（コールウェイティング）が擬似キャッチホンを設定している場合の割り込み着信中は内線通話 / 転送は利用できません。

■ 擬似なりわけサービス (発信電話番号識別機能)

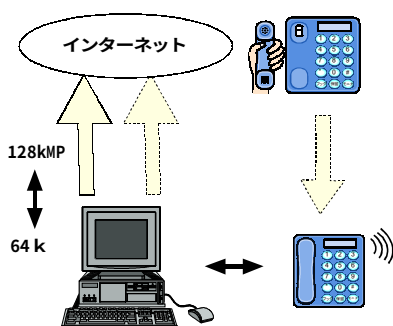


あらかじめ相手先の電話番号を登録しておき、該当する電話番号から着信があったときの呼び出し音を指定したり、着信を拒否できます。NTTの付加サービスである「なりわけサービス」と同様の機能ですが、NTTとの契約は必要ありません。



- INS ナンバー・ディスプレイを契約していないときのアナログ回線からの着信、または番号を通知してこない相手先からの着信は、なりわけできません。
- 設定方法は、[簡単] P.86 [電話 / A T] P.120 を参照してください。
- NTT の「なりわけサービス」には対応していません。

■ アナログ優先モード(リソース BOD)



パソコンを使って 128kbps で MP 通信をしているときに、アナログ通信機器を優先してBチャンネルに割り当てられます。

通常 128kbps で MP 通信を行うと、Bチャンネルを2つとも使うためアナログ通信機器を利用できませんが、この機能を利用すればアナログ通信機器を使っているときはパソコンでの通信速度を 64kbps に落とし、Bチャンネルを1つアナログ通信に割り当て、アナログ通信が終了したときにパソコンの通信速度を 128kbps に戻すなど便利な使い方ができます。



- 設定方法は、[簡単] P.87 [電話 / A T] P.121 を参照してください。
- 利用するにはNTTとのINS ネット 64の契約で「通信中着信通知サービス」を許可、「ユーザ間情報通知サービス」を着信許可にする必要があります。

■ RVS-COM を利用する

RVS-COMはドイツ RVS 社の I SDN コミュニケーションソフトウェアです。mini-S は RVS-COM に対応し、DTE ポートに接続したパソコンから直接 FAX の送受信などが可能で、FAX モデムなどが必要ありません。

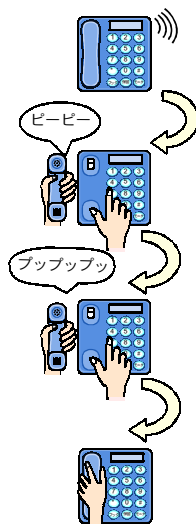
● パソコンから FAX を送信する

FAX の送信方法は RVS-COM のマニュアルを参照してください。mini-S の設定を変更する必要はありません。

● パソコンで FAX を受信する

購入時設定の状態では、下記のような手順で FAX を受信できます。

1. RVS-COM を起動して FAX を受信できる状態にします。
2. FAX が着信したときに、mini-S の ANALOG1 (ポート 1) または ANALOG2 (ポート 2) に接続している電話機がなります。
3. 受話器をあげて FAX であることを確認したら **フック** を押します。
4. 「プッププツツ」という確認音が聞こえたら **#** ***** ***** をダイヤルします。
5. 受話器を置くとパソコンが FAX を受信します。



★ RVS-COM に関するお問い合わせ

RVS-COM に関する、製品情報、使い方などのサポート情報については下記までお問い合わせください。

メガソフト株式会社
TEL 06-6386-2072 FAX 06-6386-2123
<http://www.megasoft.co.jp>

● 注意

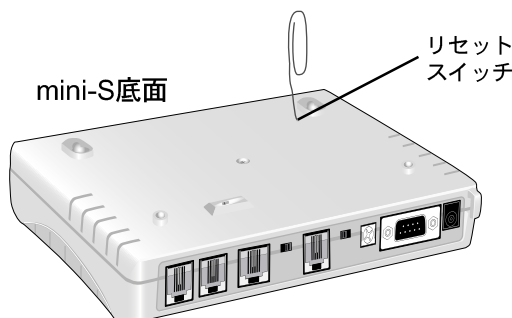
- FAX を自動で受信するには設定が必要です。設定方法は、[簡単] P.92 [電話 / A T] P.125 ~ 126 を参照してください。
- mini-S は RVS-COM を添付していません。
- RVS-COM は Windows98、Windows98 (Second Edition)、Windows95、WindowsNT4.0 に対応しています。Macintosh には対応していません。
- mini-S は RVS-COM 2000 「G4 ファックス機能」と RVS ISDN-DCP を利用したイーサネット上のパソコンからの FAX 送受信機能などは利用できません。
- i・ナンバー契約をしている場合でも、RVS-COM を複数回線で利用する設定にはできません。詳しくは、メガソフト株式会社へお問い合わせください。
- **フック** は、受話器を置くとときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
- i・ナンバー契約をしている場合、「かんたん利用モード」(購入時設定) で利用するときには、FAX の自動受信はできません。(アナログ電話機からの手動受信はできます。) 自動受信するときは、「カスタム利用モード」(641/AT#M1) に移行してから自動受信の設定をしてください。

■ 設定の初期化

- mini-S の底面にあるリセットスイッチ (小さい穴) で購入時の設定に初期化できます。

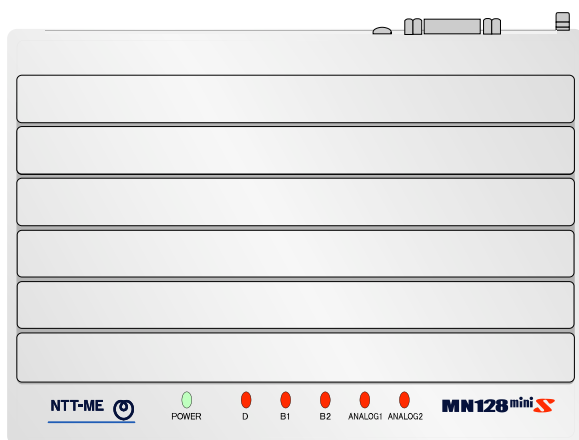
○ 初期化方法

1. mini-S の電源が入り、動作している状態で、リセットスイッチにクリップをのばして差し込み、10 秒以上押し続けます。
2. 前面の LED ランプがすべて点滅したらクリップを抜きます。
3. POWER ランプだけ点灯する状態になったら電源を OFF にして、5 秒くらいしてから ON にしてください。



簡単設定ユーティリティ

5



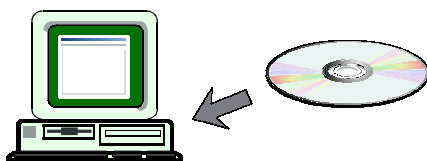
簡単設定ユーティリティのインストール、起動 / 終了の操作、設定例について説明します。

■ Windows 版簡単設定ユーティリティ

● インストール方法

- 画面はWindows98 (Second Edition) の場合の例です。
Windows98、Windows95、WindowsNT4.0の場合には、多少画面表示が異なる場合もあります。

(1) 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットしてください。



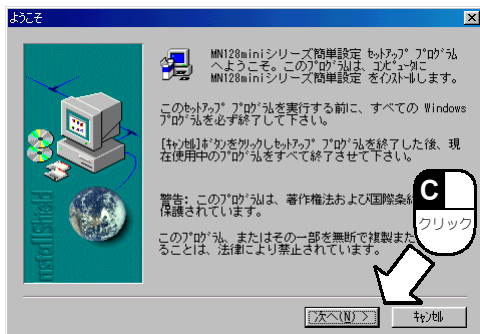
(2) ①「マイコンピュータ」→ ②「CD-ROM ドライブ (MN128MINI_S)」→ ③「Win」フォルダ → ④「Config」フォルダと、ダブルクリックして選びます。



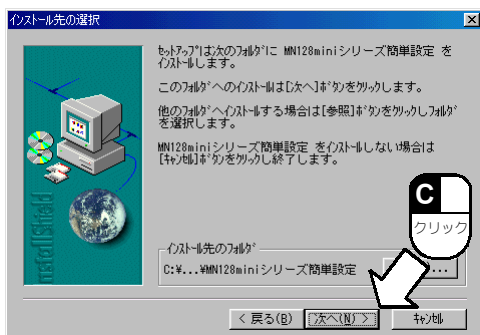
- (3) 「Config」フォルダの「SETUP.EXE」をダブルクリックします。
(「SETUP.EXE」が「Config」フォルダ中に見えないときは、右側のスクロールバーを下へドラッグしてください)

(4) 下記の画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。

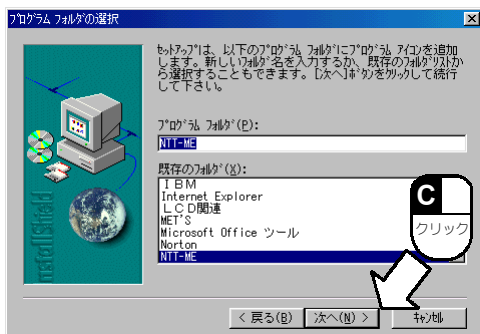
「ようこそ」の画面になったら、**次へ** をクリックします。



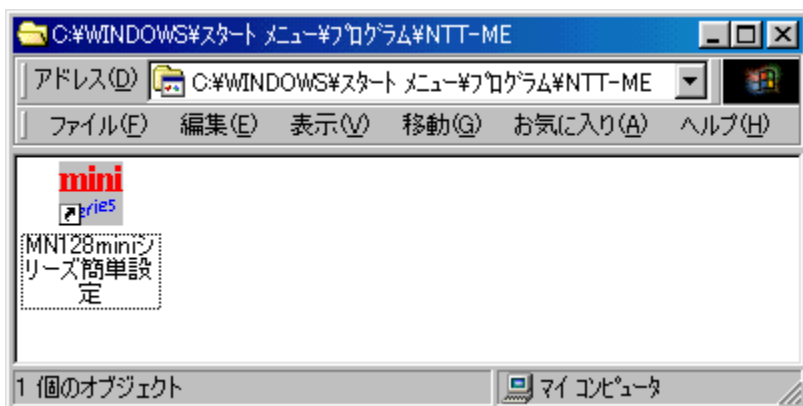
(5) 「インストール先の選択」でインストール先のフォルダを確認し、**次へ** をクリックします。



(6) 「プログラム フォルダの選択」で、**次へ** をクリックします。



- (7)「NTT-ME」フォルダが作成され、「スタート」→「プログラム」→「NTT-ME」に「MN128mini シリーズ簡単設定」が登録されます。

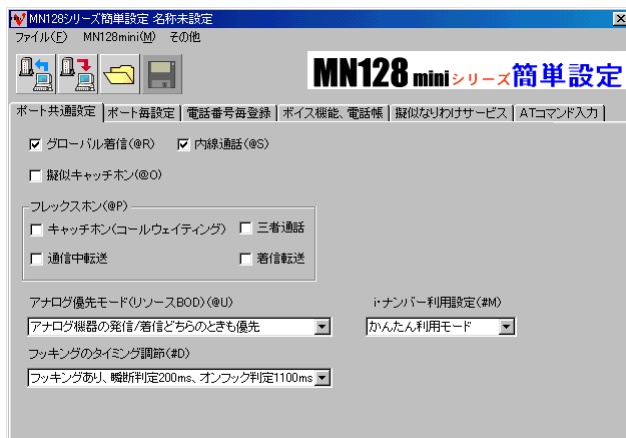


●起動と終了の方法

- (1) 「スタート」→「プログラム」→「NTT-ME」 →「MN128mini シリーズ簡単設定」を選び、簡単設定ユーティリティを起動すると、「ポート接続」の画面になります。
- (2) 簡単設定ユーティリティが mini-S と接続した後の処理を次の中から選び、**OK** をクリックします。
- ・ mini-S の現在の設定を読み込んで継続する。(通常はこれを選んでください)
 - ・ 標準(購入時)の設定を読み込んで継続する。
 - ・ 設定を初期化して購入時設定にもどして終了する。



- (3) 簡単設定の「ポート共通設定」の画面になります。この画面から、アナログポートの各種設定ができます。設定方法は、P.68以降をご覧ください。



- (4) 終了するときは、通常は  (書き込み) アイコンをクリックして設定を mini-S に書き込み、「ファイル」メニューの「終了」(または ) をクリックします。

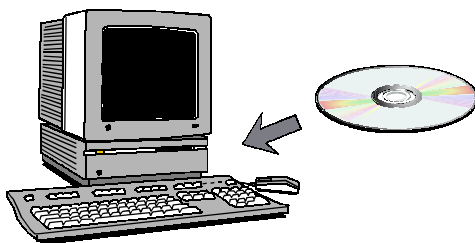


■ Macintosh 版簡単設定ユーティリティ

※ Macintosh版 動作確認OSは、MacOS8.6、MacOS8.5、MacOS8.1、MacOS8.0 です。
(すべて日本語版だけです。)

●インストール方法

- (1) 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。



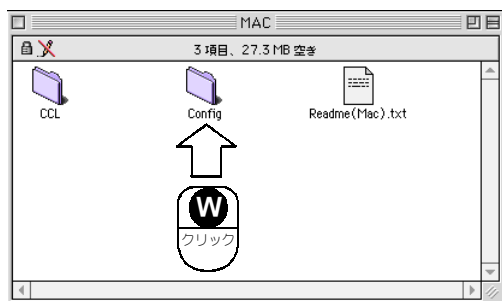
- (2) デスクトップ上の「MN128mini_S」のアイコンをダブルクリックします。



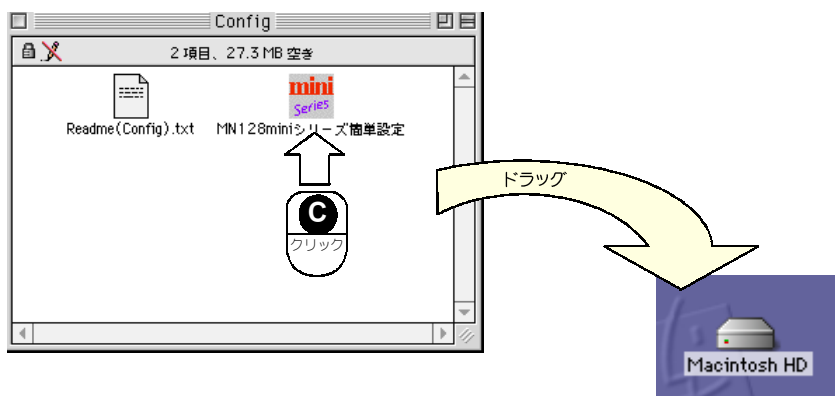
- (3) 「Mac」フォルダをダブルクリックします。



(4) 「Config」フォルダをダブルクリックします。



(5) 「MN128mini 簡単設定」アイコンをドラッグし、ハードディスクにコピーします。



●起動と終了の方法

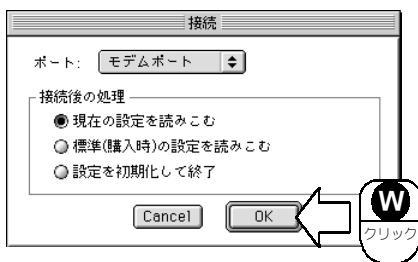
(1)「MN128mini 簡単設定」アイコンをダブルクリックします。



(2) 簡単設定ユーティリティを起動すると、「接続」の画面になります。

簡単設定ユーティリティがmini-Sと接続した後の処理を次の中から選び、**OK**をクリックします。

- ・ mini-S の現在の設定を読み込んで継続する。(通常はこれを選んでください)
- ・ 標準 (購入時) の設定を読み込んで継続する。
- ・ 設定を初期化して購入時設定にもどして終了する。



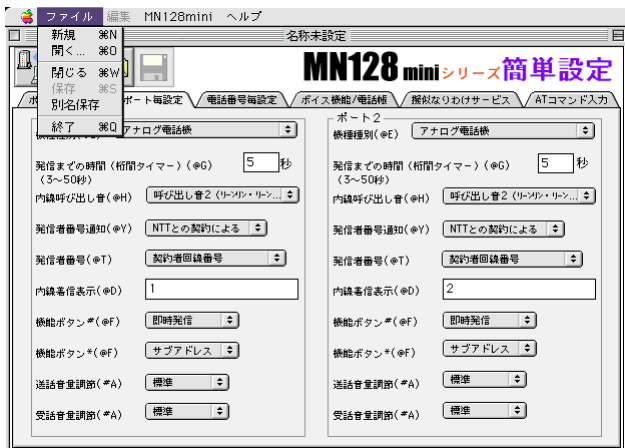
← 「ポート」は、機種によって次のどれかになります。

- ・ 「モデムポート」
- ・ 「プリンタポート」
- ・ 「モデム/プリンタポート」

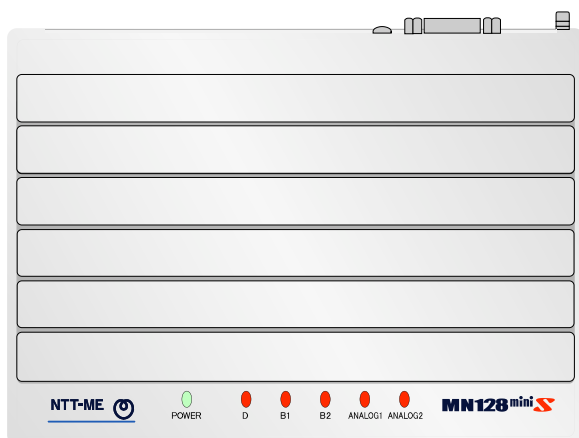
- (3) 簡単設定の「ポート 共通設定」の画面になります。この画面から、アナログポートの各種設定ができます。操作方法は、P.68 以降をご覧ください。



- (4) 終了するとき、通常は  (書き込み) アイコンをクリックして設定を mini-S に書き込み、「ファイル」メニューの「終了」を選びます。



簡単設定ユーティリティ の設定例



7

簡単設定ユーティリティの機能と設定例を説明します。

画面はWindows版ですが、Macintosh版ではデザインが違っただけで操作はほとんど同じです。違いはWindows版では画面右上の☒で終了になりますが、Macintosh版では左上のクローズボックスで終了になります。

■ 設定画面から使える機能

- ・ 設定画面から各種の機能が使えます。
- ※ Macintosh版では多少表示内容が異なります。
- ※ メニューの文字やアイコンがグレー表示のときは、その機能は使えません。
- ※ 簡単設定ユーティリティのバージョンによっては画面が異なる場合があります。

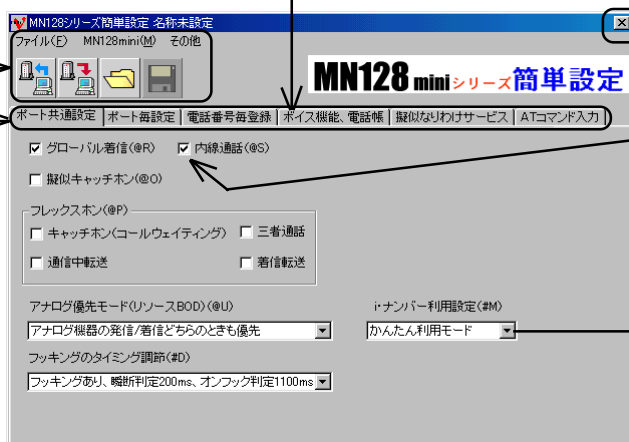
メニュー	サブメニュー	アイコン /ボタン	機 能
ファイル	新規		設定を保存する<ファイルを新しく作ります。
	開く		保存していたファイルを開きます。
	保存		「新規」または「開く」のあと設定したときは、現在の設定をファイルに保存します。その他の場合は、「名前をつけて保存」と同じです。
	名前をつけて保存		新しく設定した内容をファイルに保存します。
	終了		簡単設定ユーティリティを終します (Windows版)。
MN128mini	接続		ポートを占有して mini-S に接続します。 ※ 他のソフトウェアはこのポートが使えなくなります。
	切断		mini-S と接続していたポートを切断します。
	設定の書き込み		設定した内容を mini-S に書き込みます。
	設定の読み込み		現在の設定を mini-S から読み込みます。
	設定の初期化		購入時設定に戻します。
	オプション		新規の設定の読み込み方を次の中から選びます。 ○ TAから読み込む ○ 購入時設定を読み込む
その他 (Windows版)	バージョン情報		ファームウェアのバージョンを表示します。
 アップル メニュー (Macintosh版)	MN128mini 簡単設定について		



mini-Sとポート接続していない状態で「ボイス機能、電話帳」画面で設定値のチェックボックスが有効になっていますが、設定内容は書き込まれません。mini-Sではボイス機能、電話帳機能は利用できません。

メニューと
アイコン

タブ



終了ボタン
(Windows版)

チェック
ボックス

- ☒ 機能が有効になります。
- ☐ 機能が無効になります。

プルダウン
ボタン

- ☐ クリックで
選択候補を
表示します。

タブから選べる画面	ボタン	機 能	リファ レンス
「ポート共通設定」画面		ポート1、2に共通な設定をします。	P.129
「ポート毎設定」画面		ポート1、2にそれぞれの設定をします。	P.132
「電話番号毎設定」画面		選んだ電話番号ごとの設定をします。	—
		選んだ電話番号の設定を削除します。	—
		mini-Sでは利用できません。	—
「擬似なりわけサービス」画面		相手先の電話番号ごとの設定をします。	P.140
		相手先番号を追加します。	—
		選んだ電話番号ごとの設定をします。	—
		選んだ電話番号の登録を削除します。	—
「ATコマンド入力」画面		ATコマンドで mini-S を設定します。	P.99
		ATコマンドを mini-S に送信します。	—
		ATコマンドの表示画面を消します。	—

■ 着信ポート、ダイヤルインを設定する

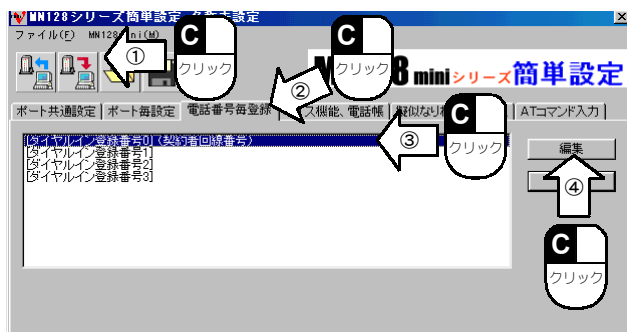
契約者回線番号「01-2345-6789」を「ANALOG1(ポート1)」に着信させる。

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

② 「電話番号毎登録」タブをクリックします。

③ 「ダイヤルイン登録番号0」をクリックします。

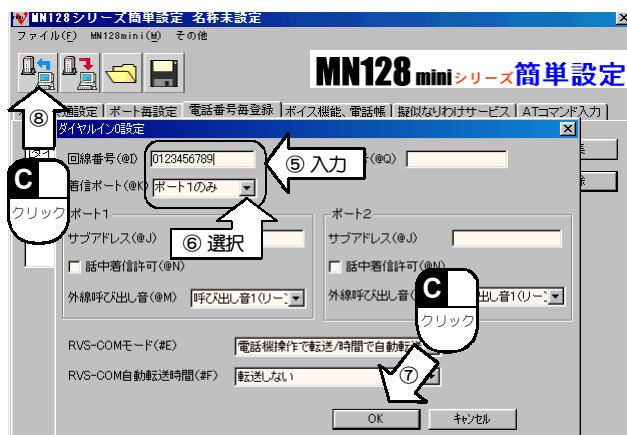
④ **編集** をクリックします。



⑤ 「ダイヤルイン0設定」画面で回線番号に契約者回線番号を入力します。

⑥ 「着信ポート」の設定で、「ポート1のみ」を設定します。

⑦ **OK** をクリックし、⑧  をクリックします。



■ 着信ポート、ダイヤルインを設定する (FAX を利用する)

「ANALOG1(ポート1)」にアナログ電話機を接続し契約者回線番号を着信させる。「ANALOG2(ポート2)」にFAXを接続し、追加番号を着信させる。

- ・ 購入時設定の状態では、i・ナンバー契約をされていて「i・ナンバー利用設定」のカスタム利用モード設定時、契約者回線番号は「ANALOG1(ポート1)」、追加番号は「ANALOG2(ポート2)」へ着信します。
- ・ i・ナンバー契約をされていて着信ポートを変えるときは、カスタム利用モードを設定してから着信ポートの設定をしてください。

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

※i・ナンバー契約をされていない場合は、④に進んでください。

② 「ポート共通設定」タブをクリックします。

③ 「i・ナンバー利用設定」で「カスタム利用モード」を選びます。



④ 「ポート毎設定」タブをクリックします。

⑤ 「ポート2」の機種種別で「FAX(G3)」を選びます。



- ⑥「電話番号毎登録」タブをクリックします。
- ⑦「ダイヤルイン登録番号1」をクリックします。
- ⑧ **編集** をクリックします。



- ⑨「回線番号」に、FAXの回線番号 (追加番号) を入力します。
- ⑩「着信ポート」で「ポート2のみ」を選びます。
- ⑪ **OK** をクリックします。



⑫ 「ダイヤルイン登録番号0」をクリックします。

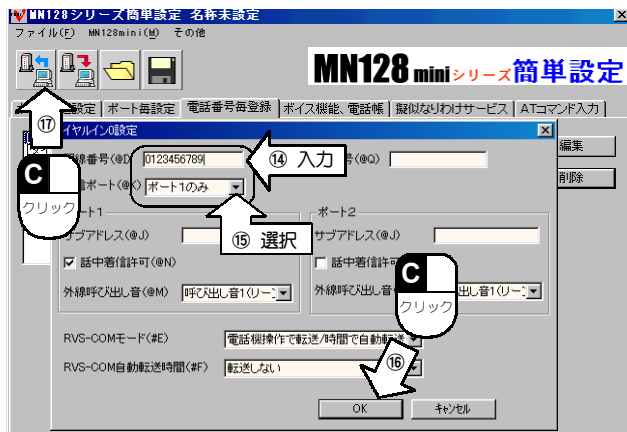
⑬ **編集** をクリックします。



⑭ 「回線番号」に電話機の回線番号 (契約者回線番号) を入力します。

⑮ 「着信ポート」で「ポート1のみ」を選びます。

⑯ **OK** をクリックし、⑰  をクリックします。



■ 擬似キャッチホンを設定する

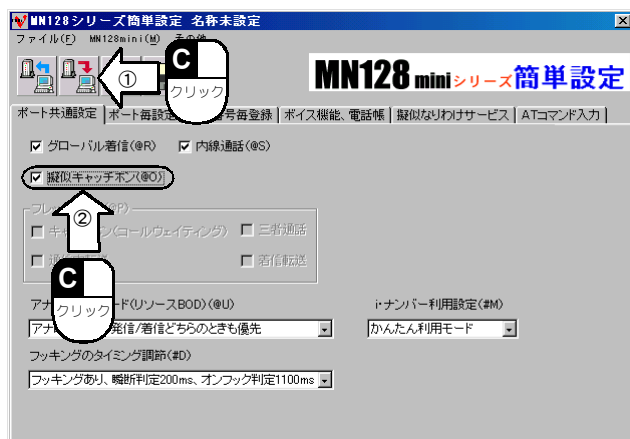
契約者回線番号を「ANALOG1(ポート1)」に着信させ、擬似キャッチホンを使う。

< i・ナンバーを契約されている場合 >

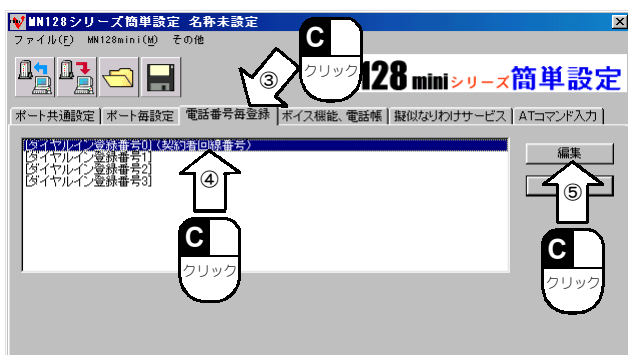
- ・ かんたん利用モード (購入時設定) では、手順③～⑧は必要ありません。
- ・ カスタム利用モードで設定するときは、手順③～⑦は必要ありません。

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

② 「ポート共通設定」タブの「擬似キャッチホン」のチェックマークをつけます。

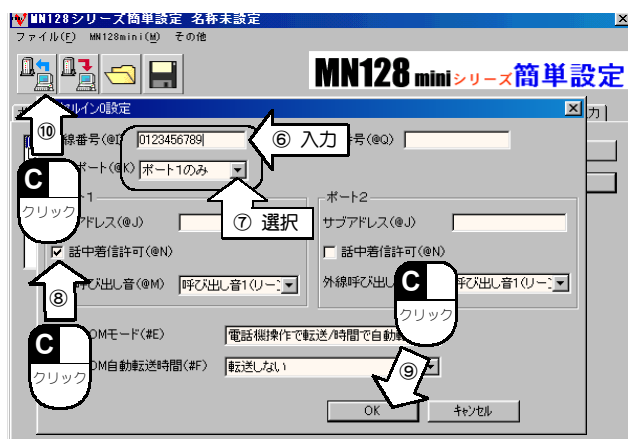


- ③「電話番号毎登録」タブをクリックします。
- ④「ダイヤルイン登録0」をクリックします。
- ⑤ **編集** をクリックします。



- ⑥「回線番号」に契約者回線番号を入力します。
- ⑦「着信ポート」で「ポート1のみ」を選びます。
- ⑧ ポート1の「話中着信許可」のチェックマークをつけます。

- ⑨ **OK** をクリックし、⑩  をクリックします。



■ フレックスホンのキャッチホン (コールウェイティング)を設定する

契約者回線番号を「ANALOG1(ポート1)」に着信させ、キャッチホン機能を利用できるようにする。

<i・ナンバーを契約されている場合>

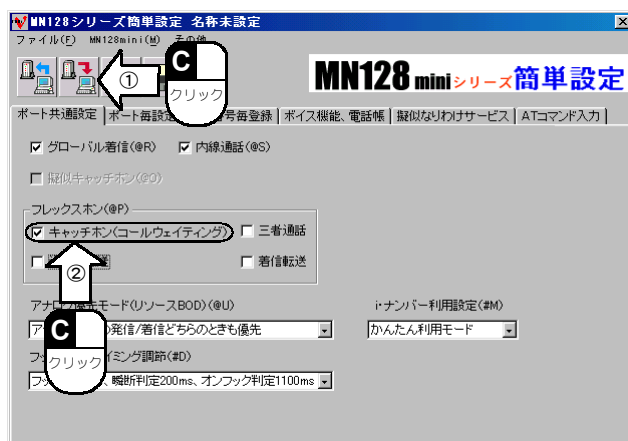
- ・ かんたん利用モード (購入時設定) では、手順③～⑧は必要ありません。
- ・ カスタム利用モードで設定するときは、手順③～⑦は必要ありません。

① 設定を読み込んでいないときは

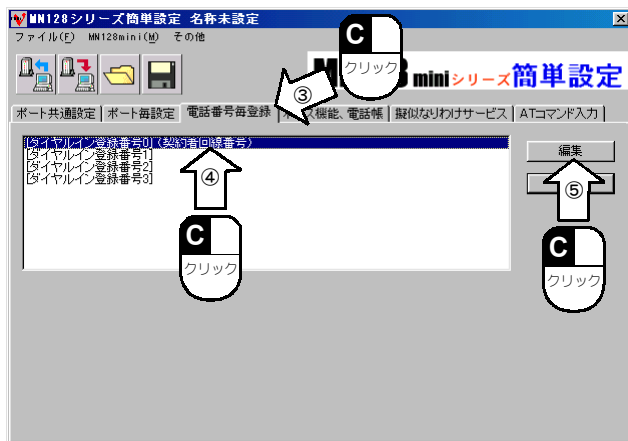


をクリックします。

② 「ポート共通設定」画面上の「フレックスホン」の「キャッチホン(コールウェイティング)」にチェックをつけます。

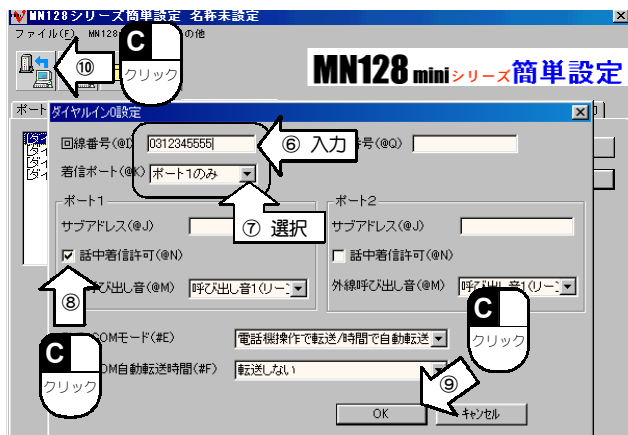


- ③「電話番号毎登録」タブをクリックします。
- ④「ダイヤルイン登録番号0」をクリックします。
- ⑤ **編集** をクリックします。



- ⑥「回線番号」に契約者回線番号を入力します。
- ⑦「着信ポート」設定で「ポート 1 のみ」を選びます。
- ⑧ ポート 1 の「話中着信許可」のチェックマークをつけます。

- ⑨ **OK** をクリックし、⑩  をクリックします。



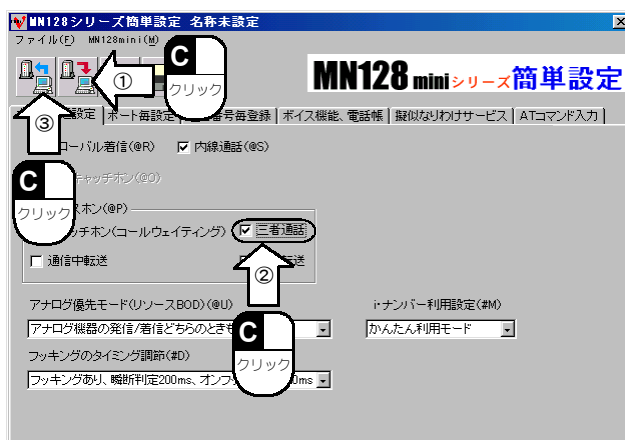
■ フレックスホンの三者通話を設定する

契約者回線番号で三者通話を利用できるようにする。

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

② 「ポート共通設定」画面上の「フレックスホン」の「三者通話」にチェックをつけます。

③  をクリックします。



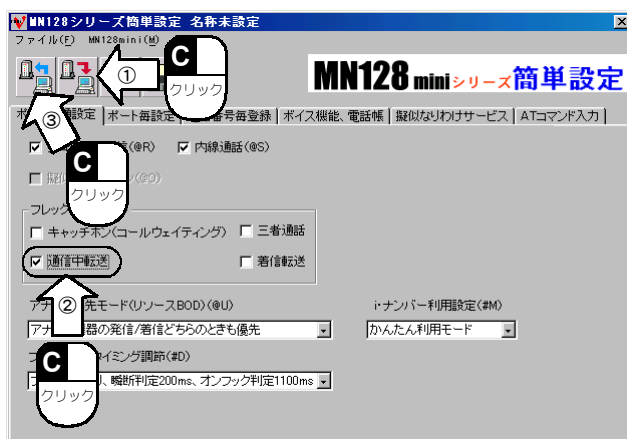
■ フレックスホンの通信中転送を設定する

契約者回線番号で通信中転送を利用できるようにする。

- ① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

- ② 「ポート共通設定」画面上のフレックスホンの「通信中転送」にチェックをつけます。

- ③  をクリックします。

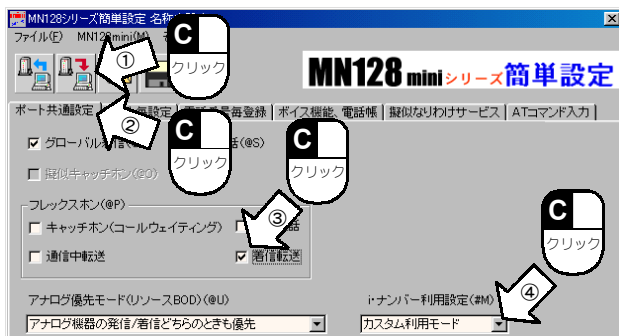


■フレックスホンの着信転送を設定する

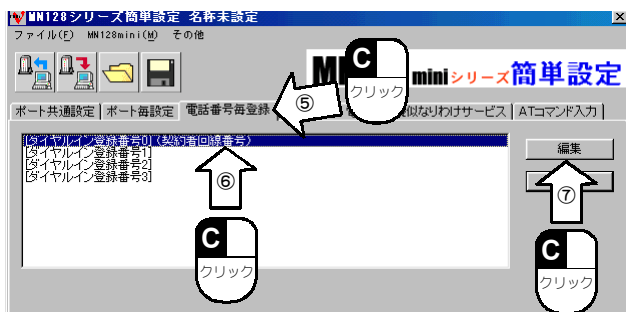
契約者回線番号への着信を「03-1234-5678」に転送する。通常は、「ANALOG1(ポート1)」へ着信する。

＜事前設定＞

- ① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。
- ② 「ポート共通設定」タブをクリックします。
- ③ フレックスホンの「着信転送」をにチェックします。
- ④ i・ナンバー利用設定で「カスタム利用モード」を選びます。(i・ナンバー契約時だけ)

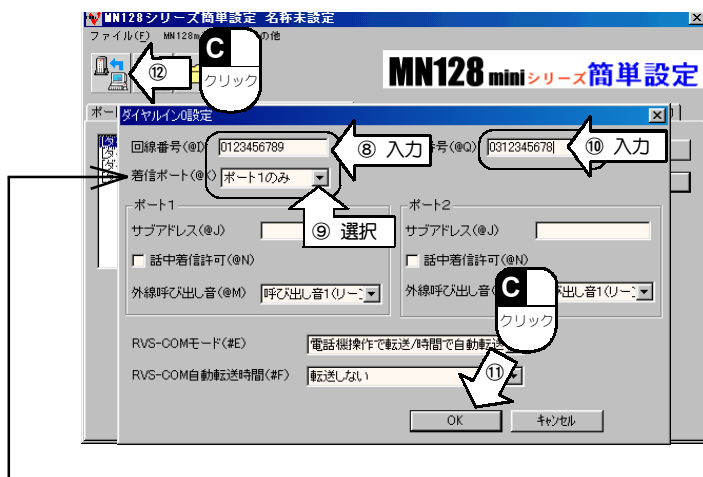


- ⑤ 「電話番号毎登録」タブをクリックします。
- ⑥ 「ダイヤルイン登録番号0」をクリックします。
- ⑦ **編集** をクリックします。



- ⑧ 「ダイヤルイン0設定画面」で回線番号に契約者回線番号を入力します。
- ⑨ 「着信ポート」で「ポート1のみ」を選びます。
- ⑩ 「着信転送番号」で転送先の電話番号を入力します。

- ⑪ **OK** をクリックし、 ⑫  をクリックします。



<転送を開始する>

以上の手順を ①→⑤→⑥→⑦ の順に進みます。

上の画面の ⑨「着信ポート」で「着信転送」を選びます。

- ⑪  をクリックし、⑫  をクリックします。

<転送を解除する>

以上の手順を ①→⑤→⑥→⑦ の順に進みます。

上の画面の ⑨「着信ポート」で「ポート1のみ」を選びます。

- ⑪  をクリックし、⑫  をクリックします。

■ ナンバー・ディスプレイ電話機 (アダプタ) を接続する

ナンバー・ディスプレイ電話機を「ANALOG1(ポート1)」に接続する。

- ① 設定を読み込んでいないときは

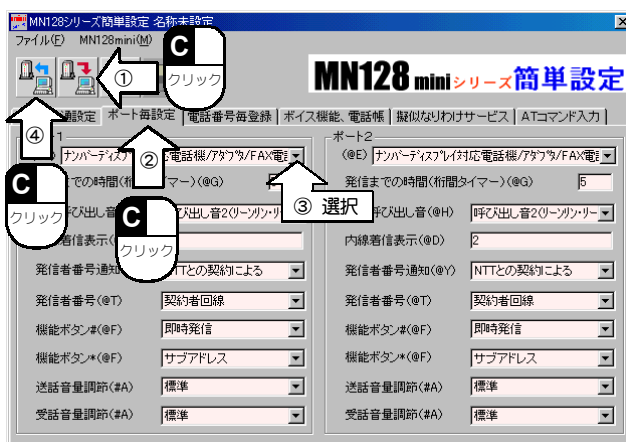


をクリックします。

- ② 「ポート毎設定」タブをクリックします。

- ③ 「機器種別」をクリックして「ナンバーディスプレイ対応電話機/アダプタ/FAX 電話機」を選びます。

- ④ をクリックします。



■ 発信者番号通知を設定する

契約者回線番号 (03-1234-5555) を「ANALOG1(ポート1)」に着信させ、ダイヤルイン追加番号 (03-1234-6666) を「ANALOG2(ポート2)」に着信させる。それぞれの番号を相手先に通知する。

< i・ナンバーを契約されている場合 >

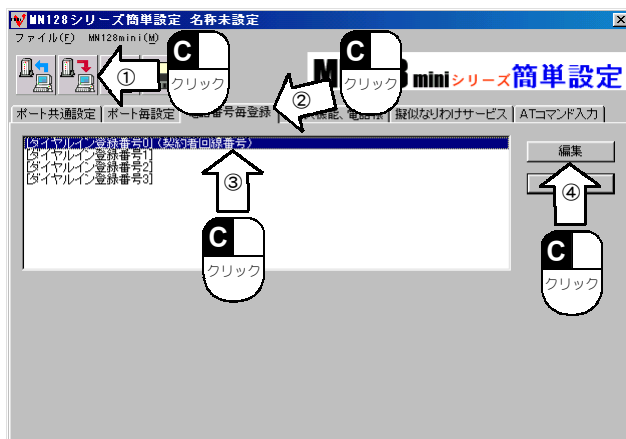
- ・ かんたん利用モード (購入時設定) で本設定例と同じ動作なのでこの設定は不要です。

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

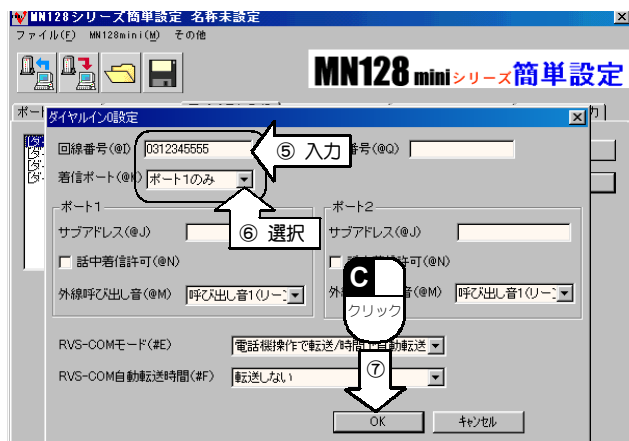
② 「電話番号毎登録」タブをクリックします。

③ 「ダイヤルイン登録番号 0」をクリックします。

④ **編集** をクリックします。



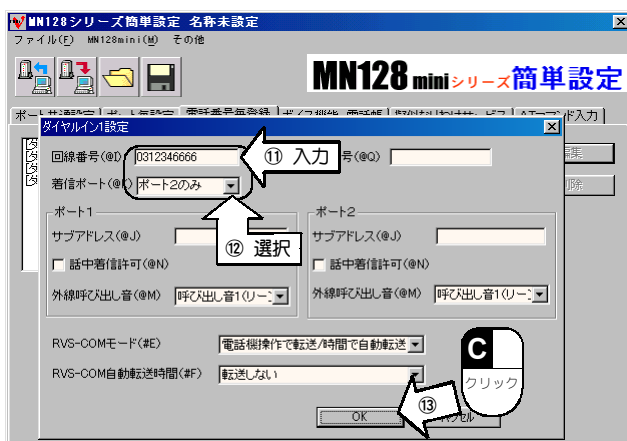
- ⑤ 「ダイヤルイン0 設定画面」で「回線番号」に契約者回線番号を入力します。
- ⑥ 「着信ポート」で「ポート 1のみ」を選びます。
- ⑦ **OK** をクリックします。



- ⑧ 「電話番号毎登録」タブをクリックします。
- ⑨ 「ダイヤルイン登録番号1」タブをクリックします。
- ⑩ **編集** をクリックします。

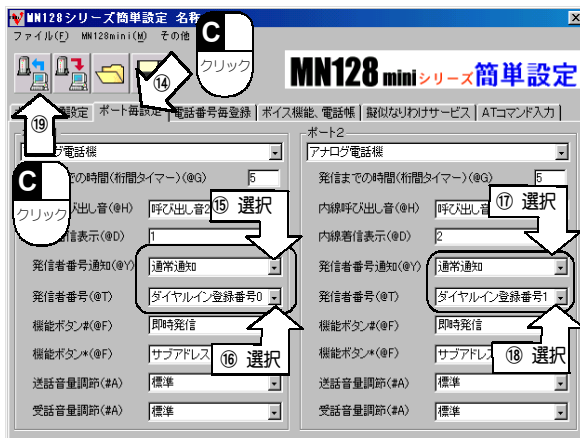


- ⑪ 「回線番号」に追加番号を入力します。
- ⑫ 「着信ポート」で「ポート2のみ」を選びます。
- ⑬ **OK** をクリックします。



- ⑭ 「ポート毎設定」タブをクリックします。
- ⑮ 「ポート1」の「発信者番号通知」で「通常通知」を選びます。
- ⑯ 「発信者番号」で「ダイヤルイン登録番号0」を選びます。
- ⑰ 「ポート2」も同じように「発信者番号通知」で「通常通知」を選びます。
- ⑱ 「発信者番号」で「ダイヤルイン登録番号1」を選びます。

- ⑲  をクリックします。



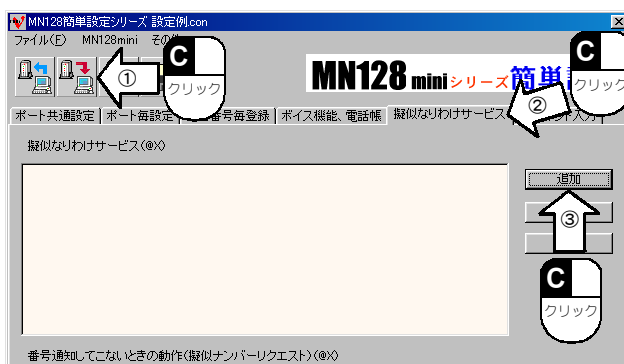
■ 擬似なりわけサービス (発信電話番号識別) を利用する

電話番号「03-1234-5678」から着信があったとき、「ANALOG1 (ポート1)」で呼び出し音3 (リンリンリン) を鳴らす。

- ① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

- ② 「擬似なりわけサービス」タブをクリックします。

- ③ **追加** をクリックします。



- ④ 「登録番号」、「電話番号」を入力します。

- ⑤ 「呼出方法」で「呼び出し音3」を選びます。

- ⑥ **OK** をクリックし、 ⑦  をクリックします。



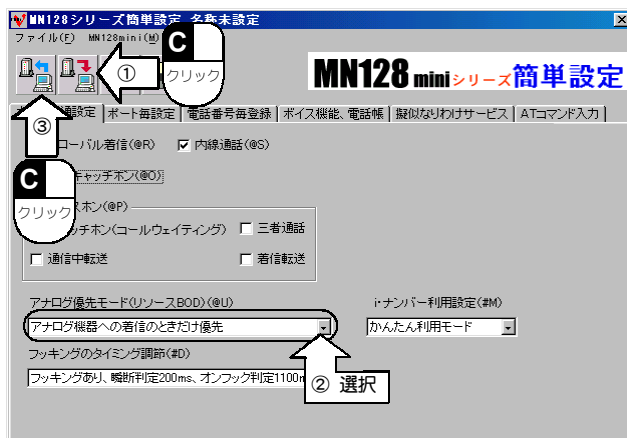
■ アナログ優先モード (リソースBOD) を利用する

128kMPでインターネットに接続しているとき、アナログ機器への着信だけ優先する。

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

② 「ポート共通設定」上の「アナログ優先モード」で「アナログ機器への着信の時だけ優先」を選びます。

③  をクリックします。



■ 擬似ナンバーリクエストを利用する

番号を通知してこない場合の「ANALOG1(ポート1)」の着信音を呼び出し音 2 (リーンリン・リーンリン) にする。

- ① 設定を読み込んでいないときは

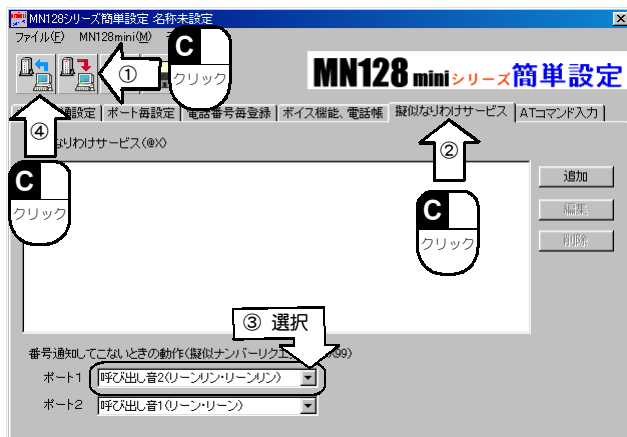


をクリックします。

- ② 「擬似なりわけサービス」タブをクリックします。

- ③ 番号通知してこないときの動作の「ポート 1」で「呼び出し音 2」を選びます。

- ④  をクリックします。



INSマジックボックス、 INSボイスワープを利用する (迷惑電話お断りサービス・Fネットを利用する)

契約者回線番号 (03-1234-5555) を「ANALOG1(ポート1)」に着信させ、
ダイヤルイン追加番号 (03-1234-6666) を「ANALOG2(ポート2)」に着
信させる。

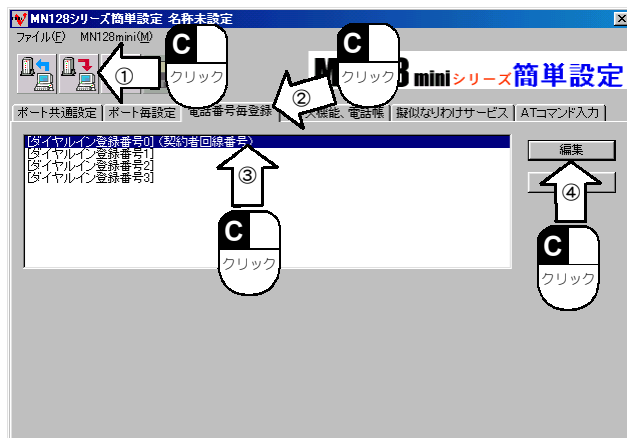
「ANALOG1(ポート1)」に接続された電話機からカスタマコントロール
機能を利用する。(「ANALOG1(ポート1)」に接続された電話機で、迷
惑電話お断りサービス・Fネットを利用する。)

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

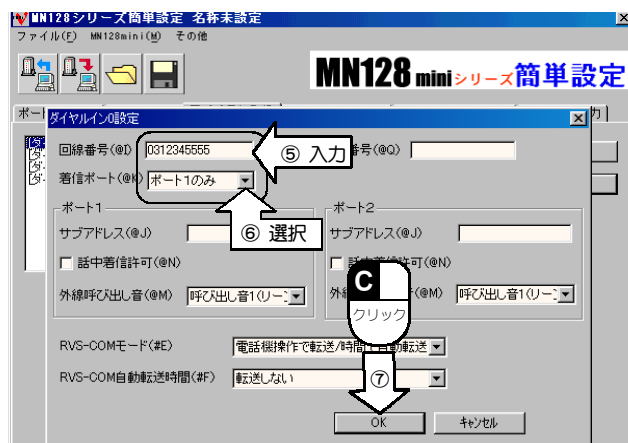
② 「電話番号毎登録」タブをクリックします。

③ 「ダイヤルイン登録番号0」をクリックします。

④ **編集** をクリックします。



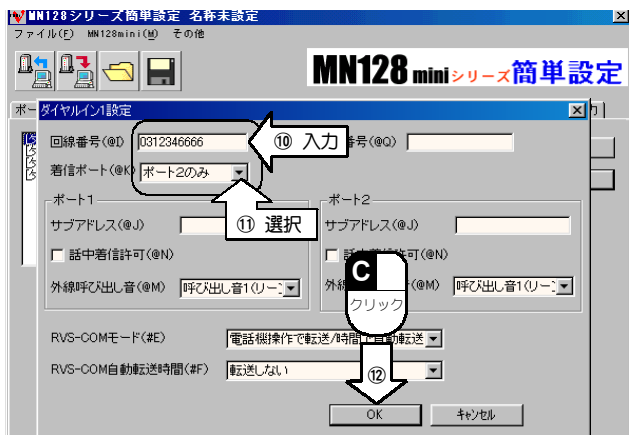
- ⑤ 「回線番号」に契約者回線番号を入力します。
- ⑥ 「着信ポート」で「ポート 1 のみ」を選びます。
- ⑦ **OK** をクリックします。



- ⑧ 「ダイヤルイン登録番号 1」をクリックします。
- ⑨ **編集** をクリックします。



- ⑩「回線番号」に追加番号を入力します。
- ⑪「着信ポート」で「ポート 2 のみ」を選びます。
- ⑫ **OK** をクリックします。



- ⑬「ポート毎設定」タブをクリックします。
- ⑭「ポート 1」の「発信者番号」で「ダイヤルイン登録番号 0」を選びます。

- ⑮  をクリックします。



■ RVS-COM を利用して FAX を受信する

契約者回線番号に着信したとき、「ANALOG1(ポート1)」へ接続した電話機を呼び 10 秒応答しなければ自動的に FAX に受信する。

< i・ナンバーを契約されている場合 >

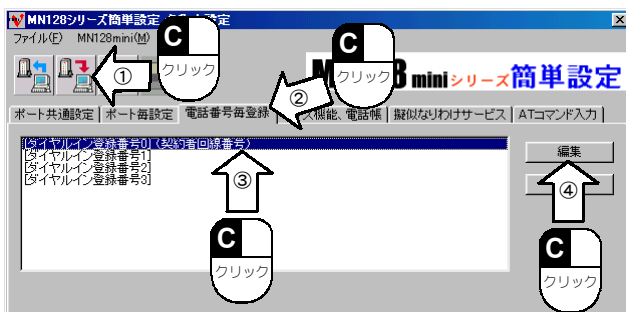
かんたん利用モード (購入時設定) では、アナログ電話機の操作で手動転送だけができます。

① 設定を読み込んでいないときは  をクリックします。

② 「電話番号毎登録」タブをクリックします。

③ 「ダイヤルイン登録番号0」をクリックします。

④ **編集** をクリックします。

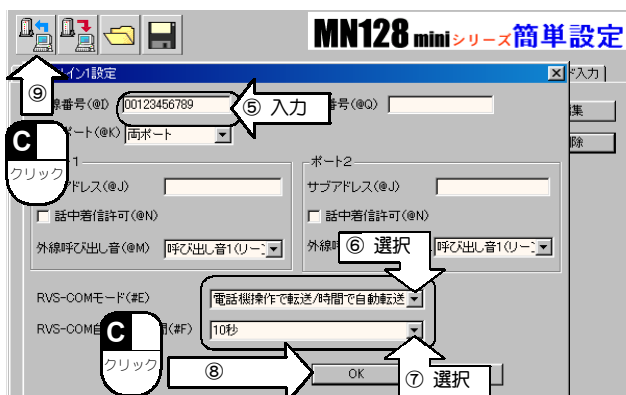


⑤ 「回線番号」に契約者回線番号を入力します。

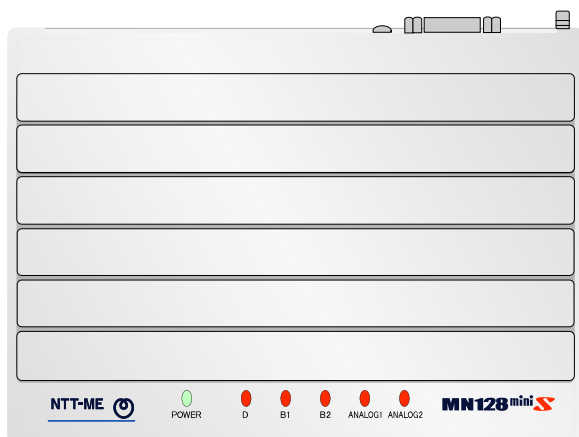
⑥ 「RVS-COM モード」で「電話機操作で転送/時間で自動転送」を選びます。

⑦ 「RVS-COM 自動転送時間」で「10秒」を選びます。

⑧ **OK** をクリックし、⑨  をクリックします



アナログポートを設定しよう (電話機 / AT コマンド)

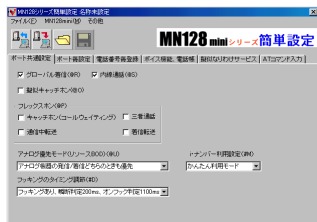


アナログポートの設定方法、その他便利な使い方をするためのアナログポートの設定例などについて解説します。

■ アナログポートの設定方法

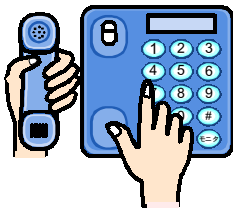
アナログポートに接続された電話や FAX などを便利に使うには設定が必要になります。ここでは設定方法について解説します。

mini-S のアナログポートを設定するには、3つの方法があります。



○ パソコンから「簡単設定ユーティリティ」で設定する

設定方法は P.68 ~ 92 を参照してください。



○ 電話機で設定する

mini-S のアナログポート「ANALOG1(ポート1)」または「ANALOG2(ポート2)」に接続したプッシュボタン (PB) 式アナログ電話機から設定します。

設定方法は P.95 ~ 98 を参照してください。



○ パソコンから「ATコマンド」で設定する

mini-S の「DTE」ポートに接続したパソコンから AT コマンドで設定します。

設定方法は P.99 ~ 105 を参照してください。



電話機からの設定とパソコンからの設定は、同時にはできません。

■ アナログ電話機で設定する

設定する前に、mini-Sのアナログポート「ANALOG1(ポート 1)」または「ANALOG2(ポート 2)」にプッシュボタン (PB) 式アナログ電話機が接続されていることを確認してください。
また、mini-Sの電源が「ON」になっていることを確認してください。

● アナログ電話機での設定方法

ここでは契約者回線番号を「ANALOG1(ポート 1)」だけに着信する設定例を紹介します。
その他の設定については設定例 (P.108 ~) とアナログポート設定リファレンス (P.128 ~) を参照してください。



設定モードにしましょう！

1. アナログ電話機の手受器をあげ、発信音を確認します。

2. **フック** ボタンを 1 回押します。

3. **設定モードにする**

1 をダイヤルします。

4. **設定したい電話機コード番号をダイヤル**

例) 着信ポートの設定のとき **5 2** をダイヤルします。
(メモ / ※ 1)

5. **設定したい (ダイヤルイン) 登録番号をダイヤル**

例) 契約者回線番号の設定のとき **0** をダイヤルします。
(メモ / ※ 2)



6. 接続したいアナログポート番号をダイヤル

例) 着信ポートの設定のときは省略。

「61/AT@M」や「62/AT@N」のような接続するアナログポートの番号「r=1～2」を指定するときには①または②をダイヤルします。

7. 設定したい値をダイヤル

例) 「ANALOG1(ポート 1)」にだけ着信させるときをダイヤルします。

8. # をダイヤルします。(メモ/※3)

(4～8は繰り返せます。)

9. アナログ電話機の手受器をおろします。

メモ

- mini-Sのアナログポートの設定ができるのは、プッシュボタン(PB)式アナログ機器に限ります。ダイヤル/パルス式アナログ機器からは設定できません。また、アナログ機器によっては設定スイッチで切り替えが必要な場合があります。「プッシュボタン(PB)」または「トーン」にしてください。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
- 電話機から設定するときは自動的に保存されます。
- 電話機からの設定中は、電話やFAXなどの利用はできません。
- 設定中に「誤りがあります。もう一度入力してください。ピピッ」というメッセージが聞こえたときは手順4から入力し直してください。
- フックは、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。

※1 電話機設定コードについてはアナログポート設定リファレンス(P.128～)を参照してください。

※2 設定値についてはアナログポート設定リファレンス(P.128～)を参照してください。手順5、6については必要な場合だけ入力します。設定コードによっては設定しない場合があります。

※3 続けて設定するときは、4～8の設定手順を繰り返し設定します。

■ アナログ電話機で設定の確認をする

確認する前に、mini-Sのアナログポート「ANALOG1(ポート1)」または「ANALOG2(ポート2)」にプッシュボタン(PB)式アナログ電話機が接続されていることを確認してください。また、mini-Sの電源が「ON」になっていることを確認してください。

● アナログ電話機での設定確認方法

ここでは契約者回線番号が「ANALOG1(ポート1)」、「ANALOG2(ポート2)」のどちらに着信する設定になっているかを確認する例を紹介します。

その他の設定確認についてはアナログポート設定リファレンス(P.128～)を参照してください。



設定確認モードにしましょう！

1. アナログ電話機の手受をあげ、発信音を確認します。

2. **フック** ボタンを1回押します。

3. **設定確認モードにする**

2 をダイヤルします。

4. **確認したい電話機コード番号をダイヤル**

例) 着信ポートの確認のとき **5 2** をダイヤルします。
(メモ / ※ 1)

5. **確認したい(ダイヤルイン)登録番号をダイヤル**

例) 契約者回線番号の確認のとき **0** をダイヤルします。
(メモ / ※ 2)



6. 確認したいアナログポート番号をダイヤル

例) 着信ポートの確認のときは省略。

「61/AT@M」や「62/AT@N」のような接続するアナログポートの番号「r=1～2」を指定するときには ① または ② をダイヤルします。

7. ③ をダイヤルします。(メモ / ※3)

(4～7は繰り返せます。)

8. アナログ電話機の手話器をおろします。

メモ

- mini-Sのアナログポートの設定確認ができるのは、プッシュボタン式アナログ機器に限ります。ダイヤルパルス式アナログ機器からは設定できません。また、アナログ機器によっては設定スイッチで切り替えが必要な場合があります。「プッシュボタン (PB)」または「トーン」にしてください。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
- 設定確認中に「誤り」があります。もう一度入力してください。ビピツというメッセージが聞こえたときは手順4から入力し直してください。
- 電話機から設定確認中は、電話やFAXなどの着信はできません。
- ④ は、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。

- ※1 電話機設定コードについては、アナログポート 設定リファレンス (P.128～) を参照してください。
- ※2 設定値については、アナログポート 設定リファレンス (P.128～) を参照してください。手順5、6については必要な場合だけ入力します。設定コードによっては設定しない場合があります。
- ※3 続けて設定確認するときは、4～7の設定手順を繰り返します。

■パソコンから「AT コマンド」で設定する

アナログポートとDTEポートの設定は、mini-sの「DTE」ポートと付属の専用シリアルケーブルで接続したパソコン上のターミナルソフトや付属のCD-ROMに入っている「簡単設定ユーティリティ」からAT コマンドで設定できます。インターネットに接続する場合、また接続しようとしても上手に接続できない場合などは、ATコマンドを用いてmini-Sが認識されているかを確認してから接続してみましょう。

OSまたはパソコン	ターミナルソフト
Windows 98 (Second Edition) / 95/NT4.0	「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」の「ハイパーターミナル」
Macintosh	購入時にターミナルソフトウェアが添付されていない場合、別途用意する必要があります。市販品を購入するかフリーソフトやシェアウェアを雑誌やBBSなどから入手してください。

● AT コマンドとは

mini-Sのようなターミナルアダプタ等通信機器を制御するためのコマンド体系の1つです。通常コマンドの前に「AT」をつけ、以下の書式で設定します。

AT「コマンド」「設定値」 

● AT コマンドを入力する前に

付属のCD-ROMに入っている「簡単設定ユーティリティ」を利用してATコマンドを入力できます。

- ・ OS またはパソコン Windows 98 (Second Edition)/95/NT4.0 の時
P.58～61をご覧ください。
- ・ OS またはパソコン Macintosh の時
P.62～65をご覧ください。

メモ

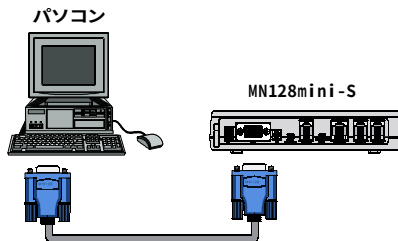
- ・ Macintosh用のターミナルソフトの代表的な商品として、「クラリスワークス」、「J-Term」、「ComNIFTY」などがあります。
（「クラリスワークス」は米国アップルコンピュータ社、「J-Term」は（株）まつもとの製品、「ComNIFTY」はフリーソフトウェアです。平成11年10月現在。）
- ・ 市販品のターミナルソフトを購入する場合、キーボードから自由にATコマンドが入力できるものを選びましょう。詳しくは販売店までお問い合わせください。
- ・ お持ちのパソコンにターミナルソフトウェアが添付されているか、市販品の購入などに関してはパソコン販売店等へお問い合わせください。

● AT コマンドの入力方法

以下の手順で AT コマンドを入力してください。

1. mini-Sの「DTE」ポートとパソコンのシリアルポートを付属の専用シリアルケーブルで接続します。
2. mini-Sを「ON」にします。
3. 他の通信ソフトはすべて終了します。
4. 簡単設定ユーティリティ(A)かターミナルソフト(B)を起動します。

ATコマンドの入力方法



[A] 簡単設定ユーティリティの場合

- 5-A. 「ATコマンド」タブをクリックします。
- 6-A. AT コマンドを入力し、**送信**を押します。

[B] ターミナルソフトの場合

- 5-B. ターミナルソフトの設定をします。
シリアルポート (COMポート、モデムポート、プリンタポート等) の選択、ポート
スピード (推奨DTE速度 : 9600bps)
- 6-B. AT コマンドを入力し、**Enter**を押します。

メモ

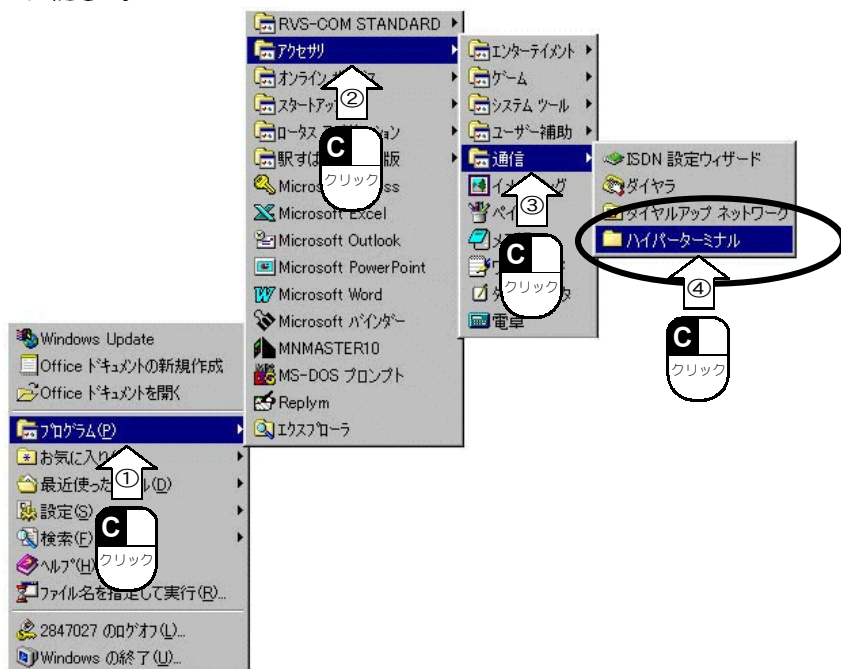
- mini-Sを接続しているシリアルポートをターミナルソフトウェア上で正しく選ばないと、AT コマンドが入力できなかったり、またはその他の通信機器 (モデムなど) を認識してしまいます。
- パソコンによっては内蔵モデムが入っていると、シリアルポートが使えない状態になっている可能性もあります。詳しくはパソコン販売店等へお問い合わせください。
- 以下の項目に関してはソフトウェアまたはパソコンの各販売店等にお問い合わせください。
 - (1) 市販ターミナルソフトの起動方法、設定方法。
 - (2) パソコンのシリアルポート (COMポート、モデムポート、プリンタポートなど) 番号。
 - (3) 内蔵モデムが入っている場合の設定方法。
- その他の通信ソフトウェア (PPP 対応通信ソフト・FAX ソフトなど) が終了されているか確認してください。また、FAXソフトが待機中になっていても、ターミナルソフトが使えない場合があります。

●Windows98 (Second Edition) /95 (ハイパーターミナル) での AT コマンド入力方法

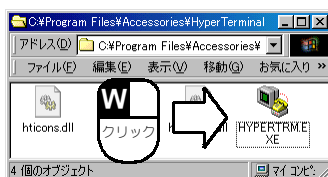
AT コマンドの入力は、お手持ちのターミナルソフトウェアを起動し、ターミナル画面から AT コマンドが入力できる状態にする必要があります。ここでは Windows98 (Second Edition) /95 の「ハイパーターミナル」で AT コマンドを入力する方法を説明します。

※ Windows95では、表示される画面が異なる場合があります。

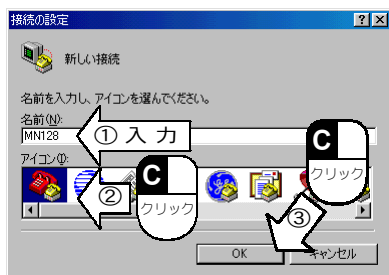
1. ①「プログラム」→ ②「アクセサリ」→ ③「通信」→ ④「ハイパーターミナル」と選んでください。



2. 「HyperTerminal」のウィンドウから「Hypertm」アイコンをダブルクリックしてください。



3. 「接続の設定」のウィンドウで、①名前を入力し、②アイコンを選んで③ **OK** をクリックします。この例では「MN128」という名前のアイコンを作成します。

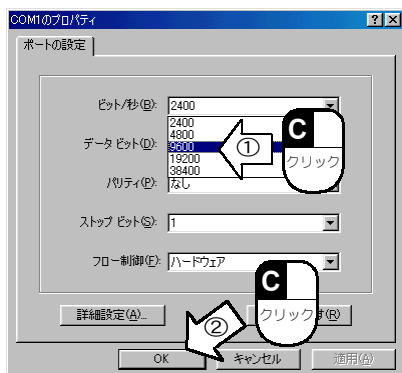


4. 「電話番号の情報を・・・」の画面で、「接続方法」の中からmini-Sを接続しているポートの番号の①「COM *ヘダダイレクト」を選び、② **OK** をクリックします。



※ パソコンによってCOMポートの番号が異なります。詳しくはパソコンのマニュアルを参照するか、パソコン販売店にお問い合わせください。

5. シリアルポートに mini-S を接続するとき「ビット/秒」の欄だけ ①「9600」へ変更し、
③ **OK** をクリックします。

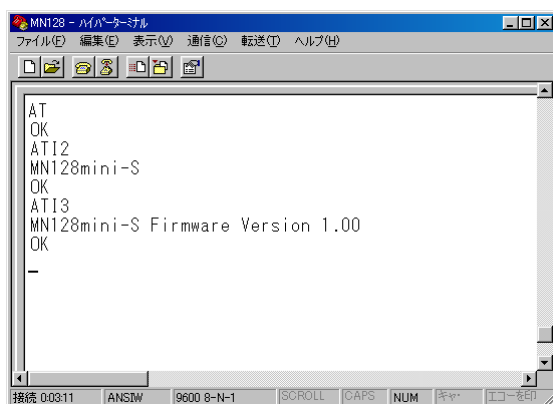


6. 「MN128」のウィンドウで、入力モードを「直接入力」にして AT **Enter** で、「OK」と表示されたら、AT コマンドは入力できる状態です。

AT I2 **Enter** で、「MN128mini-S」と表示されれば、mini-S が認識されています。

AT I3 **Enter** で、現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

この状態で設定したいコマンドを入力してください。





(表示イメージは前ページを参照してください)

- ATI2  で「MN128mini-S」以外の表示 (OK など) がでる場合はその他の通信機器 (内蔵モデムなど) が認識されています。手順 4 で選んだシリアルポートを選び直してください。選び直しても同じ状態のときは、パソコンメーカーなどへお問い合わせください。

● 設定の保存 / 初期化 / 内容表示

○ 設定の保存

パソコンから AT コマンドで設定したときは、保存しないと mini-S の電源を OFF にしたときに設定が消えてしまいます。設定をしたときは、必ず設定を保存してください。

AT@B 

○ 設定の初期化 (購入時設定に戻します)

アナログポートの設定を購入時設定に戻したいときに利用します。

AT@A1 

※ 本体背面のリセットスイッチでも設定を初期化できます。
P.27 を参照してください。

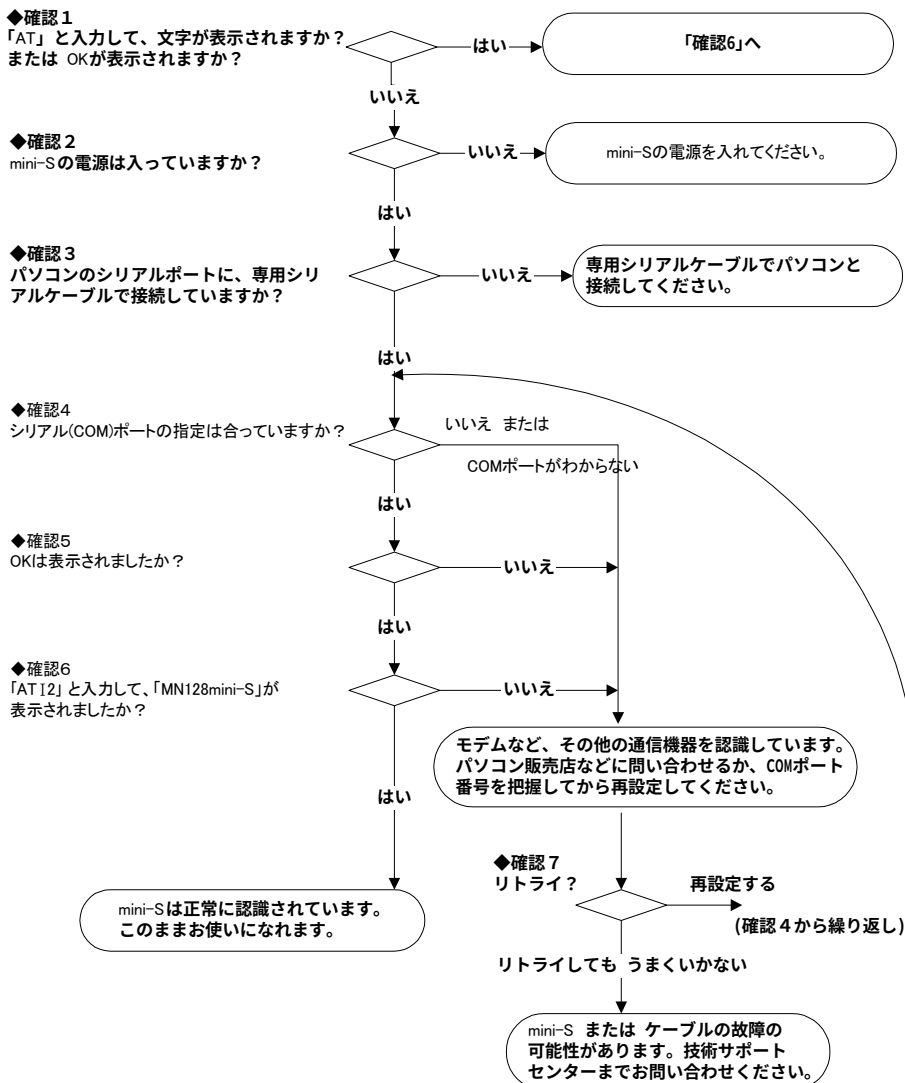
○ 設定内容の表示

現在アナログポートに設定されている内容を表示します。

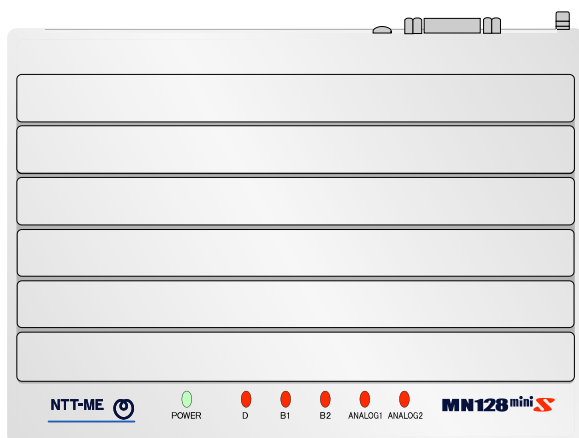
AT@C 

● AT コマンドが入力できない

AT コマンドが入らない場合は下記のフローに従ってチェックしてください。



アナログポートの設定例 (電話機 / AT コマンド)



9

アナログポートを電話機やATコマンドで設定する具体的な例を説明します。

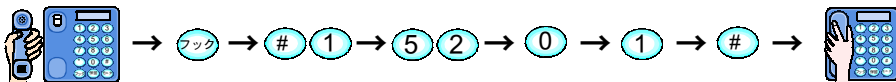
設定例の「電話機で設定」の設定番号は「アナログ電話機での設定方法」(P.95)の手順4～7に入力する番号です。

ATコマンドで設定するときは、設定の最後に「設定の保存」(AT@B)を入力しないとmini-Sの電源を「OFF」にしたときに設定内容が消えてしまいます。電話機で設定するときは同時に保存も行います。

■ 着信ポート、ダイヤルインを設定する

- ・ 契約者回線番号を「ANALOG1（ポート 1）」に着信させる。

○電話機で設定

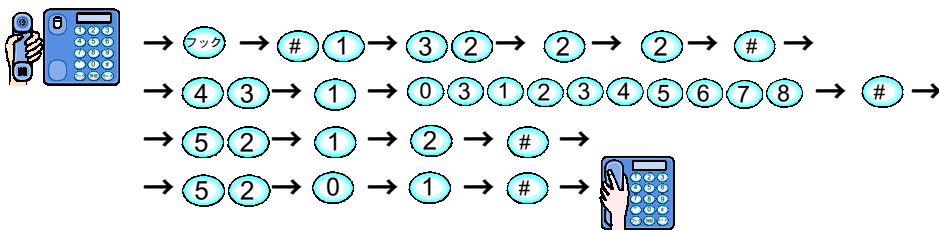


○パソコンから「AT コマンド」で設定

AT@K0=1 (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。
 AT@B (P.128) → 設定を保存する。

- ・ 「ANALOG2（ポート 2）」に FAX を接続する。
- ・ ダイヤルイン追加番号（03-1234-5678）を「ANALOG2（ポート 2）」に着信させる。
- ・ 契約者回線番号を「ANALOG1（ポート 1）」に着信させる。

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

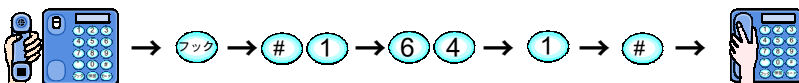
AT@E2=2 (P.132) → ANALOG2 (ポート 2) に FAX を接続する。
 AT@I 1=0312345678 (P.135) → ダイヤルイン番号 1 に「0312345678」番を登録する。
 AT@K1=2 (P.136) → ダイヤルイン番号 1 を ANALOG2 (ポート 2) に着信させる。
 AT@K0=1 (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。
 AT@B (P.128) → 設定を保存する。

< i・ナンバーを契約されている場合 >

- ・購入時設定の状態で、契約者回線番号は「ANALOG1(ポート 1)」、追加番号は「ANALOG2(ポート 2)」へ着信します。
- ・着信ポートを変更するときは、カスタム利用モードに移行してから「着信ポートの設定」(52/AT@K)をしてください。

◎カスタム利用モードへの移行方法

○電話機で設定

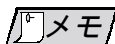


○パソコンから「AT コマンド」で設定

- | | |
|-------|-------------------------|
| AT#M1 | (P.131) → カスタム利用モードにする。 |
| AT@B | (P.128) → 設定を保存する。 |

 メモ

- ・「カスタム利用モード」(641/AT#M1) を設定すると、自動的に契約者回線番号は「ANALOG1 (ポート 1)」(5201/AT@K0=1) に着信、追加番号は「ANALOG2(ポート 2)」(5212/AT@K1=2) に着信が設定されます。着信ポートの変更は、「カスタム利用モード」(641/AT#M1) のコマンド入力後に設定してください。



・「43/AT@I」と「52/AT@K」と「81/AT@T」の関係は、以下のとおりです。

書式「43q s/AT@ I q=s」	
q	意 味
0	ダイヤルイン番号0の登録 (契約者回線番号の登録)
1	ダイヤルイン番号1の登録
2	ダイヤルイン番号2の登録
3	ダイヤルイン番号3の登録
1	ダイヤルイン番号1の登録
2	ダイヤルイン番号2の登録
3	ダイヤルイン番号3の登録

→
→
→
→

→
→
→

書式「81r n/AT@ T r =n」	
n	意 味
4	ダイヤルイン番号0を設定
1	ダイヤルイン番号1を設定
2	ダイヤルイン番号2を設定
3	ダイヤルイン番号3を設定
0	契約者回線番号を網から通知

書式「52q n/AT@ K q=n」	
q	意 味
0	AT@I で登録していない番号の設定
1	ダイヤルイン番号1の設定
2	ダイヤルイン番号2の設定
3	ダイヤルイン番号3の設定

「43/AT@I」 関連	「s」は電話番号を入力します。
	「q=0」は発信者番号通知を必要とするサービス（INSマジックボックス、INSボイスフープ、迷惑電話お断りサービス、Fネットなど）を利用する場合で、あわせてダイヤルイン契約をしている場合に、契約者回線番号を登録する項目です。それ以外の場合は設定する必要はありません。
「52/AT@K」 関連	「n」は着信させるポートを設定します。
	「q=0」で契約者回線番号の設定も行います。
「81/AT@T」 関連	「r」はアナログポート番号を入力します。
	ダイヤルイン契約をしていない時は、81/AT@T の設定は必要ありません。

＜i>-ナンバーを契約されている場合＞

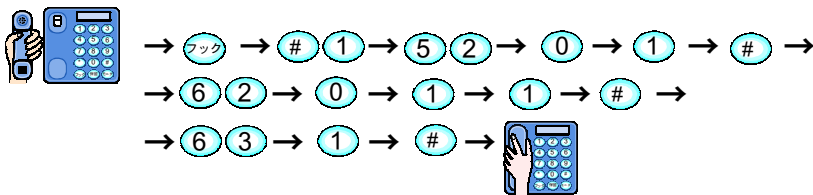
- ・購入時設定の状態、契約者回線番号は「ANALOG1（ポート1）」に、追加番号は「ANALOG2（ポート2）」に着信します。また、「ANALOG1（ポート1）」から発信したときは相手先に契約者回線番号を通知し、「ANALOG2（ポート2）」から発信したときは追加番号を通知します。
- ・設定内容を変更するときは、契約者回線番号を「ダイヤルイン番号0」、追加番号を「ダイヤルイン番号1」として設定してください。

※ 着信ポートの設定変更をするときは、カスタム利用モードに移行してから設定してください。詳しくはP.109を参照してください。

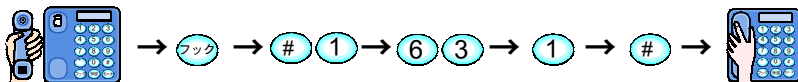
■ 擬似キャッチホンを設定する

- ・ 契約者回線番号を「ANALOG1（ポート 1）」に着信させる。
- ・ 擬似キャッチホン機能を利用する。

○ 電話機で設定



＜i・ナンバーを契約されている場合＞



○ パソコンから「AT コマンド」で設定

- | | |
|----------|--|
| AT@K0=1 | (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1（ポート 1）に着信させる。 |
| AT@N01=1 | (P.138) → 契約者回線番号に着信したとき、ANALOG1（ポート 1）で話中着信を許可する。 |
| AT@O1 | (P.129) → 擬似キャッチホンを利用する。 |
| AT@B | (P.128) → 設定を保存する。 |

＜i・ナンバーを契約されている場合＞

- | | |
|-------|--------------------------|
| AT@O1 | (P.129) → 擬似キャッチホンを利用する。 |
| AT@B | (P.128) → 設定を保存する。 |



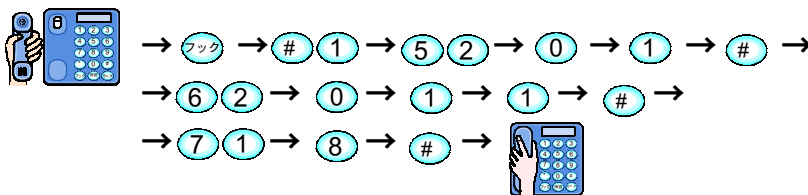
＜i・ナンバーを契約されている場合＞

- ・ かんたん利用モード（購入時設定）では「ANALOG1（ポート 1）」、「ANALOG2（ポート 2）」共に話中着信が許可される動作になります。
- ・ カスタム利用モードで設定するときは、「話中着信の設定」（62011/AT@N01=1）をする必要があります。

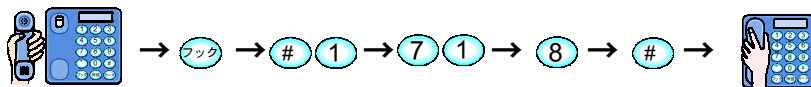
■ フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を設定する

- ・ 契約者回線番号を「ANALOG1（ポート 1）」に着信させる。
- ・ キャッチホン（コールウェイティング）機能を利用する。

○電話機で設定



<i・ナンバーを契約されている場合>



○パソコンから「AT コマンド」で設定

- AT@K0=1 (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。
- AT@N01=1 (P.138) → 契約者回線番号に着信したとき、ANALOG1 (ポート 1) で話中着信を許可する。
- AT@P8 (P.130) → キャッチホン（コールウェイティング）を利用する。
- AT@B (P.128) → 設定を保存する。

<i・ナンバーを契約をされている場合>

- AT@P8 (P.130) → キャッチホン（コールウェイティング）を利用する。
- AT@B (P.128) → 設定を保存する。



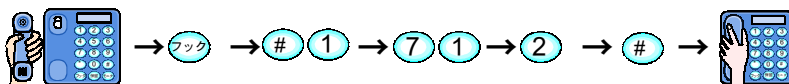
<i・ナンバーを契約をされている場合>

- ・ かんたん利用モード（購入時設定）では「ANALOG1（ポート 1）」、「ANALOG2（ポート 2）」共に話中着信が許可される動作になります。
- ・ カスタム利用モードで設定するときは、「話中着信の設定」(62011/AT@N01=1) をする必要があります。

■ フレックスホンの三者通話を設定する

- ・ 三者通話を利用する。

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

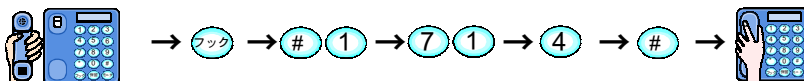
AT@P2 (P.130) → 三者通話を利用する。

AT@B (P.128) → 設定を保存する。

■ フレックスホンの通信中転送を設定する

- ・通信中転送を利用する。

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

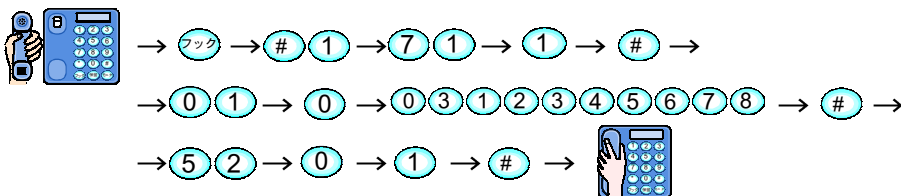
- AT@P4 (P.130) →通信中転送を利用する。
AT@B (P.128) →設定を保存する。

■ フレックスホンの着信転送を設定する

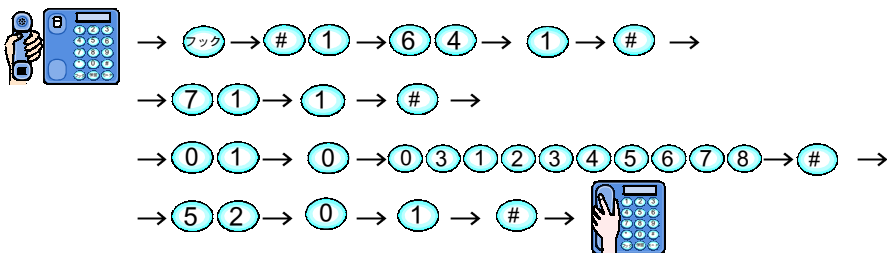
- ・ 契約者回線番号に着信があったとき、
転送するときは(03-1234-5678)へ転送する。
通常は「ANALOG1 (ポート 1)」へ着信する。

○電話機で設定

<事前設定1>



<事前設定2：i・ナンバーを契約されている場合>



<転送を開始するとき>



<転送を解除するとき>



○パソコンから「AT コマンド」で設定

＜事前設定＞

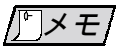
AT#M1 (P.131) → i・ナンバーを契約されている方だけ
AT@P1 (P.130) → 着信転送を利用する。
AT@Q0=0312345678 (P.136) → 契約者回線番号に着信したときの転送先を「03-1234-5678」に設定する。
AT@K0=1 (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。
AT@B (P.128) → 設定を保存する。

＜転送開始設定＞

AT@K0=6 (P.136) → 契約者回線番号に着信があったときに転送する。
AT@B (P.128) → 設定を保存する。

＜転送解除設定＞

AT@K0=1 (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。
AT@B (P.128) → 設定を保存する。



- ・ 着信転送を開始するときに上記「転送開始設定」を設定します。
- ・ 転送を解除して「ANALOG1 (ポート 1)」への着信に戻すときは、上記「転送解除設定」を設定する必要があります。

■ ナンバー・ディスプレイ電話機 (アダプタ) を接続する

- ・ ナンバー・ディスプレイ電話機を「ANALOG1 (ポート1)」に接続する。

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

AT@E1=5 (P.132) → ANALOG1 (ポート1) にナンバー・ディスプレイ電話機 (アダプタ) を接続する。

AT@B (P.128) → 設定を保存する。

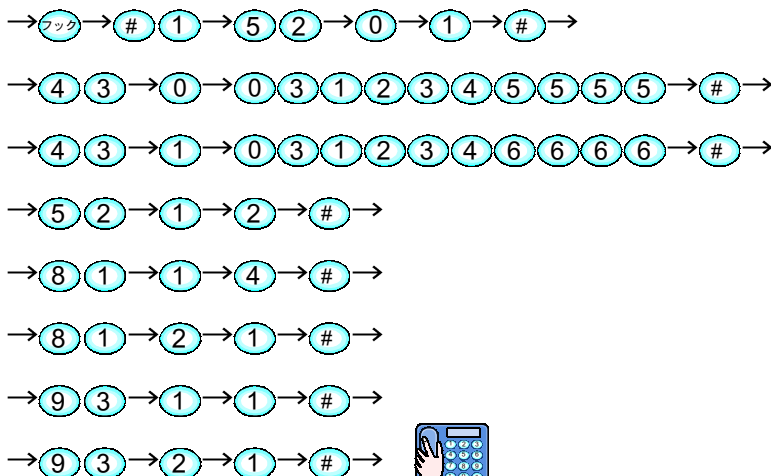
■発信者番号通知を設定する

- ・ 契約者回線番号 (03-1234-5555) を「ANALOG1 (ポート 1)」に着信させる。
- ・ ダイヤルイン追加番号(03-1234-6666)を「ANALOG2 (ポート 2)」に着信させる。
- ・ それぞれの番号を相手先に通知する。

<i・ナンバーを契約されている場合>

- ・ かんたん利用モード (購入時設定) では本設定例と同じ動作なので設定は不要です。

○電話機で設定



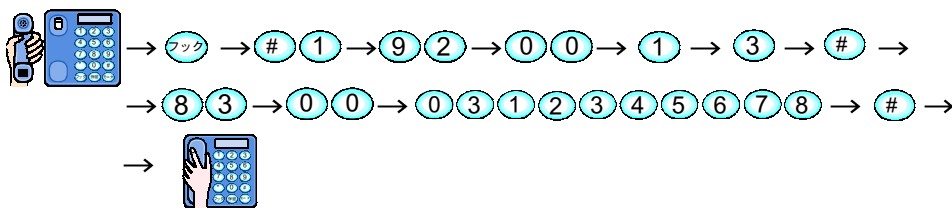
○パソコンから「AT コマンド」で設定

AT@K0=1	(P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。
AT@I0=0312345555	(P.135) → ダイヤルイン番号 0 に「0312345555」番を登録する。
AT@I1=0312346666	(P.135) → ダイヤルイン番号 1 に「0312346666」番を登録する。
AT@K1=2	(P.136) → ダイヤルイン番号 1 を ANALOG2 (ポート 2) に着信させる。
AT@T1=4	(P.134) → ANALOG1 (ポート 1) から相手先に通知する回線番号としてダイヤルイン 0 番を登録する。
AT@T2=1	(P.134) → ANALOG2 (ポート 2) から相手先に通知する回線番号としてダイヤルイン 1 番を登録する。
AT@Y1=1	(P.133) → ANALOG1 (ポート 1) から相手先に回線番号を通知する。
AT@Y2=1	(P.133) → ANALOG2 (ポート 2) から相手先に回線番号を通知する。
AT@B	(P.128) → 設定を保存する。

■ 擬似なりわけサービス （発信電話番号識別）を利用する

- ・ 電話番号「03-1234-5678」から着信があったとき、「ANALOG1（ポート1）」の呼び出し音を呼び出し音3（リンリンリン）に指定する。

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

AT@X001=3 (P.140) →登録番号「00」からANALOG1 (ポート1) に着信したとき
呼び出し音3「リンリンリン」で呼び出す。

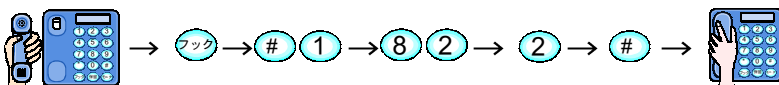
AT@V00=0312345678 (P.140) →登録番号「00」に「03-1234-5678」番を登録する。

AT@B (P.128) →設定を保存する。

■ アナログ優先モード (リソース BOD) を利用する

- 128kbps でインターネットをしているとき、電話やFAXなどの着信だけ優先する。

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

AT@U2 (P.130) → 着信のときだけアナログ通信を優先する。

AT@B (P.128) → 設定を保存する。

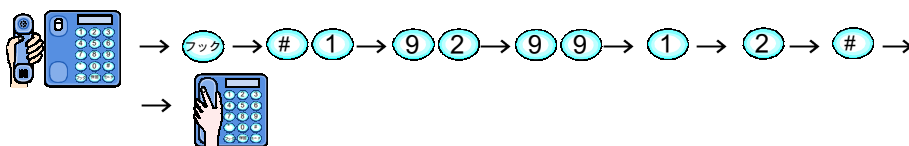
メモ

- アナログ優先モード (リソース BOD) を利用するためには、NTT との「INS ネット 64」の契約で「通信中着信通知サービス」を許可、「ユーザ間情報通知サービス」を着信許可にする必要があります。
- 購入時設定では発着信のいずれかの要求があったときアナログ通信を優先して利用する設定になっています。

■ 擬似ナンバーリクエストを利用する

- ・ 相手先が発信者番号を通知しないでかけてきたとき、「ANALOG1（ポート 1）」に接続されているアナログ電話機の呼び出し音を呼び出し音 2（リーニン・リーニン）に設定する。

○電話機で設定



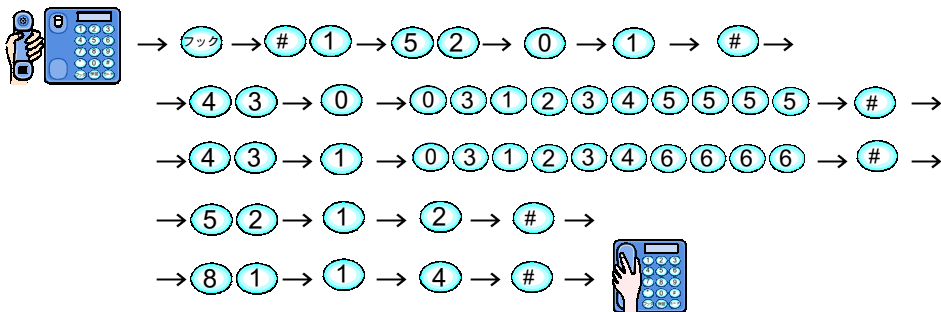
○パソコンから「AT コマンド」で設定

- AT@X991=2 (P.140) → 電話番号を通知しないで ANALOG1 (ポート 1) に着信したとき
呼び出し音 2「リーニン」で呼び出す。
- AT@B (P.128) → 設定を保存する。

■ INS マジックボックス、 INS ボイスワープを利用する (迷惑電話お断りサービス・F ネットを利用する)

- ・ 契約者回線番号 (03-1234-5555) を「ANALOG1 (ポート 1)」に着信させる。
- ・ ダイヤルイン追加番号 (03-1234-6666) を「ANALOG2 (ポート 2)」に着信させる。
- ・ 「ANALOG1 (ポート 1)」に接続された電話機からカスタムコントロール機能を利用する。
(・「ANALOG1 (ポート 1)」に接続された電話機で迷惑電話お断りサービス・F ネットを利用する。)

○電話機で設定



○パソコンから「AT コマンド」で設定

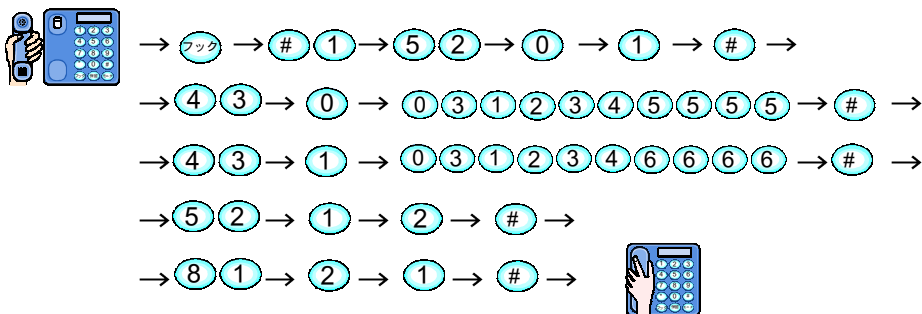
- | | |
|------------------|---|
| AT@K0=1 | (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。 |
| AT@I0=0312345555 | (P.135) → ダイヤルイン番号 0 に「0312345555」番を登録する。 |
| AT@I1=0312346666 | (P.135) → ダイヤルイン番号 1 に「0312346666」番を登録する。 |
| AT@K1=2 | (P.136) → ダイヤルイン番号 1 を ANALOG2 (ポート 2) に着信させる。 |
| AT@T1=4 | (P.134) → ANALOG1 (ポート 1) から通知する回線番号としてダイヤルイン 0 番を登録する。 |
| AT@B | (P.128) → 設定を保存する。 |

- ・ 契約者回線番号 (03-1234-5555) を「ANALOG1(ポート1)」に着信させる。
 - ・ ダイヤルイン追加番号 (03-1234-6666) を「ANALOG2(ポート2)」に着信させる。
 - ・ 「ANALOG2 (ポート2)」に接続された電話機からカスタマコントロール機能を利用する。
- (・ 「ANALOG2 (ポート2)」に接続された電話機で迷惑電話お断りサービス・Fネットを利用する。)

< i・ナンバーを契約されている場合 >

- ・ かんたん利用モード (購入時設定) で INS マジックボックス、INS ボイスワープを利用できます。

○電話機で設定



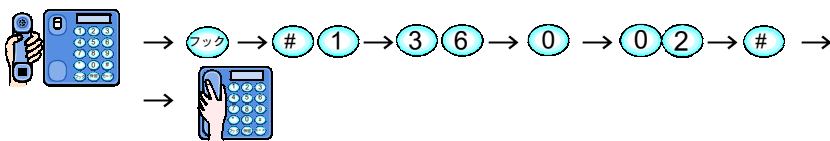
○パソコンから「AT コマンド」で設定

- | | |
|------------------|---|
| AT@K0=1 | (P.136) → 契約者回線番号を ANALOG1 (ポート 1) に着信させる。 |
| AT@I0=0312345555 | (P.135) → ダイヤルイン番号 0 に「0312345555」番を登録する。 |
| AT@I1=0312346666 | (P.135) → ダイヤルイン番号 1 に「0312346666」番を登録する。 |
| AT@K1=2 | (P.136) → ダイヤルイン番号 1 を ANALOG2 (ポート2)に着信させる。 |
| AT@T2=1 | (P.134) → ANALOG2 (ポート2)から通知する回線番号としてダイヤルイン 1 番を登録する。 |
| AT@B | (P.128) → 設定を保存する。 |

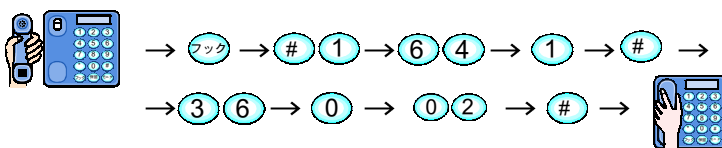
■ RVS-COM を利用して FAX を受信する

- ・契約者回線番号に着信したとき、アナログポートに接続した電話機を呼び、10 秒間応答しなければ自動的に FAX 受信する。

○電話機で設定



< i・ナンバーを契約されている場合 >



○パソコンから「AT コマンド」で設定

- | | |
|----------|--|
| AT#M1 | (P.131) → i・ナンバーを契約されている方だけ |
| AT#F0=02 | (P.139) → 契約者回線番号に着信したとき、10 秒後に自動受信する。 |
| @B | (P.128) → 設定を保存する。 |



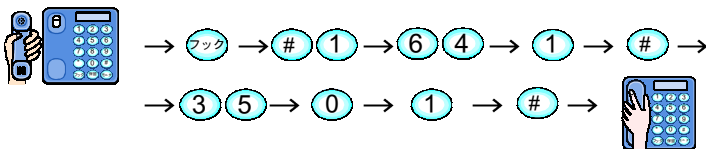
- ・ RVS-COM を起動して FAX を受信できる状態にしておく必要があります。
- ・ i・ナンバーを契約しているときは、かんたん利用モード (購入時設定) ではアナログ電話機操作で手動転送だけができます。

- ・ 契約者回線番号への着信はすべてパソコン（RVS-COM）でFAX受信する。

○電話機で設定



<i>・ナンバーを契約されている場合>



○パソコンから「AT コマンド」で設定

- AT#E0=1 (P.139) → 契約者回線番号に着信があったとき、すべてパソコンでFAXを受信する。
- AT@B (P.128) → 設定を保存する。

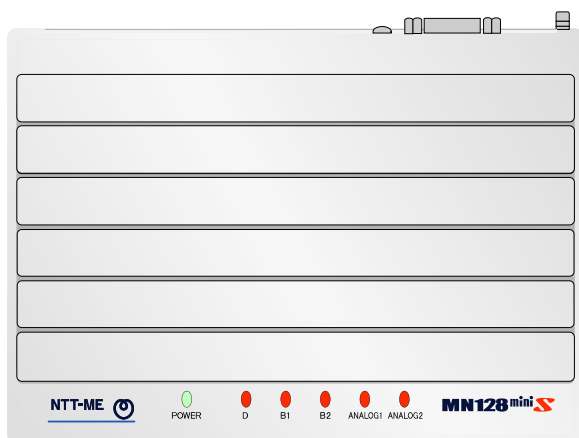
メモ

- ・ RVS-COMを起動してFAXを受信できる状態にしておく必要があります。

注意

- ・ この設定では、設定した電話番号に着信があっても、アナログポートに接続した電話機などは呼び出しません。すべてパソコン（RVS-COM）で受信します。

アナログポート 設定リファレンス



10

アナログポートを設定する「簡単設定ユーティリティ」、「電話機設定コード」、「ATコマンド」のリファレンスです。

■ 電話機設定、AT コマンド書式

アナログ電話機から設定する場合の電話機設定書式、パソコンからAT コマンドで設定する場合のAT コマンド書式を説明します。書式の見方は、以下の通りです。

電話機設定書式 : 電話機設定コード(例 32) 設定値(例 $r n$)

(操作例)
(設定モード) (接続機種) (ANALOG2) (G3-FAX)

AT コマンド書式 : AT 設定コマンド(例 @E) 設定値(例 $r = n$)

(操作例) A T @ E 2 = 2
(接続機種) (ANALOG2) (G3-FAX)

電話機からの設定方法は、P.95 を参照してください。

AT コマンドの入力方法は、P.99 を参照してください。

次ページ以降の表でこの () 網かけがしてある書式は購入時設定です。

■ 設定の管理

機 能		電話機	ATコマンド
● 設定の初期化 (簡単設定は「購入時設定にもどす」だけ)		21	@A
設定	設定を保存したときの状態にもどす	—	AT @A 0
	購入時設定にもどす	21	AT @A 1
機能	・ アナログポートに関するすべての設定内容を初期化します。		
説明	・ 「設定を保存したときの状態にもどす」への初期化はパソコンからATコマンドで設定します。 ・ 電話機から設定するときは「購入時設定にもどす」で初期化することになります。 電話機設定コードの後すぐに を押してください。(電話機で設定したときは常に保存されています。)		
● 設定の保存 (簡単設定は「設定の書き込み」)		なし	@B
設定	アナログポートの設定を保存	—	AT @B
機能	・ アナログポートに関するすべての設定内容を保存します。		
説明	・ 電話機から設定する時は保存作業は必要ありません。設定の都度保存処理をしています。		
● 設定の表示 (簡単設定はタブから選ぶ画面ですべて表示)		なし	@C
設定	83/AT@V、91/AT@W、92/AT@X以外を表示	—	AT @C 0
	83/AT@V、91/AT@W、92/AT@Xを表示	—	AT @C 1
機能	・ アナログポートに関する設定内容をターミナルソフトに表示します。		

■ポート 共通設定

簡単設定「ポート共通設定」		電話機	ATコマンド														
● グローバル着信の設定		72	@R														
設定	グローバル着信 (使わない)	72 0	AT @ R 0														
	(使う)	72 1	AT @ R 1														
機能	・ グローバル着信を使うとダイヤルインサービスを利用する場合に、特定の機器にだけ着信させられます。																
注意	・ 「グローバル着信」を「使わない」にすると、着信できなくなることがあります。通常は、NTTのダイヤルイン契約の「グローバル着信 有り/無し」にかかわらずグローバル着信を使う設定でお使いください。																
説明	・ この設定による動作は、下記ようになります。																
	<table><tr><th>NTTとのダイヤルイン契約</th><th>かかって来た番号</th><th>着信のしかた</th></tr><tr><td rowspan="2">グローバル着信有り</td><td>契約者回線番号</td><td rowspan="2">「グローバル着信の設定」(72/AT@R) の設定に従います。</td></tr><tr><td>ダイヤルイン追加番号</td></tr><tr><td rowspan="2">グローバル着信無し</td><td>契約者回線番号</td><td rowspan="2">「回線番号の登録」(43/AT@I) で登録されている番号と一致したときだけ着信します。</td></tr><tr><td>ダイヤルイン追加番号</td></tr><tr><td>ダイヤルイン契約なし</td><td>契約者回線番号</td><td>「グローバル着信の設定」(72/AT@R) の設定に従います。</td></tr></table>			NTTとのダイヤルイン契約	かかって来た番号	着信のしかた	グローバル着信有り	契約者回線番号	「グローバル着信の設定」(72/AT@R) の設定に従います。	ダイヤルイン追加番号	グローバル着信無し	契約者回線番号	「回線番号の登録」(43/AT@I) で登録されている番号と一致したときだけ着信します。	ダイヤルイン追加番号	ダイヤルイン契約なし	契約者回線番号	「グローバル着信の設定」(72/AT@R) の設定に従います。
	NTTとのダイヤルイン契約	かかって来た番号	着信のしかた														
	グローバル着信有り	契約者回線番号	「グローバル着信の設定」(72/AT@R) の設定に従います。														
		ダイヤルイン追加番号															
	グローバル着信無し	契約者回線番号	「回線番号の登録」(43/AT@I) で登録されている番号と一致したときだけ着信します。														
ダイヤルイン追加番号																	
ダイヤルイン契約なし	契約者回線番号	「グローバル着信の設定」(72/AT@R) の設定に従います。															
・ NTTと「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約をしていて、ダイヤルイン追加番号だけに着信したときは、パラメータ「グローバル着信しない」に設定すると、この設定だけで契約者回線番号では着信せずに、ダイヤルイン追加番号だけに着信します。																	
・ i・ ナンバー契約時で「i・ ナンバー利用設定」(64/AT#M) を「利用する」で設定したときは、この設定は無効になります。																	
● 内線通話の設定		73	@S														
設定	内線通話 (使わない)	73 0	AT @ S 0														
	(使う)	73 1	AT @ S 1														
機能	・ アナログポート 間の電話機などで内線通話を使うかどうかを設定します。																
説明	・ 内線発信するときは、受話器を上げて発信音「ツー」が聞こえているときに (＊) ① をダイヤルしてください。																
注意	・ フレックスホンの4 つの機能のうち、「通信中転送」「三者通話」「着信転送」のどれか1 つでも「使う」に設定すると、内線通話はできません。																
● 擬似キャッチホンの設定		63	@O														
設定	擬似キャッチホン (使わない)	63 0	AT @ O 0														
	(使う)	63 1	AT @ O 1														
機能	・ キャッチホンなどの契約をしなくても、同様の機能を利用できます。																
説明	・ 外線通話中に着信があったとき、(フック) を押すと通話を切り替えられます。																

● 擬似キャッチホンの設定 (続き)

	電話機/AT コマンドで設定するとき、擬似キャッチホンを使うアナログポートは「着信ポートの設定」(52/AT@K)で着信できる設定 (ANALOG1(ポート 1)のみ または ANALOG2(ポート 2)のみ)にします。次に「話中着信の設定」(62/AT@N)で話中着信する設定にします。最後に「アナログポート 接続機種」(32/AT@E)で「アナログ電話機」「モデム/FAX機能付き電話機」「ナンバー・ディスプレイ対応電話機/アダプタ/FAX電話」のどれかに設定してください。
注意	- 相手側に対する保留音は無音です。 - 擬似キャッチホン機能とNTTのキャッチホン (フレックスホン) は併用できません。どちらか一方を使うときは、もう一方は使わない設定にしてください。

簡単設定 「ポート共通設定」

電話機

ATコマンド

設定値

● フレックスホンの設定

71

@P

	キャッチホン (使う) (コールウェーティング)	71 n	AT @ P n	n=0~15 : 購入時設定=0
設定	(使わない)			
	通信中転送 (使う) (使わない)			
	三者通話 (使う) (使わない)			
	着信転送 (使う) (使わない)			
機能	NTTの付加サービスであるフレックスホンの4つの機能ごとに使うかどうかを選びます。			
注意	- NTTのキャッチホン (フレックスホン) と擬似キャッチホン機能は併用できません。どちらか一方を使うときはもう一方は使わない設定にしてください。 ・ ナンバー契約の場合、かんたん利用モード (購入時設定) では着信転送は利用できません。着信転送を利用するときは、カスタム利用モードにしてから設定してください。詳細は、P.41をご参照ください。 - 電話機/AT コマンドで設定するとき、キャッチホン (フレックスホン) を使うアナログポートは 「着信ポートの設定」(52/AT@K)で着信できる設定 (ANALOG1(ポート 1)のみ または ANALOG2(ポート 2)のみ) にします。次に「話中着信の設定」(62/AT@N) で話中着信をする設定にします。最後に「アナログポート 接続機種」(32/AT@E) で「アナログ電話機」「モデム/FAX機能付き電話機」「ナンバー・ディスプレイ対応電話機/アダプタ/FAX電話」のどれかに設定し - 着信転送を利用するときは「着信ポート の設定」(52/AT@K)、「着信転送先電話番号の登録」(01/AT@Q) も必要です。設定例 P.115~をご参照ください。			

n =	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
キャッチホン	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
通信中転送	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
三者通話	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
着信転送	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

簡単設定 「ポート共通設定」

電話機

ATコマンド

● アナログ機器優先モード (リソースBOD) の設定

82

@U

設定	アナログ機器を優先しない	82 0	AT @ U 0
	アナログ機器からの発信のときだけ優先する	82 1	AT @ U 1
	アナログ機器への着信のときだけ優先する	82 2	AT @ U 2
	アナログ機器の発信/着信のどちらのときも優先する	82 3	AT @ U 3

	簡単設定 「ポート共通設定」	電話機	ATコマンド
--	----------------	-----	--------

● アナログ機器優先モードの設定 (続き)		82	@ U
機能	パソコンを使って 128kbps で MP 通信をしているときに、アナログ通信機器を優先して B チャンネルを割り当てるための設定です。		
説明	- 通常 128kbps で MP 通信をすると B チャンネルを 2 つとも使うため、アナログ通信機器を使えませんが、ここでの設定をしておけばアナログ通信機器を使っているときはパソコンでの通信速度を 64kbps に落とし、B チャンネルを 1 つアナログ通信に割り当て、アナログ通信が終了したときにパソコンの通信速度を 128kbps に戻すような便利な使い方ができます。 - NTT と通信中着信通知サービスを「許可」で契約する必要があります。		

● フッキングタイミング調節		34	# D
設定	フッキングあり、瞬断判定200ms、オンフック判定1100ms	34 0	AT # D 0
	フッキングあり、瞬断判定300ms、オンフック判定1100ms	34 1	AT # D 1
	フッキングなし、瞬断判定200ms、オンフック判定200ms	34 2	AT # D 2
	フッキングなし、瞬断判定300ms、オンフック判定300ms	34 3	AT # D 3
機能	フッキングの利用、瞬断、オンフックのタイミングを選びます。		
注意	「フッキングなし」(「342/AT#D2」または「343/AT#D3」) に設定した場合、内線転送や保留、キャッチホンなど、フッキングが必要な機能は使えなくなります。		

● i・ナンバー利用設定		64	# M
設定	かんたん利用モード (i・ナンバーを利用する)	64 0	AT # M 0
	カスタム利用モード (i・ナンバーを利用する)	64 1	AT # M 1
	i・ナンバーを利用しない	64 2	AT # M 2
機能	NTT の付加サービスである i・ナンバーの使い方を選びます。		
説明	- 購入時設定で i・ナンバーを利用する設定になっていますが、i・ナンバーを契約していないときでも問題なく動作します。 - ダイヤルインサービスとは併用できません。 - i・ナンバー契約時に「i・ナンバーを利用する」の設定のときは、「グローバル着信の設定」(72/AT@R) の設定は無効になります。 「カスタム利用モード」を設定しているとき、関連するその他のコマンドは契約者回線番号をダイヤルイン登録番号0、追加番号をダイヤルイン登録番号1 として設定します。 - 発信時、着信時の動作の詳細は、P.38～41をご参照ください。		

■ポート 毎設定

簡単設定「ポート毎設定」			電話機	ATコマンド	設定値
● アナログポート接続機種			32	@E	
設定	アナログ電話機		32 r 0	AT @ E r=0	r=1～2: アナログポート番号
	モデム/FAX機能付き電話機		32 r 1	AT @ E r=1	
	FAX (G3)		32 r 2	AT @ E r=2	
	ナンバー・ディスプレイ対応電話機 /アダプタ/FAX電話		32 r 5	AT @ E r=5	
機能	・ アナログポート に接続するアナログ機器の種別を設定します。				
注意	・ 「ナンバー・ディスプレイ対応電話機/アダプタ/FAX電話」に設定したとき、お使いの機種によっては正常に動作しない場合があります。 ・ キャッチホンを利用するアナログポート の機器種別は、「アナログ電話機」「モデム/FAX機能付き電話機」「ナンバー・ディスプレイ対応電話機/アダプタ/FAX電話」のどれかを設定してください。				
● 発信までの時間(桁間タイマー)の設定			41	@G	
設定	発信までの時間(桁間タイマー)	5	41 r n	AT @ G r=n	r=1～2: アナログポート番号 n=3～50秒 (購入時設定=5秒)
機能	・ アナログポート に接続したアナログ機器から発信するときに、相手先番号をダイヤル終了してから何秒後に発信するかを設定します。				
説明	・ ダイヤル番号「110」、「119」は、この設定に関係なく即時発信します。 ・ ダイヤルの最後に (#) を押すと、この設定値に関係なくすぐに発信します。 ただし、「機能ボタンの設定」(33/@F) で (*) の機能を即時発信に変えたときは、(*) を押します。				
● 内線呼び出し音の設定			42	@H	
設定	呼び出し音1(リン・リン)		42 r 0	AT @ H r=0	r=1～2: アナログポート番号
	呼び出し音2(リンリン・リンリン)		42 r 1	AT @ H r=1	
	呼び出し音3(リンリンリン・リンリンリン)		42 r 2	AT @ H r=2	
機能	・ 内線の呼び出し音を選びます。				
● 内線着信表示の設定			なし	@D	
設定	ポート 1	1	—	AT @ D 1=s	s=20桁までの数字 (文字)
	ポート 2	2	—	AT @ D 2=s	
機能	・ ナンバー・ディスプレイ対応電話機/アダプタを接続し、「アナログポート 接続機種」(32/AT@E) で「ナンバー・ディスプレイ対応電話機/アダプタ/FAX電話」に設定しているとき、他のアナログポート から内線着信すると、ここで設定した内容を表示します。				
説明	・ 入力できる数字/文字は20桁までです。アルファベット (大文字と小文字を区別)、数字 (0～9)、記号を指定できます。ただし、お使いのナンバー・ディスプレイ電話機 (アダプタ) によっては記号が表示できない場合があります。 ・ 数字 (文字)「s」を省略すると、登録した表示内容を削除します。				

簡単設定「ポート毎設定」		電話機	ATコマンド	設定値																																		
● 発信者番号通知の設定		93	@Y																																			
設 定	NTTとの契約による	93 r 0	AT @ Y r=0	r=1～2: アナログポート番号																																		
	通常通知	93 r 1	AT @ Y r=1																																			
	通常非通知	93 r 2	AT @ Y r=2																																			
機 能	・ 発信時に、相手先に回線番号を通知するかどうかを設定します。																																					
説 明	・ 電話番号を通知するかどうかは、以下のように決まります。																																					
	<table><tr><th>NTTとの契約</th><th>T A の設定</th><th>相手の電話番号の前に…</th><th>通 知</th></tr><tr><td>常時非通知</td><td>無関係</td><td>無関係</td><td>しない</td></tr><tr><td rowspan="4">通話ごと非通知</td><td>NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)</td><td>(何もなし)</td><td>する</td></tr><tr><td>通常通知 (93r1/AT@Y r=1)</td><td>「184」をダイヤル</td><td>しない</td></tr><tr><td>通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)</td><td>(何もなし)</td><td>する</td></tr><tr><td>通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)</td><td>「186」をダイヤル</td><td>しない</td></tr><tr><td rowspan="4">回線ごと非通知</td><td>NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)</td><td>(何もなし)</td><td>する</td></tr><tr><td>通常通知 (93r1/AT@Y r=1)</td><td>「184」をダイヤル</td><td>しない</td></tr><tr><td>通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)</td><td>(何もなし)</td><td>する</td></tr><tr><td>通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)</td><td>「186」をダイヤル</td><td>しない</td></tr></table>				NTTとの契約	T A の設定	相手の電話番号の前に…	通 知	常時非通知	無関係	無関係	しない	通話ごと非通知	NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)	(何もなし)	する	通常通知 (93r1/AT@Y r=1)	「184」をダイヤル	しない	通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	(何もなし)	する	通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	「186」をダイヤル	しない	回線ごと非通知	NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)	(何もなし)	する	通常通知 (93r1/AT@Y r=1)	「184」をダイヤル	しない	通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	(何もなし)	する	通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	「186」をダイヤル	しない
	NTTとの契約	T A の設定	相手の電話番号の前に…	通 知																																		
	常時非通知	無関係	無関係	しない																																		
	通話ごと非通知	NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)	(何もなし)	する																																		
		通常通知 (93r1/AT@Y r=1)	「184」をダイヤル	しない																																		
		通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	(何もなし)	する																																		
		通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	「186」をダイヤル	しない																																		
	回線ごと非通知	NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)	(何もなし)	する																																		
		通常通知 (93r1/AT@Y r=1)	「184」をダイヤル	しない																																		
		通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	(何もなし)	する																																		
		通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	「186」をダイヤル	しない																																		
	・ 相手先に通知されるのは「発信者番号の設定」(81/AT@T) で設定した回線番号になり、「発信者番号の設定」で何も設定していないときは契約者回線番号です。																																					
・ i・ナンバーを契約しているときに「通常通知」または「通常非通知」に設定した場合、ANALOG2(ポート 2) からの発信で追加番号を通知するには、「発信者番号の設定」(81/AT@T) と「回線番号の登録」(43/AT@I) も合わせて設定してください。これらの設定がないと契約者回線番号の登録が通知されます。詳細は、P.38～をご参照ください。																																						
・ NTTの INSマジックボックス、INSボイスワープ、迷惑電話お断りサービスなど発信者番号の設定を必要とする場合は、「発信者番号の設定」(81/AT@T) で設定してください。ここでの設定は必要ありません。																																						
・ 相手先がナンバーリクエストを契約しているときは、電話番号を通知しないと電話がつかないことがあります。																																						
・ i・ナンバー契約の場合相手先に通知する内容は、設定したモードによって次のようになります。																																						
注 意	(1) かんたん利用モード のとき	ANALOG1(ポート 1) から 契約者回線番号、ANALOG2(ポート 2) から 追加番号を通知します。 「発信者番号の設定」(81/AT@T) で変えられます。																																				
	(2) カスタム利用モード のとき	購入時設定ではANALOG1(ポート 1) から 契約者回線番号、ANALOG2(ポート 2)から 追加番号を通知します。 「発信者番号の設定」(81/AT@T) で変えられます。																																				

簡単設定「ポート毎設定」		電話機	ATコマンド	設定値
● 発信者番号の設定		81	@T	
設定	契約者回線 (INSネット64網から設定)	81 r 0	AT @T r=0	r=1~2: アナログポート番号
	ダイヤルイン登録番号1 (ダイヤルイン追加番号)	81 r 1	AT @T r=1	
	ダイヤルイン登録番号2 (ダイヤルイン追加番号)	81 r 2	AT @T r=2	
	ダイヤルイン登録番号3 (ダイヤルイン追加番号)	81 r 3	AT @T r=3	
	ダイヤルイン登録番号0 (契約者回線番号)	81 r 4	AT @T r=4	
機能	・ 相手先に通知する回線番号を設定します。			
説明	・ 電話番号を通知するかどうかは、以下のようになります。			
	NTTとの契約	T Aの設定	相手の電話番号の前に…	通 知
	常時非通知	無関係	無関係	しない
	通話ごと非通知	NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)	(何もなし)	する
			「184」をダイヤル	しない
		通常通知 (93r1/AT@Y r=1)	(何もなし)	する
			「184」をダイヤル	しない
		通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	(何もなし)	しない
			「186」をダイヤル	する
	回線ごと非通知	NTTとの契約による (93r0/AT@Y r=0)	(何もなし)	しない
			「186」をダイヤル	する
		通常通知 (93r1/AT@Y r=1)	(何もなし)	する
			「184」をダイヤル	しない
		通常非通知 (93r2/AT@Y r=2)	(何もなし)	しない
			「186」をダイヤル	する
・ NTTの INSマジックボックス、INSボイスワープ、迷惑電話お断り サービスなど発信者番号を必要とする場合は、ここで設定が必要です。契約している回線番号を発信者番号にして設定してください。設定例P.118~119を参照ください。				
・ 契約者回線番号だけで利用する場合は、この設定は必要ありません。				
・ ダイヤルインサービスを契約している場合は、ここでの設定が必要です。				
注意	・ ダイヤルイン登録番号1~3を設定していても、「回線番号の登録」(43/AT@ I)のダイヤルイン登録番号1~3でダイヤルイン追加番号を登録していないときは、INSネット 64網から契約者回線番号を設定します。			
	・ グローバル着信なしでダイヤルイン契約をしているときは契約者回線番号を「回線番号の登録」(43/AT@ I)のダイヤルイン登録番号1~3でいずれかのダイヤルイン登録番号に設定し、設定されたダイヤルイン登録番号を「発信者番号の設定」(81/AT@T)のダイヤルイン登録番号1~3で選びます。			
	・ i・ナンバー契約の場合、相手先に通知する内容は、設定したモードによって次のようになります。			
	(1) かんたん利用モード のとき		ANALOG1(ポート 1) から 契約者回線番号、ANALOG2(ポート 2) から 追加番号を通知します。この設定で変えられます。	
	(2) カスタム利用モード のとき		購入時設定ではANALOG1(ポート 1) から 契約者回線番号、ANALOG2(ポート 2) から 追加番号を通知します。なお、この設定で変えられます。	

■ポート 毎設定 / 電話番号毎設定

簡単設定「ポート毎設定」		電話機	ATコマンド	設定値
● 機能ボタンの設定		33	@ F	
設定	機能ボタン # (#)	33 r n	AT @F r=n	r=1~2: アナログポート番号 n=0~10 (購入時設定=9)
	なし			
	即時発信			
	サブアドレス			
機能ボタン * (*)	機能ボタン * (*)			
	なし			
	即時発信			
	サブアドレス			
機能	・アナログポートに接続したアナログ機器からダイヤルするときに、(*) と (#) をどのような機能にするかを設定します。			
説明	・即時発信: ダイヤル番号の最後に、指定した機能ボタンを押すとダイヤル終了後すぐに発信します。 ・サブアドレス: ダイヤル番号の最後に、指定した機能ボタンに続けて相手先、サブアドレスを入力してください。			

n=	0	1	2	4	5	6	8	9	10
#	なし	○	○	○				○	○
#	即時発信							○	○
#	サブアドレス				○	○	○		
*	なし	○						○	
*	即時発信		○				○		○
*	サブアドレス	○			○			○	

● 音量調節		24	# A	
設定	送話音量調節			r=1~2: アナログポート番号
	小さくする	24 r 01	AT#Ar 0=1	
	標準	24 r 02	AT#Ar 0=2	
	大きくする	24 r 03	AT#Ar 0=3	
	受話音量調節			
	小さくする	24 r 11	AT#Ar 1=1	
	標準	24 r 12	AT#Ar 1=2	
	大きくする	24 r 13	AT#Ar 1=3	
機能	・アナログポートごとに送話、受話音量を調節します。			

簡単設定「電話番号毎設定」		電話機	ATコマンド	設定値
---------------	--	-----	--------	-----

● 回線番号の登録		43	@ I	
設定	ダイヤルイン番号0(契約者回線番号)	43 0 s	AT @I 0=s	s=31桁までの 契約者回線番号
	ダイヤルイン番号1	43 1 s	AT @I 1=s	
	ダイヤルイン番号2	43 2 s	AT @I 2=s	/ダイヤルイン
	ダイヤルイン番号3	43 3 s	AT @I 3=s	追加番号
機能	・NTTとダイヤルイン契約をしている場合、契約方法によって設定内容が変わります。以下を参照し、契約者回線番号とダイヤルイン追加番号を登録してください。 ・「グローバル着信有り」 ダイヤルイン番号0に契約者回線番号、ダイヤルイン番号1~3にダイヤルイン追加番号を登録 ・「グローバル着信なし」 ダイヤルイン番号1~3に契約者回線番号とダイヤルイン追加番号を登録			
説明	・契約者回線番号、またはダイヤルイン追加番号は、「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。			

説明は次ページへ続く

● 回線番号の登録(続き)

説明	- ATコマンド / 電話機で設定するとき、番号「s」を省略すると、登録したダイヤルイン登録番号を削除します。 - i-ナンバー契約時に発信者番号として登録する場合は、ダイヤルイン番号0に契約者回線番号、ダイヤルイン番号1に追加番号を設定してください。 - i-ナンバー契約の場合、着信時には本設定内容は無効です。
----	---

	簡単設定「電話番号毎設定」	電話機	ATコマンド	設定値
--	---------------	-----	--------	-----

● 着信転送先電話番号の登録

01

@Q

設定	着信転送先電話番号0	01 0 s	AT @ Q 0=s	s=31桁までの 着信転送先番号
	着信転送先電話番号1	01 1 s	AT @ Q 1=s	
	着信転送先電話番号2	01 2 s	AT @ Q 2=s	
	着信転送先電話番号3	01 3 s	AT @ Q 3=s	
機能	NTTの付加サービス、フレックスホンの着信転送を契約しているとき、「回線番号の登録」(43/AT@I)で登録したダイヤルイン登録番号ごとに着信転送先の電話番号を登録できます。			
説明	契約者回線番号またはダイヤルイン追加番号は、「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。			
	ATコマンド / 電話機で設定するとき、番号「s」を省略すると、登録したダイヤルイン登録番号を削除します。			
	着信転送先電話番号0 (010s/AT@Q0=s) を指定するときは、以下の場合が該当します。			
	(1) ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。 (2) 「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。 (3) 「回線番号の登録」(43/AT@I) のダイヤルイン番号1～3に登録されていないダイヤルイン追加番号。			
	i-ナンバー契約の場合、かんたん利用モード（購入時設定）ではこの設定は無効です。			

● 着信ポートの設定

52

@K

設定	着信しない	52 q 0	AT @K q=0	q=0～3:ダイヤルイン登録番号
	ANALOG1(ポート1)のみ	52 q 1	AT @K q=1	
	ANALOG2(ポート2)のみ	52 q 2	AT @K q=2	
	両ポート	52 q 3	AT @K q=3	
	ANALOG1(ポート1)優先	52 q 4	AT @K q=4	
	ANALOG2(ポート2)優先	52 q 5	AT @K q=5	
	着信転送	52 q 6	AT @K q=6	
機能	アナログ通信機器から着信があったときに、「回線番号の登録」(43/AT@I)で登録したダイヤルイン登録番号ごとに着信するアナログポートを選べます。			
説明	ダイヤルイン登録番号0を指定するときは、以下の場合が該当します。			
	(1) ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。 (2) 「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。 (3) 「回線番号の登録」(43/AT@I) のダイヤルイン番号1～3に登録されていないダイヤルイン追加番号。			

● 着信ポートの設定 (続き)

- ・フレックスホンのキャッチホンを利用するとき、着信可能で空いているアナログポートがあるときはそちらに着信し、話中着信しません。(片方のBチャンネルをデジタルデータ通信で使っているときを除く。)ただし、「ANALOG1(ポート 1) 優先」「ANALOG2(ポート 2) 優先」のときは片方のアナログポートが空いていても優先着信の設定をしたアナログポートに話中着信します。
- ・フレックスホンの着信転送を利用するときは、「着信転送」を設定し、「着信転送先電話番号の登録」(01/AT@O)で転送先の電話番号を登録します。
- ・アナログ通信機器から着信があったときに、「回線番号の登録」(43/AT@I)で登録したダイヤルイン登録番号ごとに着信するアナログポートを選択できます。
- ・キャッチホンを使用する時に話中着信するポートは、「着信ポートの設定」(52/AT@K)の設定によって次の表のようになります。

設 定	話中着信するポート			
	ANALOG1(ポート1) 通信中	ANALOG2(ポート2) 通信中	両ポート通信中	その他
着信しない	着信しない			
ANALOG1(ポート1)のみ	ANALOG1(ポート1)に着信			
ANALOG2(ポート2)のみ	ANALOG2(ポート2)に着信			
両ポート	ANALOG2(ポート2)に着信	ANALOG1(ポート1)に着信		※1 ※2 ※3
ANALOG2(ポート2) 優先	ANALOG1(ポート1)に着信			※1
ANALOG2(ポート2) 優先	ANALOG2(ポート2)に着信			※2
着信転送	着信しない			

説明

- ※1. 片方のBチャンネルがデータ通信等で使われている場合は、ANALOG1(ポート 1)、ANALOG2(ポート 2)にかかわらず、通信中のポートに話中着信します。
- ※2. 1つのアナログポートが通信中で、もう片方のポートが着信出来ないときは、ANALOG1(ポート 1)、ANALOG2(ポート 2)にかかわらず、通信中のポートに話中着信します。
- ※3. 話中着信の設定(62/AT@N)でANALOG1(ポート 1)とANALOG2(ポート 2)の両ポートで話中着信を許可している場合、両ポートとも通話中のときは、ANALOG1(ポート 1)だけ話中着信します。
- ・i・ナンバー契約の場合、各ポートに着信する内容は、設定したモードによって次のようになります。
- (1) かんたん利用モードのとき ANALOG1(ポート 1)に契約者回線番号、ANALOG2(ポート 2)に追加番号が着信します。この設定では変えられません。
- (2) カスタム利用モードのとき 購入時設定ではANALOG1(ポート 1)に契約者回線番号、ANALOG2(ポート 2)に追加番号が着信します。この設定で変えられます。

簡単設定「電話番号毎設定」

電話機

ATコマンド

設定値

● サブアドレスの登録

51

@J

設定

サブアドレス登録

51 q r s

AT@J q r = s

q=0~3:ダイヤルイン登録番号
r=1~2:アナログポート番号
s=19桁までのサブアドレス

機能

- ・「回線番号の登録」(43/AT@I)で登録したダイヤルイン登録番号ごとにサブアドレスが登録できます。サブアドレスを登録すると、サブアドレス付きで着信があったときに、登録してあるサブアドレスと一致したときだけ着信させられます。

説明は次ページへ続く

● サブアドレスの登録 (続き)

説明	- ATコマンド / 電話機で設定するとき、番号「s」を省略すると、登録したサブアドレスを削除します。 - ダイヤルイン登録番号0を指定するときは、以下の場合が該当します。 - ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。 「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。 「回線番号の登録」(43/AT@I) のダイヤルイン番号1～3に登録されていないダイヤルイン追加番号。 - サブアドレスを登録した場合、サブアドレスを指定しないでかけてきた電話やFAXからの着信はできません。 - アナログ回線などからサブアドレスを通知して発信することはできません。 - i・ナンバー契約の場合、かんたん利用モード（購入時設定）ではこの設定は無効です。

簡単設定「電話番号毎設定」

電話機

ATコマンド

設定値

● 話中着信の設定

62

@N

設定	話中着信 (しない)	62qr0	AT@Nqr=0	q=0～3:ダイヤルイン登録番号
	(する)	62qr1	AT@Nqr=1	r=1～2:アナログポート番号
機能	「回線番号の登録」(43/AT@I) で登録したダイヤルイン登録番号ごとに、話中着信するかどうかを設定します。			
説明	- ダイヤルイン登録番号0を指定するときは、以下の場合が該当します。 - ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。 「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。 「回線番号の登録」(43/AT@I) のダイヤルイン番号1～3に登録されていないダイヤルイン追加番号。 - キャッチホンまたは擬似キャッチホンを利用するときは、話中着信をする設定にしてください。 - 話中着信する設定ができるのは、「着信ポートの設定」(52/AT@K) で着信する設定になっているアナログポートだけです。 - i・ナンバー契約の場合、かんたん利用モード（購入時設定）では、話中着信許可になっています。			

● 外線呼び出し音の設定

61

@M

設定	呼び出し音1 (リン・リン)	61qr0	AT@Mqr=0	q=0～3:ダイヤルイン登録番号
	呼び出し音2 (リン・リン・リン・リン)	61qr1	AT@Mqr=1	r=1～2:アナログポート番号
	呼び出し音3 (リン・リン・リン・リン・リン・リン)	61qr2	AT@Mqr=2	
機能	ダイヤルイン登録番号ごとに外線の呼び出し音を選択します。			
説明	- 呼び出し音が鳴るのは、「着信ポートの設定」(52/AT@K) で着信する設定になっているアナログポートだけです。 - i・ナンバー契約の場合、かんたん利用モード（購入時設定）では、呼び出し音1で固定です。			

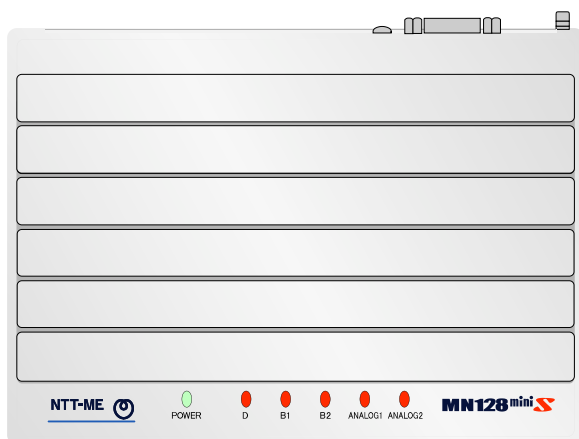
簡単設定「電話番号毎設定」		電話機	ATコマンド	設定値
● RVS-COMモードの設定		35	#E	
設定	電話機操作で転送/時間で自動転送	35 q 0	AT #E q=0	q=0~3:ダイヤルイン登録番号
	自動転送	35 q 1	AT #E q=1	
機能	・ FAX着信したとき、パソコン (RVS-COM) でFAXを受信する方法を設定します。			
説明	・ FAXを受信するには、RVS-COMを起動しておく必要があります。(RVS-COMについての情報や使い方などはRVS-COMのマニュアルを参照してください。) ・ 「電話機操作で転送/時間で自動転送」は、アナログポート に接続した電話機から操作してパソコン(RVS-COM)でFAXを受信します。「RVS-COMへの自動転送時間の設定」(36/AT#F) で設定された時間内に電話機が応答しなかったとき、パソコンでFAXを受信します。 ・ 「自動転送」は、「自動転送時間」に関係なくすべての着信をすぐにパソコン (RVS-COM) で受信しようとします。相手先から電話の着信があってもアナログポート に接続した電話機は呼び出しません。 ・ キャッチホンなどで話中着信したときは、パソコン (RVS-COM) でFAXが受信できません。 ・ ダイヤルイン登録番号0を指定するときは、以下の場合が該当します。 (1) ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。 (2) 「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。 (3) 「回線番号の登録」(43/AT@I) のダイヤルイン 番号1~3に登録されていないダイヤルイン追加番号。 ・ i・ナンバー契約の場合、かんたん利用モード (購入時設定) では、電話機操作の転送だけ可能です。時間での自動転送はできません。この設定は無効です。			

● RVS-COMへの自動転送時間の設定		36	#F																					
設定	転送しない	36 q 00	AT #F q=00	q=0~3:ダイヤルイン登録番号																				
	設定時間後に自動転送する	36 q n	AT #F q=n	n=01~19:自動転送時間																				
機能	・ アナログポート に着信したとき指定した時間アナログポート に接続した電話機を呼び出し、応答しなかったらパソコン (RVS-COM) に着信を転送します。	<table><tr><td>n =01: 5秒</td><td>=02: 10秒</td><td>=03: 15秒</td><td>=04: 20秒</td></tr><tr><td>=05: 25秒</td><td>=06: 30秒</td><td>=07: 35秒</td><td>=08: 40秒</td></tr><tr><td>=09: 45秒</td><td>=10: 50秒</td><td>=11: 55秒</td><td>=12: 60秒</td></tr><tr><td>=13: 75秒</td><td>=14: 90秒</td><td>=15: 105秒</td><td>=16: 120秒</td></tr><tr><td>=17: 135秒</td><td>=18: 150秒</td><td>=19: 165秒</td><td></td></tr></table>			n =01: 5秒	=02: 10秒	=03: 15秒	=04: 20秒	=05: 25秒	=06: 30秒	=07: 35秒	=08: 40秒	=09: 45秒	=10: 50秒	=11: 55秒	=12: 60秒	=13: 75秒	=14: 90秒	=15: 105秒	=16: 120秒	=17: 135秒	=18: 150秒	=19: 165秒	
n =01: 5秒	=02: 10秒	=03: 15秒	=04: 20秒																					
=05: 25秒	=06: 30秒	=07: 35秒	=08: 40秒																					
=09: 45秒	=10: 50秒	=11: 55秒	=12: 60秒																					
=13: 75秒	=14: 90秒	=15: 105秒	=16: 120秒																					
=17: 135秒	=18: 150秒	=19: 165秒																						
説明	・ FAXを受信するには、RVS-COM を起動しておく必要があります。(RVS-COMについての情報や使い方などはRVS-COMのマニュアルを参照してください。) ・ 「RVS-COMモード の設定」 (35/AT#E) で自動転送に設定したときは、本設定に関係なくすべての着信をすぐにパソコン(RVS-COM)で受信します。 ・ キャッチホンなどで話中着信したときは、パソコン (RVS-COM) で FAXが受信できません。 ・ ダイヤルイン登録番号0を指定するときは、以下の場合が該当します。 (1) ダイヤルイン 契約をしていないときの契約者回線番号。 (2) 「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。 (3) 「回線番号の登録」(43/AT@I) のダイヤルイン 番号1~3に登録されていないダイヤルイン追加番号。																							

■ 擬似なりわけサービス

簡単設定「擬似なりわけサービス」		電話機	ATコマンド	設定値
● 相手先回線番号の登録		83	@V	
設定	登録番号 電話番号	83 <i>q s</i>	AT @V <i>q=s</i>	<i>q</i> =00～29:登録番号 <i>s</i> =31桁まで:電話番号
機能	・ここで登録した相手先の回線番号からの着信があったとき、「擬似なりわけサービスと擬似ナンバーリクエストの設定」(92/AT@X)での設定に従って動作します。			
説明	・電話番号は、「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。電話番号を省略すると、登録された電話番号を削除します。 ・「相手先サブアドレスの登録」(91/AT@W)によって、ここで登録した回線番号ごとにサブアドレスが設定できます。			
● 相手先サブアドレスの登録		91	@W	
設定	サブアドレス	91 <i>q r s</i>	AT@W <i>q r=s</i>	<i>q</i> =00～29:登録番号 <i>r</i> =1～2:アナログポート番号 <i>s</i> =19桁までのサブアドレス
機能	・「相手先回線番号の登録」(83/AT@V)で登録した回線番号ごとにサブアドレスの設定ができます。回線番号とここで登録したサブアドレスに該当する着信があったとき、「擬似なりわけサービスと擬似ナンバーリクエストの設定」(92/AT@X)に従って動作します。			
説明	・サブアドレス「s」を省略すると、すでに登録されていたサブアドレスを削除します。 ・ <i>q</i> =00～29(登録番号)は「83/AT@V」で登録した番号です。			
● 擬似なりわけサービスと 擬似ナンバーリクエストの設定				
設定	擬似なりわけサービスの着信	92	@X	
	着信しない	92 <i>q r 0</i>	AT@X <i>q r=0</i>	<i>q</i> =00～29:登録番号
	呼び出し音1(リン・リン) 話中着信音(ビビッ・ビビッ)	92 <i>q r 1</i>	AT@X <i>q r=1</i>	<i>r</i> =1～2:アナログポート番号
	呼び出し音2(リンリン・リンリン) 話中着信音(ビービ・ビービ)	92 <i>q r 2</i>	AT@X <i>q r=2</i>	
	呼び出し音3(リンリンリン・リンリンリン) 話中着信音(ビビビ・ビビビ)	92 <i>q r 3</i>	AT@X <i>q r=3</i>	
	相手が番号通知しない時の着信 (擬似ナンバーリクエスト)	92	@X	
	着信しない	92 99 <i>r 0</i>	AT@X99 <i>r=0</i>	<i>r</i> =1～2:アナログポート番号
	呼び出し音1(リン・リン) 話中着信音(ビビッ・ビビッ)	92 99 <i>r 1</i>	AT@X99 <i>r=1</i>	
	呼び出し音2(リンリン・リンリン) 話中着信音(ビービ・ビービ)	92 99 <i>r 2</i>	AT@X99 <i>r=2</i>	
	呼び出し音3(リンリンリン・リンリンリン) 話中着信音(ビビビ・ビビビ)	92 99 <i>r 3</i>	AT@X99 <i>r=3</i>	
機能	・「相手先回線番号の登録」(83/AT@V)で登録した相手先の回線番号からの着信があったとき、ここで設定した擬似なりわけサービスまたは擬似ナンバーリクエストの動作をします。また「相手先サブアドレスの登録」(91/AT@W)を登録している場合は、回線番号とサブアドレスが一致したときだけ設定動作をします。			
説明	・「外線呼び出し音の設定」(61/AT@M)の設定よりもこの設定が優先されます。 ・相手が番号通知しないときの着信(擬似ナンバーリクエスト)で着信しない(9299 <i>r 0</i> /AT@X99 <i>r=0</i>)に設定しているときは、相手先には「ツー・ツー・ツー」という話し中の音が流れます。			

インターネットに接続しよう



11

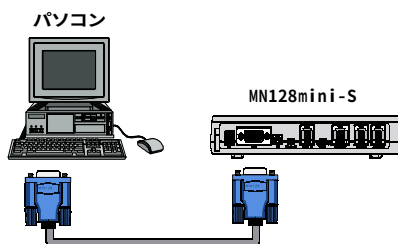
インターネットへ接続する前の準備と
接続手順について説明します。

■インターネットに接続する前に

●パソコンの用意

mini-Sを使ってインターネット接続するためには、シリアル (RS-232C) ポートを搭載したパソコンが必要です。パソコンのシリアルポートにmini-Sを接続する場合、インターネットに接続する回線速度に見合ったDTE速度 (パソコンのシリアルポートからmini-Sに出される速度) が必要です。mini-Sの対応しているDTE速度は115.2kbpsまでとなっています。下記の表を参照してパソコンのDTE速度を設定してください。

通信手順	接続する回線速度	パソコンのシリアルポート速度
同期	64 kbps	115.2 (57.6) kbps
	128 kbps	115.2 kbps



⑨ 注意

- mini-SはV.110などの非同期通信手順には対応しておりません。
- mini-SのDTEポートの速度は115.2kbpsまでの対応となっています。

メモ

- Macintoshなど、パソコン側のシリアルポートの速度が230.4kbpsに対応している場合でも、最高115.2kbps以下の設定にしてください。DTE速度230.4kbpsはmini-Sでは認識できません。
- 128kbpsでインターネットに接続する場合、DTE速度が115.2kbpsとなりますので、若干スループットが落ちることがあります。
- 回線速度64kbpsでインターネット接続するとき、パソコンのシリアルポートの対応速度が最高57.6kbpsまでの場合は若干スループットが落ちることがあります。
- 対応しているDTE速度が38.4kbpsまでなどの時は接続できない場合があります。詳しくはパソコン販売店等へお問い合わせください。
- お持ちのパソコンのDTE速度が何kbpsまで対応しているかなどに関してはパソコン販売店等へお問い合わせください。

●通信ソフトウェアの用意

インターネットに接続するためのソフトウェアとして、プロバイダにダイヤルするための PPP 対応の通信ソフトウェアと TCP/IP スタック、インターネット上の情報を閲覧するための WWW ブラウザ、インターネットでメールサービス等を利用する場合は、そのためのアプリケーションソフトが必要となります。

○PPP対応通信ソフトウェア

プロバイダにダイヤルして ISDN 回線で接続するための通信ソフトウェアです。下表は代表的な PPP 対応通信ソフトウェアの一例です。これ以外にも PPP 対応通信ソフトウェアは多数存在します。お使いの、または購入予定の通信ソフトウェアでインターネットに接続できるか否かに関しては、各ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェアの販売店等へお問い合わせください。

OSまたはパソコン	PPP対応ソフトウェア
Windows98 (Second Edition) /95/NT4.0	ダイヤルアップネットワーク
Macintosh	リモートアクセス(Open Transport/PPP)、 Free PPP



- ・インターネットに接続するために必要となる各種ソフトウェアは、mini-Sには添付しておりませんので、別途ご用意していただく必要があります。
- ・上記表中の Windows98 (Second Edition)/95/NT4.0 用のダイヤルアップネットワークは基本的に OS (Windows) に標準添付されていますが、別途インストールが必要になる場合があります。詳しくはパソコンのマニュアルを参照するか、各パソコンの販売店等へお問い合わせください。
- ・Macintosh をお使いの場合、OS によってはリモートアクセス (Open Transport/PPP) が標準添付されていますが、PPP 対応通信ソフトウェアが添付されていない場合は、市販品を購入するか雑誌や商用ネットからシェアウェアやフリーソフトを入手する必要があります。市販品購入に関しては、ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
- ・「FreePPP」はフリーソフトウェアです。
- ・各種通信ソフトウェアの購入またはインストールなどに関しては、パソコン販売店などにお問い合わせください。

○TCP/IP スタック

インターネットに接続するために必要となる標準的なプロトコルです。下表を参照してください。

TCP/IP スタック	説 明
TCP/IP	基本的には標準添付ですが、別途インストールが必要になる場合があります。詳しくは各パソコンのマニュアルを参照するか、販売店等へお問い合わせください。
TCP/IP	MacintoshのOS (漢字Talk) のバージョンなどによって「TCP/IP」で設定する場合と、「MacTCP」で設定する場合があります。インストールされていない場合は別途インストールが必要になる場合があります。インストールに関して、また、「TCP/IP」と「MacTCP」のどちらに対応しているのか、設定方法など、詳しくは各パソコンのマニュアルを参照するか、販売店等へお問い合わせください。
MacTCP	

○WWWブラウザ

回線が接続された後に、インターネットの画面を閲覧するためにはWWWブラウザが必要です。パソコンまたはOSによっては標準添付されていますが、通常は、別途用意する必要があります。

ソフトウェアの購入、操作方法などに関しては、各ソフトウェアのマニュアルを参照するか、販売店等へお問い合わせください。

●プロバイダとの加入契約

インターネットに接続するためには、まずプロバイダとの契約が必要です。契約に関する詳しいことは各プロバイダへお問い合わせください。

○プロバイダによって対応している回線種別 / 回線速度が違う

対応している回線種別や通信手順、回線速度などはプロバイダによって異なります。mini-Sは同期64kbpsまたは128kbpsに対応しています。ISDNの同期64kbpsまたは128kbpsのアクセスポイントに対応しているプロバイダと契約しましょう。

○ISDN回線に対応しているプロバイダと契約しよう

mini-Sからインターネットに接続する場合、ISDN回線に対応しているプロバイダと契約する必要があります。また、プロバイダによってはISDN回線とアナログ回線の両方に対応しているところもありますが、ISDN回線の番号にダイヤルしないと接続できません。

○アナログ対応の番号にダイヤルしても接続できません

mini-Sを使ってインターネットに接続する場合はISDN回線に対応している番号（プロバイダ）にしか接続できません。アナログ回線にしか対応していないプロバイダに接続するにはモデムを使う必要があります。

○対応している通信手順（同期／非同期）を確認しよう

一般的に「64kbps」や「128kbps」など高速通信は同期手順、「38.4kbps」などの通信は非同期手順です。ISDN回線に対応しているプロバイダと契約していても、非同期にしか対応していないときは接続できません。同期手順に対応したアクセスポイントの電話番号にダイヤルしてください。mini-Sは同期手順のみ対応しています。

○接続したい通信手順・回線速度に合わせた設定にする

接続先の通信手順／回線速度に合わせてmini-Sを設定してください。

例えば「64kbps」の同期手順で接続したい場合、mini-Sでも「回線速度64kbps／同期HDLC PPP」の設定にします。

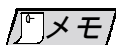


- ・ISDNに対応しているか、また何kbpsまで対応しているかなど詳しいことは各プロバイダへお問い合わせください。

■デジタルデータ通信と通信モード

●デジタルデータ通信の特徴

ISDNの通信では、デジタルデータ通信とアナログ通信の着信を区別します。つまり、mini-Sの「DTE」ポートに接続したパソコンからデジタルデータ通信をする場合、通信先も同様な構成でないと通信できません。P.35の図を参照してください。また、ISDNのデジタルデータ通信はモデムを使用した時のような接続音（ピ・ポ・パ・・・）は出ません。



mini-Sの「DTE」ポートから 177 番や 117 番、104 番などアナログだけに対応している番号には接続できません。

●非同期 / 同期 PPP 自動変換

一般的にパソコンのシリアルポートは同期通信に対応していません。mini-Sはパソコンのシリアルポートからの非同期 PPP データを同期信号（HDLC フォーマット）に変換して回線側に送り、回線側からの同期（HDLC フォーマット）データを非同期 PPP データに変換してパソコンへ送ります。これにより、64kbpsまたは128kbpsの同期通信が可能になります。PPP（Point to Point Protocol）とはRS-232C（パソコンのシリアルポート）に接続するときを使うプロトコルです。

○HDLC (PPP) モード—「AT&Q5」—

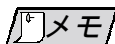
回線速度が64kbpsまたは128kbpsのとき、パソコンのシリアルポートから送られてきた非同期PPPデータをHDLCフォーマットに変換し、回線側から送られてきたHDLCフォーマットデータを非同期PPPデータに変換します。

○HDLC (PPP) /DTRモード—「AT&Q6」—

基本的な動作はHDLC (PPP) モードと同様ですが、パソコンのDTR信号がOFF→ONに切り替わったときに「AT&Z」（回線番号の登録、消去）で登録番号「0」に登録されている回線番号に発信してHDLCフォーマットで通信します。

●MP (Multilink Protocol) 通信

MP通信は、2つのBチャンネルを同時に使用して、128kbpsで通信を可能にするためのプロトコルです。mini-Sから128kMPで発信したとき、はじめに64kbpsで通信し、発信側/着信側両方のBチャンネルが空いているときに2つ目のBチャンネルを接続します。



- 接続先が MP 通信をできないときは 64kbps 通信になります。
- 認証を行うとき、接続先の認証方式は「PAP」または「CHAP」をサポートし、「CHAP」を利用するときは mini-S の AT コマンド「AT!M」で「ユーザ名」、「パスワード」を設定してください。
- 通常 2 つの B チャンネルを使っているときは、アナログポートに接続しているアナログ電話機などでは通信できませんが、mini-S ではアナログ機器を優先して使える (リソース BOD) ので、128kMP 通信を行っていてもアナログ着信や発信ができます。P.54、121 を参照してください。

●回線速度と通信モード

Windows98 (Second Edition)/95/NT4.0 でインターネットへ接続する場合、または MacOS でリモートアクセス (Open Transport/PPP) のような CCL ファイルを利用するソフトウェアを使用する場合は添付の CD-ROM から設定ファイルを登録してください。設定ファイルには下記のような設定を自動的にするのに必要な情報が記述してあるので、設定ファイルを登録した場合はコマンドによる設定は特に必要ありません。設定ファイルの登録方法については、Windows は P.149 ～、Macintosh は P.169 ～ を参照してください。

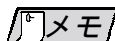
下表は、インターネット (ディジタルデータ通信) へ接続するのに必要な設定です。

設定項目	説 明	コマンド
通信モード	「HDLC通信モード」の設定	AT&Q
回線速度	「64kbps」、「128kbps」のどちらか接続したい速度を選択	AT\$ S
DTE速度	mini-S は DTE 速度自動判別ですので、設定の必要はありません。お持ちの通信ソフトウェアで設定してください。	—

○回線速度と通信モードの設定

下表は、回線速度と通信モードの設定例です。

回線速度	通信モード	初期化 AT コマンドの例
64kbps	同期 HDLC PPP	AT &F &Q5 \$S12 ¥Q3
128kbps	同期 MP	AT &F &Q5 \$S12 !H1 ¥Q3 または AT &F &Q5 \$S14 !H2 ¥Q3



- プロバイダによって非同期通信手順に対応しているところがありますが、mini-S は非同期通信手順には対応していません。

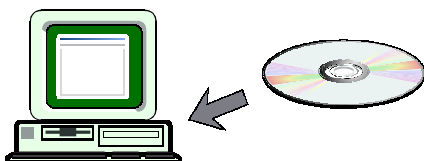
○フロー制御の設定

- 通信ソフトウェア側とmini-S側のフロー制御の設定を合わせる必要があります。
前ページの初期化コマンド内の「¥Q3」はmini-Sのフロー制御の設定を「RTS/CTS」にしています。この設定にしたら通信ソフトウェア側の設定も「RTS/CTS」にしてください。Windowsのダイヤルアップネットワークの場合、「フロー制御を使う」にチェックし、「ハードウェア (RTS/CTS)」が標準設定になっていますので、そのまま通信してください。

■ Windows での設定 (inf) ファイルの登録

- ・画面は、Windows98 Second Edition の場合の例です。それ以前の Windows98/95/NT4.0 の場合には、画面表示が異なる場合があります。
- ・Windows98 (Second Edition)/95 でインターネットに接続する場合、添付 CD-ROM から設定ファイル (inf ファイル) を登録するだけで mini-S を認識できます。
- ・inf ファイルを登録する場合、AT コマンドで設定している内容を一旦初期化して、通信が終了したときに元の状態に戻します。inf ファイルの内容と別の設定が必要なときは、P.162 を参照して追加設定をしてください。

(1) 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットしてください。



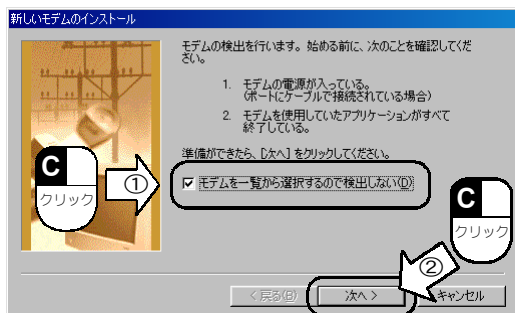
(2) ①「マイコンピュータ」→②「コントロールパネル」→③「モデム」と順にダブルクリックで開きます。



(3) 「モデムのプロパティ」の画面になったときは、**追加**をクリックします。

(4) 「コンピュータに新しいモデムが・・・」というメッセージが表示されたときは、「ハードウェアウィザードを実行しない」にチェックし、**次へ**をクリックします。

- (5) 「モデムの検出を行います。始める前に・・・」というメッセージになったら、「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、**次へ** をクリックします。

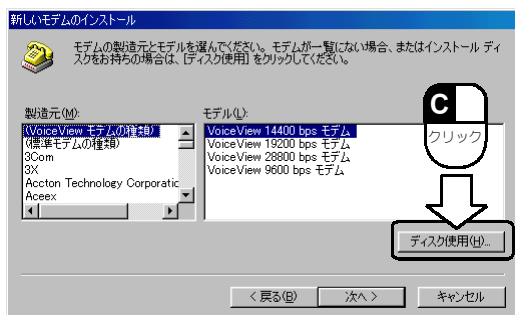


メモ

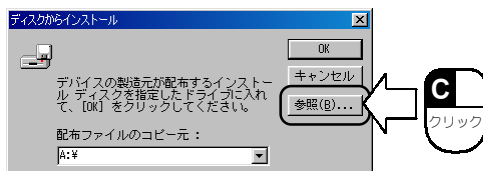
パソコンの環境によっては、以下の画面が表示されることがあります。

- ① インストールするモデムの種類を選ぶ画面
 - PCMCIA モデムカード
 - その他→ この場合は「その他」を選んで次へ進んでください。
- ② ハードウェアウィザードを実行するかどうかを選ぶ画面
 - 「ハードウェアウィザードを実行しない」をチェックして次へ進んでください。

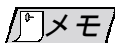
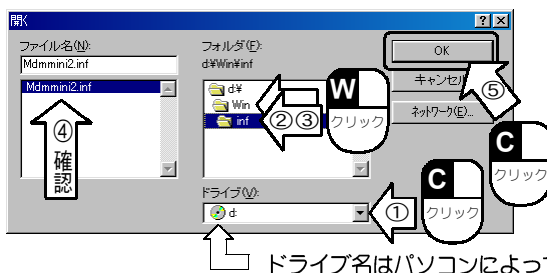
- (6) モデム一覧が表示されます。**ディスク使用** をクリックします。



- (7) 「ディスクからインストール」のウィンドウから **参照** をクリックします。

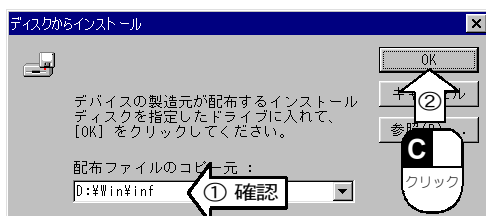


- (8) 「開く」の画面で、①CD-ROMドライブを選び、②「Win」フォルダをWクリックし、③「inf」フォルダをダブルクリックします。④「Mdmmini2.inf」が表示されていることを確認して、⑤ **OK** をクリックします。

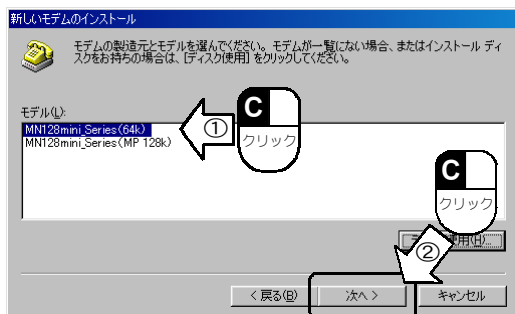


CD-ROMドライブ名は、お使いになるパソコンによって変わります。

- (9) ①「ドライブ名 ¥Win¥inf」が表示されていることを確認して、② **OK** をクリックします。



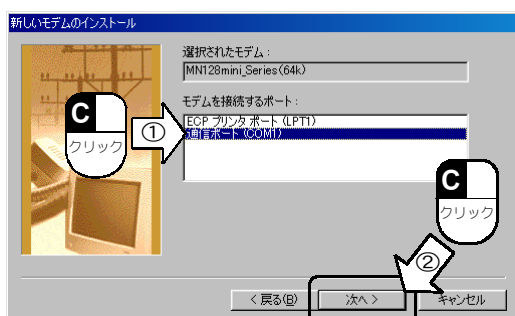
- (10) 「モデムの製造元と・・・」の画面の「モデル」のリストに「MN128mini_Series(64k)」、「MN128mini_Series (MP 128k)」の2つのモデルが表示されますので、① どちらかを選んで ② **次へ** をクリックします。



メモ

- 64kbpsで接続したいときは「MN128mini_Series(64k)」を、128kbpsで接続したいときは「MN128mini_Series(MP 128k)」を選んでください。
- ここでは64kbpsで接続するときの設定例を示します。

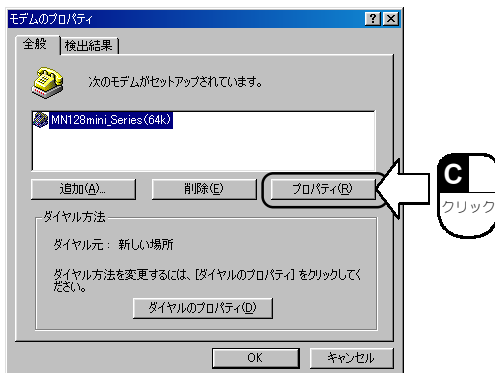
- (11) ① MN128mini-S を接続するCOMポート (COM1/COM2/・・・) を選んで ② **次へ** をクリックすると、「モデムをインストール。しばらくお待ちください」と表示されます。



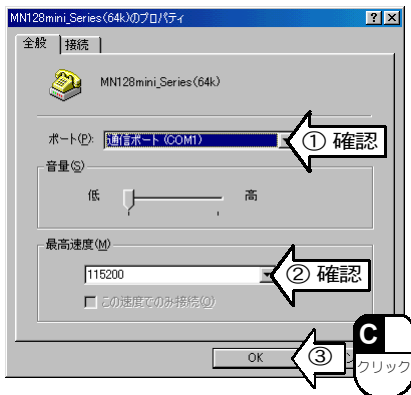
注意

- この例ではパソコンのシリアルポート (COMポート 1) に接続したい場合を表示しています。
- シリアルポートが COM1、COM2、COM3・・・のどれなのかわからない場合は、パソコンのマニュアルを参照するか、パソコンメーカーなどにお問い合わせください。

- (12) 「ダイヤルのプロパティ」の画面が表示されたら、「登録者」と「市外局番」を入力し、**次へ**をクリックします。
- (13) 「モデムは正常にセットアップされました」というメッセージが表示されたら **完了**をクリックします。
- (14) 「モデムのプロパティ」の画面に戻り、セットアップされた「MN128 mini_Series(64k)」が選ばれている状態で、**プロパティ**をクリックします。



- (15) 「MN128mini_Series(64k) のプロパティ」のウィンドウで、①「ポート」、②「最高速度」の設定が正しいことを確認(間違っている場合は修正)し、③ **OK** をクリックします。



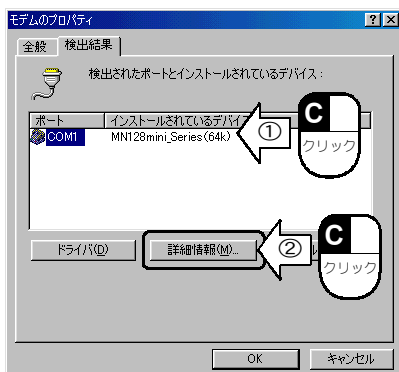
9 注意

回線速度が64kbpsまたは128kbpsで接続するには、DTE速度(パソコン等のシリアルポートからmini-Sに出される速度) 115200bpsを推奨します。パソコンのDTE速度が57600bpsまでしか対応していない場合は、57600を選んでください。

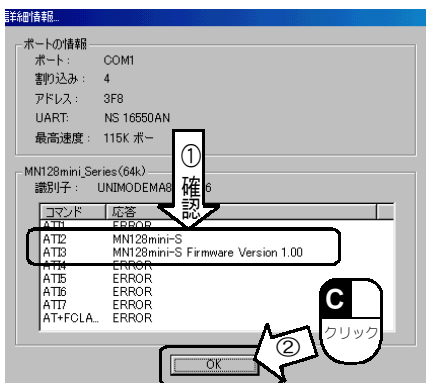
- (16) モデムのプロパティの画面で「検出結果」タブをクリックしてください。



- (17) ① MN128mini-S で使う COM ポートを選び、② **詳細情報** をクリックします。



- (18) 「詳細情報」の画面で、「ポート情報」に MN128mini-S が使うポートが表示され、① 下記のように「AT12」で製品名と「AT13」で現在のファームウェアのバージョンを表示することを確認し、② **OK** をクリックします。

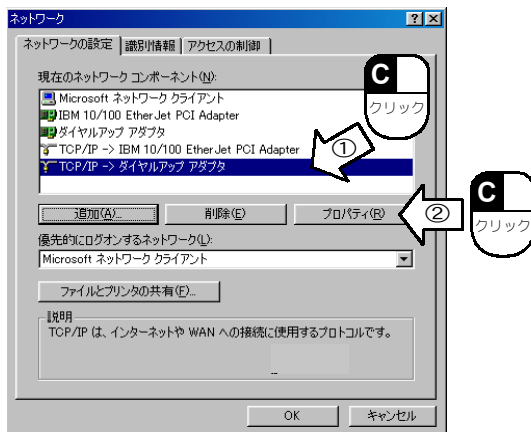


WindowsNT4.0の場合は、
P.163へ進んでください。

■ Windows98 (Second Edition)/95 のネットワークの設定と接続

(1) 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」の「ネットワーク」を選びます。

(2) 「ネットワーク」の画面で「TCP/IP」を選び、**プロパティ**をクリックします。

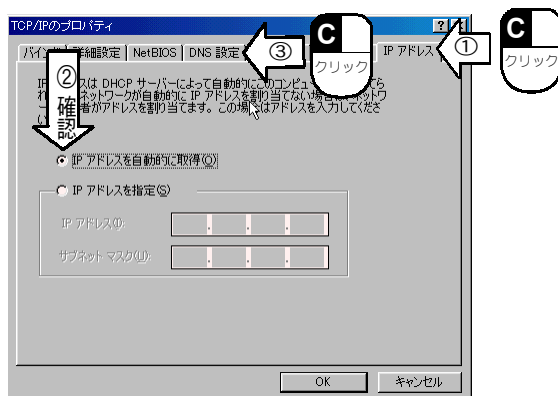


メモ

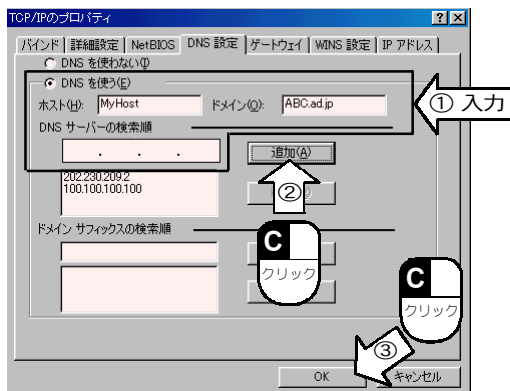
・TCP/IPが無い場合は、「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」と開き、**追加**をクリックします。「プロトコル」を選び、**追加**をクリックします。「製造元」で「Microsoft」、「ネットワークプロトコル」で「TCP/IP」を選び、**OK**をクリックすると追加されます。

ダイヤルアップアダプタが無い場合は、「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」と開き、**追加**をクリックします。「アダプタ」を選び、**追加**をクリックします。「製造元」で「Microsoft」、「ネットワークアダプタ」で「ダイヤルアップアダプタ」を選び、**OK**をクリックすると追加されます。詳細はパソコンのマニュアルを参照するか、パソコンの販売店等へお問い合わせください。

- (3) 「TCP/IPのプロパティ」のウィンドウの「IP アドレス」のタブで、「IP アドレスを自動的に取得」がチェックされていることを確認し、「DNS 設定」タブをクリックします。



- (4) 「DNS設定」タブで、① 適当な名前のホスト名 (この例ではMyhost)、契約されているプロバイダのドメイン名 (この例ではABC.ad.jpがプロバイダ)、DNSサーバのIP アドレスを入力し、② **追加** をクリックしてから ③ **OK** をクリックします。



- (5) 「ネットワーク」の画面に戻るので **OK** をクリックすると、「再起動しますか？」のメッセージが表示されるので、**はい** をクリックし、再起動してください。



●プロバイダにダイヤルアップ接続する

- (1) 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「新しい接続」と順にダブルクリックで開きます。



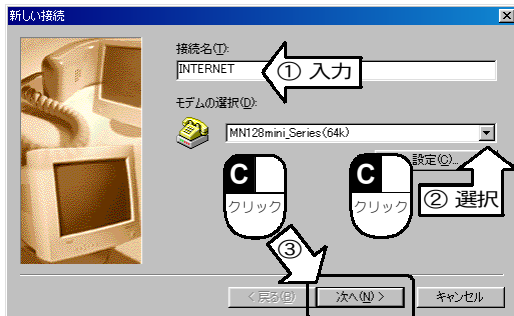
メモ

ダイヤアップネットワークが無い場合、「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」と順にダブルクリックで開き、「Windowsファイル」のタブをクリックします。「ファイルの種類」で「通信」にチェックし、**詳細** をクリックします。

「ダイヤルアップネットワーク」にチェックして **OK** をクリックすると、ダイヤルアップネットワークが追加されます。詳細はパソコンのマニュアルを参照するか、パソコン販売店等にお問い合わせください。

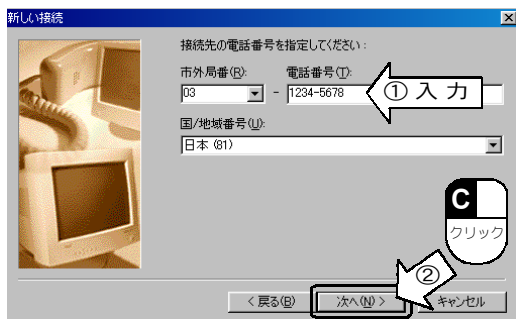
12

- (2) ①「新しい接続」のウィンドウで適当な接続名を入力し、②「モデムの選択」で「MN128mini_Series (64k)」を選び、③**次へ** をクリックします。

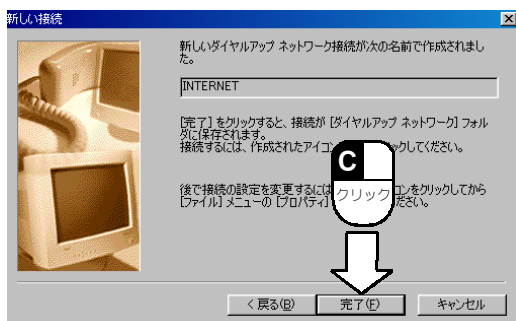


- (3) 「新しい接続」の画面で ① 接続先プロバイダのアクセスポイントの「市外局番」と「電話番号」を入力し、「国/地域番号」が日本 (81) になっているかを確認します。

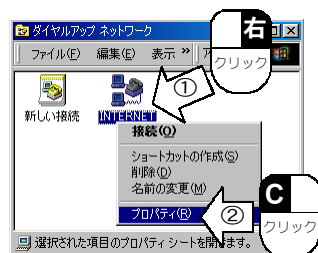
② **次へ**をクリックします。



- (4) 「新しいダイヤルアップネットワーク接続が次の名前で作成されました」と表示されますので、**完了**をクリックします。

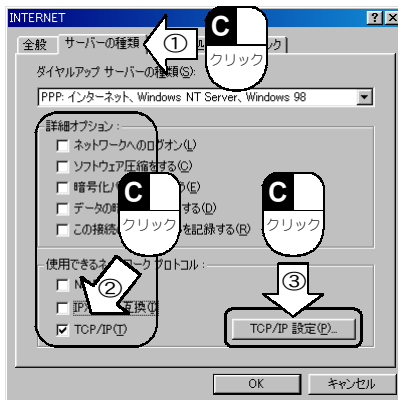


- (5) 「ダイヤルアップネットワーク」のウィンドウにアイコンが作成されますので ① クリックで選び、② マウスを右クリックして「プロパティ」を選びます。



(6) ①「サーバの種類」タブをクリックします。

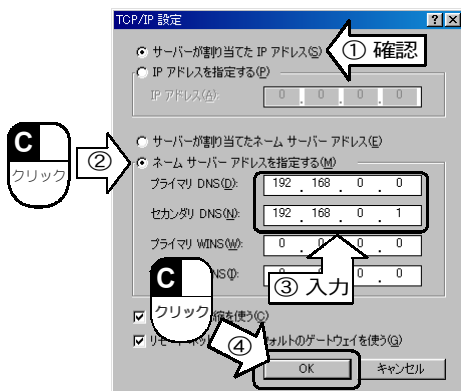
(7) 「サーバの種類」のウィンドウで、②「TCP/IP」だけにチェックし、③「TCP/IP設定」をクリックします。



⑨ 注意

チェックする項目に関する詳細はプロバイダへ確認してください。

- (8) 「TCP/IP 設定」のウィンドウで ①「サーバが割り当てた IP アドレス」にチェックされていることを確認し、②「ネームサーバアドレスを指定」にチェックして ③ DNS のアドレスを入力し、④ **OK** をクリックします。



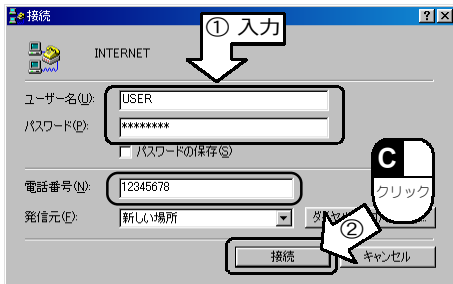
⑨ 注意

DNSのアドレスが分からない場合は契約されているプロバイダにお問い合わせください。

- (9) 「サーバの種類」、「作成したウィンドウ」の画面でそれぞれ **OK** をクリックし、「ダイヤルアップネットワーク」のウィンドウ内に作成されたアイコンをダブルクリックします。



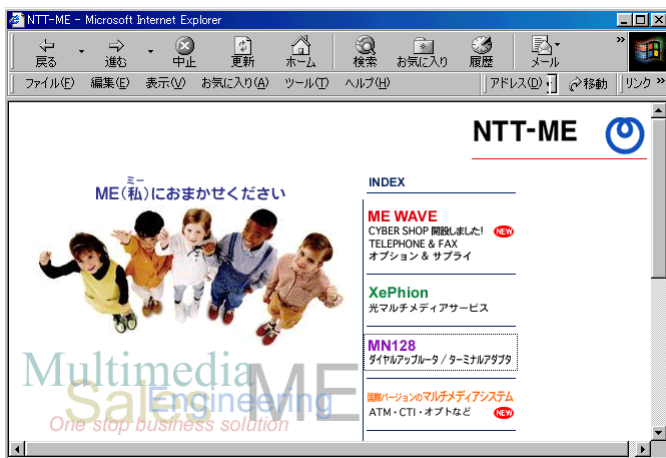
- (10) 「接続」の画面で、① 契約しているプロバイダに接続するための「ユーザ名」、「パスワード」、「電話番号」を入力し、② **接続** をクリックします。



⑨ 注意

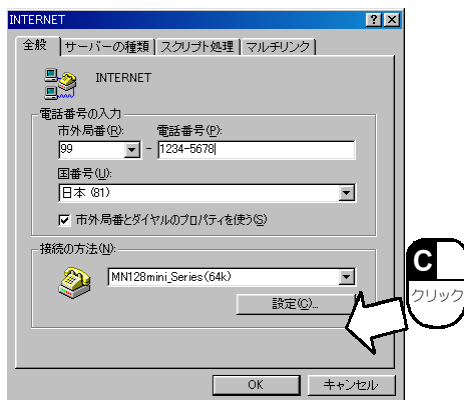
ユーザ名やパスワードが分からない場合は契約されているプロバイダにお問い合わせください。

- (11) 「ダイヤルアップネットワーク」のウィンドウで、「64000bpsで接続」と表示されれば正常に接続されました。
この状態で、お使いのブラウザを起動し、URL (http://・・・) を入力すればインターネット画面を閲覧できます。



●Windows98(Second Edition)/95で コマンドの追加設定をする

- (1) P.158の手順(5)のあと、「プロパティ」の画面で、**設定**をクリックし、「MN128mini_Series(64k)のプロパティ」の画面で「接続」タブをクリックし、**詳細**をクリックします。



- (2) 「接続の詳細設定」の画面の「追加設定」の欄に追加コマンドを入力します。



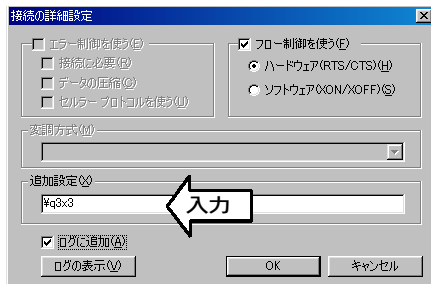
この例では、

「x3」 → 応答コード = 3

「¥q3」 → フロー制御 = 「RTS/CTS」

を追加コマンドとして入力しています。

「応答コード3」についてはP.209を参照してください。



■ WindowsNT4.0 でのネットワークの設定

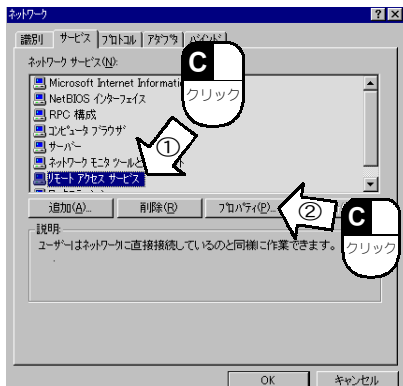
● 設定 (inf) ファイルを登録する

- Windows98 (Second Edition)/95の設定方法と同じです。P.149～154の手順 (1) ～ (18) を参照してください。
- あらかじめ、付属のCD-ROMをご用意ください。
- WindowsNT4.0 でインターネットに接続する場合、添付 CD-ROM から設定ファイル (inf ファイル) を登録するだけでmini-Sを認識できます。
- infファイルを登録する場合、ATコマンドで設定している内容を一旦初期化して、通信が終了したときに元の状態に戻します。infファイルの内容と別の設定が必要なときは、P.162を参照して追加設定をしてください。
- WindowsNT4.0の場合、P.152のWindows98 (Second Edition)/95の設定手順 (11) で、シリアルポートが表示されないときは、「コントロールパネル」でシリアルポートを追加してください。詳しくはパソコンのマニュアルを参照してください。

● リモートアクセスのセットアップ

設定ファイルの登録完了後、「ダイヤルアップネットワークを今すぐ構成しますか」というメッセージが表示されたときは (2) へ進んでください。

- (1) 「コントロールパネル」→「ネットワーク」と順にダブルクリックで開き、①「サービス」タブの「リモートアクセスサービス」を選び、②「プロパティ」をクリックします。

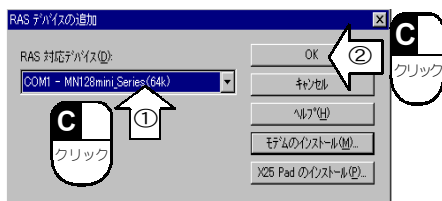


- (2) 「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウで「追加」をクリックします。

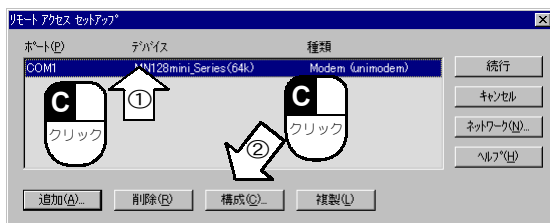


お使いの環境によって表示されないことがあります。

- (3) ① 登録したデバイスを選んで、② **OK** をクリックします。この例では「MN128mini_Series(64k)」が選ばれます。



- (4) ① 「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウに「MN128mini_Series(64k)」のデバイスが追加されたことを確認し、② **構成** をクリックします。



- (5) 「ポート使用の構成」のウィンドウで ① 「ダイヤルアウトのみ」を選んで、② **OK** をクリックします。



- (6) 「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウに戻りますので、**ネットワーク** をクリックします。
- (7) ① 「TCP/IP」を選び、② **OK** をクリックします。



- (8) 「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウに戻りますので **続行** をクリックします。
- (9) 「ネットワーク」のウィンドウで **閉じる** をクリックすると「今すぐコンピュータを再起動しますか?」というメッセージが表示されますので、パソコンを再起動します。

●プロバイダにダイヤルアップ接続する

- ・「コントロールパネル」→「ネットワーク」に「TCP/IP」がないときは**追加**をクリックしてインストールしてください。詳しくはパソコンのマニュアルを参照してください。
- ・「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」とダブルクリックしてインストールが必要である旨の画面が表示されるときはインストールしてください。詳しくはパソコンのマニュアルを参照してください。

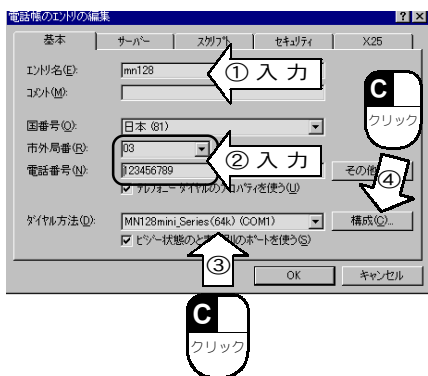
※WindowsNT4.0のCD-ROMが必要になる場合があります。

- (1) 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」とダブルクリックすると、「電話帳は空です。エントリを追加するにはOKをクリックしてください。」というメッセージが表示されるので、**OK**をクリックします。

メモ

お使いの環境によっては(1)の画面が表示されずに、「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されることがあります。そのときは**新規**をクリックし、手順(2)へ進んでください。

- (2) ① 適当なエントリ名、② 相手先の「市外局番」、「電話番号」を入力し、③ ダイヤル方法で「リモートアクセス」のセットアップ時に登録した、「MN128mini_Series (64k)」などを選び ④ **構成**をクリックします。



メモ

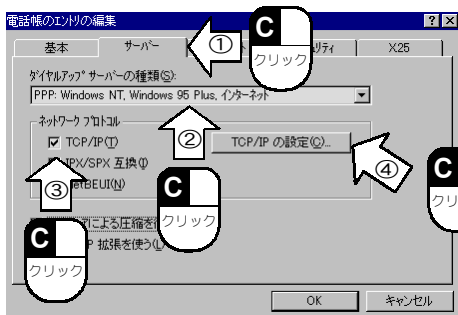
- ・「電話番号」にはインターネットに接続するときは、契約しているプロバイダの64kまたは128kMP用アクセスポイントの電話番号を入力します。
- ・ご使用の環境によっては、新しい電話帳エントリ名を入力する画面が表示される場合があります。そのときはエントリ名を入力して「電話帳エントリについてはよく知っている」ので、プロパティを直接編集しない」にチェックして**次へ**をクリックします。
- ・「テレフォニー・ダイヤルのプロパティを使う」にチェックしていないときは、「国番号」と「市外局番」の欄が表示されませんので、「電話番号」の欄に市外局番から入力してください。

- (3) ① 初期速度で「115200」が選ばれていることを確認し、② **OK** をクリックします。



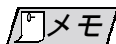
- お使いのパソコンのDTE速度が57.6kbpsまでしか対応していない場合は57600を選んでください。詳しくはパソコン販売店などへお問い合わせください。
- 契約されているプロバイダの指示にしたがって設定してください。

- (4) ① 「サーバー」タブをクリックし、② 「ダイヤルアップサーバーの種類」で「PPP: WindowsNT・・・」を選び、③ ネットワークプロトコルで「TCP/IP」にチェックし、④ **TCP/IPの設定** をクリックします。



契約されているプロバイダの指示にしたがって設定してください。

- (5) ① 「サーバーが割り当てた IP アドレス」にチェックし、②～③ プロバイダの指示にしたがって DNS アドレスなどを設定して、④ **OK** をクリックします。(4)の画面に戻りますので、**OK** をクリックし、次の画面で **閉じる** をクリックします。

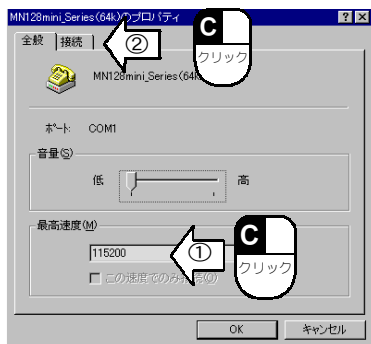


ご契約されているプロバイダの指示に従って設定してください。

- (6) 「コントロールパネル」→「モデム」と順にダブルクリックで開きます。リモートアクセスのセットアップ時に登録したデバイスを選んで「プロパティ」をクリックします。

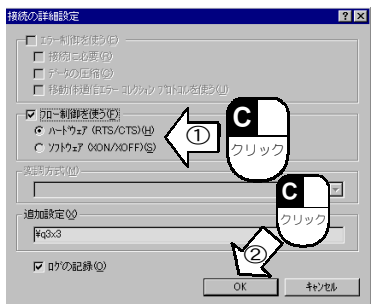


- (7) ①最高速度で「115200」を選び②、「接続」タブをクリックして「詳細」をクリックします。



お使いのパソコンのDTE速度が57.6kbpsまでしか対応していない場合は57600を選んでください。詳しくはパソコン販売店などへお問い合わせください。

- (8) 契約しているプロバイダの指示に従って、①「フロー制御を使う」のチェックをして②「OK」、「OK」、「閉じる」の順に進みます。



追加ATコマンドを入力できます。

ここでは、

「¥q3」 → フロー制御 = 「RTS/CTS」

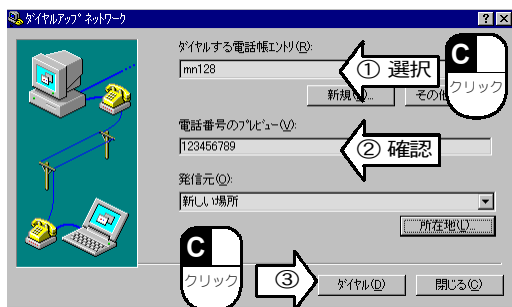
「x3」 → 応答コード = 3

を設定しています。

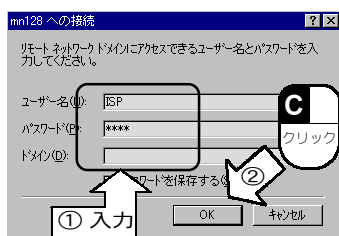
「応答コード3」については、P.209を参照してください。

(9) 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」と順にダブルクリックで開きます。

① 登録したエントリ名を選び、② 接続先の電話番号を確認して ③ **ダイヤル** をクリックします。



(10) ① 契約しているプロバイダの指示にしたがって「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン」を設定し、② **OK** をクリックします。

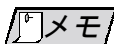


(11) 正常に接続すると、「接続の完了」メッセージが表示されますので、お持ちのWWWブラウザを起動してインターネット画面を閲覧できます。画面右下に表示された電話アイコンを右クリックし、**切断**を選ぶと回線を切断できます。

■ Macintosh での設定と接続

●ソフトウェアの準備

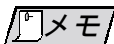
- TCP/IP (MacOSのバージョンによっては「MacTCP」)
コントロールパネルの中にTCP/IP (MacTCP) がなければインストールが必要です。
- PPP 通信ソフト
MacOS に添付されている「リモートアクセス (Open Transport/PPP) 」を利用するか、
「FreePPP」などのフリーソフト、または市販のソフトウェアをご用意ください。



ソフトウェアの入手方法やインストール方法などは各ソフトウェア販売店などへお問い合わせください。

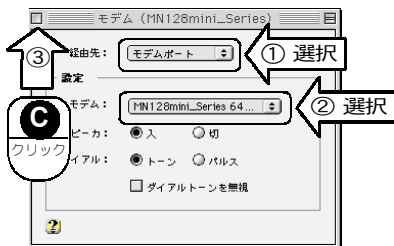
●リモートアクセス「Open Transport/PPP (V2.0.1)」のとき

- (1) mini-Sに付属のCD-ROMの中の「Mac」→「CCL」内のCCLファイルを「ハードディスク」の「システムフォルダ」内の「機能拡張」フォルダの「Modem Scripts」フォルダにコピーしてください。



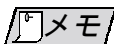
- ご使用の環境によってフォルダ名が異なる場合があります。その時は、該当するフォルダにコピーしてください。

- (2) 「コントロールパネル」の①「経由先：」でポート (下記※)、②「モデム」で「MN128 mini_Series64k (115k)」を選び、③クローズボックスをクリックし、保存します。



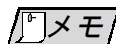
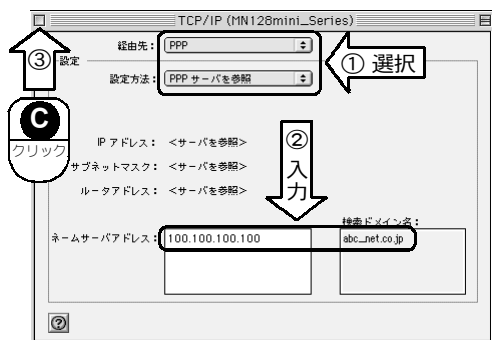
←※ 「経由先」は、機種によって次のどれかになります。

- 「モデムポート」
- 「プリンタポート」
- 「モデム/プリンタポート」



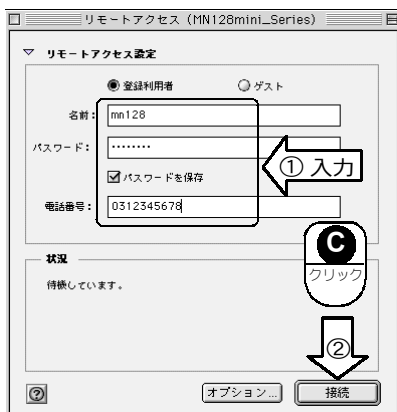
- お持ちのMacintoshのシリアルポート速度が57.6kbpsまでしか対応していないときは「MN128mini_Series64k (57.6k)」を選んでください。
- 128kbpsMP通信をするときは、「MN128mini_Series128k (MP)」を選んでください。

- (3) 「コントロールパネル」の「TCP/IP (MacTCP)」を選び、①「経由先:」で「PPP」を選び、「設定方法:」で「PPPサーバを参照」を選びます。②「ネームサーバアドレス」や「ドメイン名」などは契約しているプロバイダの指示にしたがって入力してください。
③ クローズボックスをクリックし、保存します。



- ・ 契約しているプロバイダの指示にしたがって設定してください。
- ・ MacTCP のときは表示される画面が異なります。

- (4) 「コントロールパネル」の「PPP」を選び、① 契約しているプロバイダの指示にしたがって「名前」、「パスワード」、「電話番号」を入力し、② **接続** をクリックします。

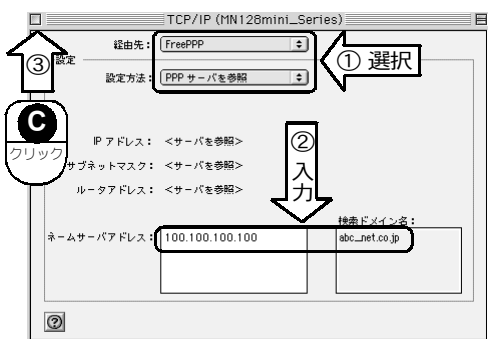


インターネットに接続するときは、契約しているプロバイダのISDN64kまたは128kMP用のアクセスポイントの電話番号を入力します。

- (5) 正常に接続されると64kで接続した旨の画面が表示され、「接続」が「解除」に変わります。WWWブラウザを起動すればインターネット画面を閲覧できます。
解除 をクリックすると回線を切断します。

●Free PPP (V2.6.2) のとき

- (1) 「コントロールパネル」の「TCP/IP (MacTCP)」を選び、①「経由先:」で「FreePPP」を選びます。「設定方法:」で「PPPサーバを参照」を選び、②「ネームサーバアドレス」や「ドメイン名」などは契約しているプロバイダの指示にしたがって入力してください。
- ③ クローズボックスをクリックし、保存します。



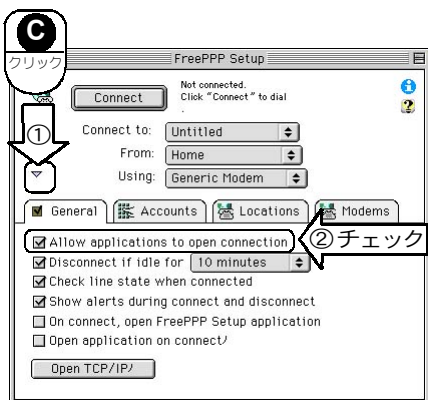
- 契約しているプロバイダの指示にしたがって設定してください。
- MacTCPのときは表示される画面が異なります。

- (2) 「メニューバー」の小さな電話のアイコンをクリックします。メニュー内の「Open Free PPP Setup...」を選びます。



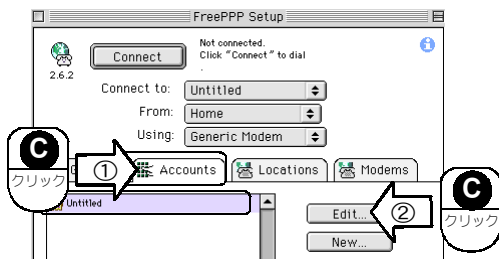
電話アイコンが表示されていないときは、FreePPPフォルダ内の「FreePPP Setup」を起動してください。

- (3) 「FreePPP Setup」画面が表示されます。

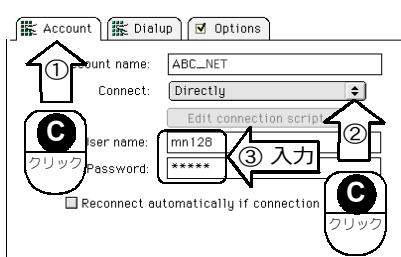


- ウィンドウが半分しか表示されないときは、▼印をクリックして表示させてください。
- 「General」内にチェック項目がいくつありますが、一番上の「Allow applications」の所にだけはチェックを入れてください。これによりホームページの閲覧、メールソフトでの送受信時に、この画面を表示する事無く自動的に「FreePPP」を立ち上げてインターネットに接続してくれます。

- (4) ①「Accounts」タブをクリックし、表示された画面の②「Edit...」をクリックします。

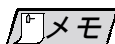
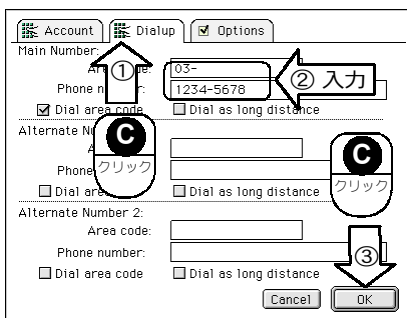


- (5) ①「Accounts」タブをクリックし、分かりやすいプロバイダ名などを「Account name :」に、②「Connect:」は「Directly」を選び、③ 契約しているプロバイダの指示にしたがって「User name:」と「Password :」を入力します。



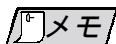
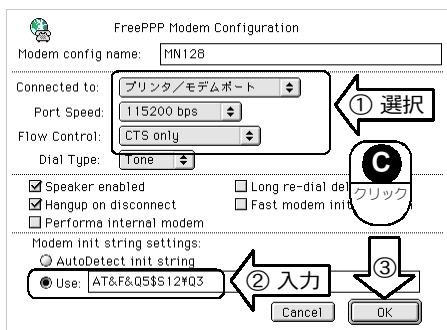
「Account name」にプロバイダ名などの分かりやすい名前を入力します。

- (6) ①「Dialup」のタブをクリックし、インターネットに接続するときは、② 契約しているプロバイダのISDN64kまたは128kMP用のアクセスポイントの電話番号を入力し、③ **OK** をクリックします。



- 「Area code」にプロバイダのアクセスポイント用電話番号を入力します。図のようにハイフン「-」を入れても問題はありません。
- 「Dial area code」にチェックを入れると、接続時に市外局番も含めてダイヤルします。
- 「Dial as long distance」には、チェックを入れないでください。日本国内ではここにチェックを入れるとプロバイダへ接続が出来なくなります。

- (7) 「FreePPP Setup」のウィンドウに戻ったら、「Modems」のタブをクリックし、表示された画面の「Edit」ボタンをクリックします。①「Connected to :」は機種によって「モデムポート」、「プリンタポート」、「モデム/プリンタポート」の中から選び、「Port Speed :」で115200 (57600) bpsを選び、「Flow Control :」を「CTS only」、②「Modem init string settings :」でmini-Sの初期化コマンドを入力して、③「OK」をクリックします。

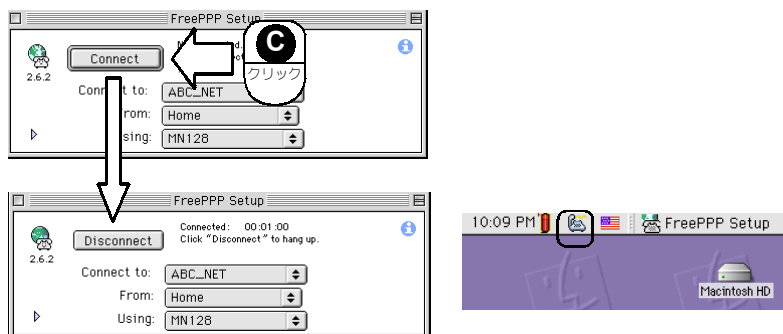


- ・初期化コマンドは、下記を参考にしてください。

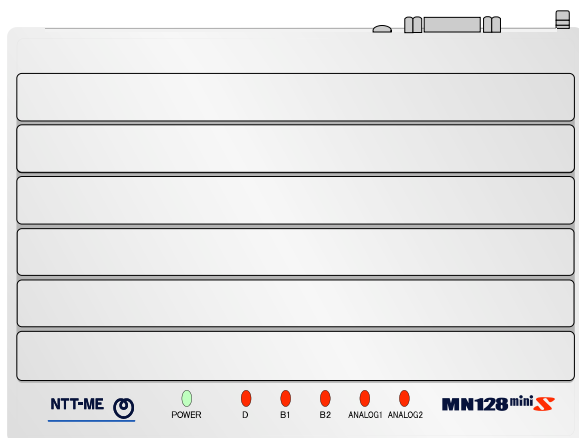
回線速度/通信モード	初期化ATコマンドの例
同期64kbps	AT &F &Q5 \$S12 ¥Q3
同期128kbpsMP	AT &F &Q5 \$S12 ! H1 ¥Q3 または AT &F &Q5 \$S14 ! H2 ¥Q3

- ・パソコンのシリアルポート速度が 57.6kbps までしか対応していないときは「57600 bps」を選んでください。プロバイダから指示があったときはしたがって設定してください。「CTS Only」、または「CTS&RTS (DTR)」を選んでください。

- (8) 「FreePPP setup」ダイアログの「Connect」ボタンをクリックします。正常に接続すると、「Connect」ボタンが「Disconnect」の表示に、「メニューバー」の小さな電話のアイコンは受話器を上げた表示になります。WWWブラウザを起動すればインターネット画面が閲覧できます。「Disconnect」ボタンをクリックすれば回線を切断します。



便利な機能を使ってみよう (デジタル編)



mini-Sが持つデジタル通信機能を使う方法を説明します。

■スループット BOD 機能を使う

MP 通信を行なっているとき、データ量に応じて自動的に B チャンネルの追加/削除ができます。B チャンネルの追加/削除は S レジスタで設定した評価時間から算出された回線利用率と設定したしきい値を基準にします。

◎設定方法

(1) Windows98 (Second Edition) /95/NT4.0

以下で説明する AT コマンドを必要に応じて追加設定してください。追加設定の方法は Windows98 (Second Edition) /95 は P.162、WindowsNT4.0 は P.167 を参照してください。

(2) Macintosh

初期化コマンドを入力できる PPP ソフト (FreePPP など) が必要です。以下で説明する AT コマンドを必要に応じて通常の初期化コマンドの後に追記してください。FreePPP の初期化コマンド入力方法は P.173 を参照してください。



- CCL を利用する PPP ソフト (Open Transport/PPP など) では CCL ファイルを書き替えないと利用できません。CCL を書き替えるには CCL エディタが必要です。mini-Si には CCL エディタは添付しておりません。また、CCL エディタの入手方法、インストール、利用方法、CCL の書き替え方法などはソフトウェア販売店にお問い合わせください。

○初期接続 B チャンネル数の設定 — 「!I」 —

発信したとき、最初に接続する B チャンネル数を設定します。

例) 最初に 1B で接続する。

AT!I1

○B チャンネルの追加/削除の設定 — 「!J」 —

「追加/削除を両方行う」、「追加だけ」などを設定します。

例) B チャンネルの追加だけをする。

AT!J1

○データ送信/受信時の B チャンネルの追加/削除の設定 — 「追加 : !K」、「削除 : !L」 —

データ送信/受信のどちらかのときに回線利用率がしきい値を上回るか下回った場合に B チャンネルを追加/削除するかを設定します。

例) データ受信時の回線利用率がしきい値を上回ったときに B チャンネルを追加する。

AT!K2

例) データ送信時の回線利用率がしきい値を下回ったときにBチャネルを削除する。

AT! L1 

○回線利用率を算出するときの評価時間の設定

—「追加:S176」、「削除:S181」—

Bチャネルを追加/削除するときの回線利用率を算出するための評価時間を設定します。

例) Bチャネルを追加するときの回線利用率を算出する評価時間を30秒に設定する。

ATS176=30 

例) Bチャネルを削除するときの回線利用率を算出する評価時間を20秒に設定する。

ATS181=20 

○しきい値の設定—「追加:S179」、「削除:S184」—

Bチャネルを追加/削除するときのしきい値を設定します。回線利用率が「S179」で設定したしきい値を上回ったときにBチャネルを追加します。また、「S184」で設定したしきい値を下回ったときにBチャネルを削除します。

例) Bチャネルを追加するときのしきい値を40%にする。

ATS179=40 

例) Bチャネルを削除するときのしきい値を20%にする。

ATS184=20 

○Bチャネル追加/削除後動作設定 —「S177」、「S178」、「S182」、「S183」—

Bチャネル追加後「S177」(単位: 256秒)、「S178」(単位: 1秒)で設定された合計時間が経過するまではBチャネルが削除されません。また、Bチャネル削除後「S182」(単位: 256秒)、「S183」(単位: 1秒)で設定された合計時間が経過するまではBチャネルが追加されません。

例) Bチャネル追加後6分間はBチャネルが削除されないように設定する。

6分=360秒

360秒/256=1 余り 104

ATS177=1 S178=104 

例) Bチャネル削除後10分間はBチャネルが追加されないように設定する。

10分=600秒

600秒/256=2 余り 88

ATS182=2 S183=88 

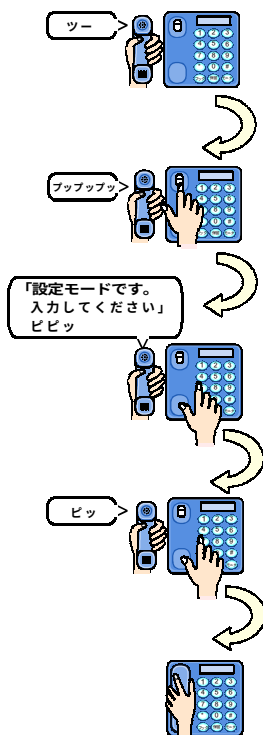
■手動で B チャンネル数を変更する

MPでインターネットなどデジタルデータ通信をしているとき、mini-Sのアナログポートに接続したアナログ電話機 (PB 信号) から手動で使う B チャンネル数を追加 / 削除できます。

●注意

- mini-Sのアナログポート「ANALOG1 (ポート 1)」または「ANALOG2 (ポート 2)」にプッシュボタン式アナログ電話機が接続されていることを確認してください。mini-SのPOWER ON/OFFスイッチが「ON」になっていることを確認してください。
- この操作ができるのは、プッシュボタン式アナログ機器に限ります。ダイヤル/パルス式のアナログ機器からは操作できません。また、アナログ機器によっては設定スイッチで切り替えが必要な場合があります。「プッシュボタン (PB)」または「トーン」にしてください。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。

○操作手順



1. アナログ電話機の手受器をあげ、発信音を確認します。

2. フックを1回押します。

3. # 1 をダイヤルします。

4. 0 0 をダイヤルします。

5. アナログ電話機の手受器をおろします。



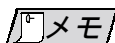
-  は、受話器を置くときに押し下げられる「フック」スイッチ、または「フック」ボタン、「フラッシュ」ボタン、「キャッチ」ボタンなどを表します。お使いのアナログ電話機によって呼び方が変わります。詳しくはお使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
- 手順4で   をダイヤルしたとき、下記のような動作になります。
 - (1) 2つのBチャンネルを使って(128kbpsで)MP通信中のときは、片方のBチャンネルが削除され、1つのBチャンネルを使って(64kbps)の通信になります。
 - (2) 1つのBチャンネルを使って(64kbpsで)MP通信中のときは、Bチャンネルが追加され、2つのBチャンネルを使って(128kbps)の通信になります。
- 操作中に「誤りがあります。もう一度入力してください。ピピッ」というメッセージが聞こえたときは、始めからやり直してください。
- 下記の場合はBチャンネルの追加/削除ができません。
 - (1) 「AT!H」で設定値「n=0」(自動MP変換機能を使わない)に設定しているとき。
 - (2) アナログ通信とMP通信で1つずつBチャンネルを使っているとき。
 - (3) どちらかのBチャンネルが接続中または切断中のとき。
- 2つのBチャンネルを使っているときは、手順1の「ツー」以外の確認音が聞こえません。無音状態で操作することになります。

■ピアツーピア通信をする

○通信ソフトウェアの用意

コンピュータ間を接続するようなピアツーピア通信を行う場合はそのための通信ソフトウェアが必要となります。下表は、代表的な通信ソフトウェアの1例です。

OSまたはパソコン	通信ソフトウェア
Windows98 (Second Edition) /95	ダイヤルアップネットワーク
WindowsNT4.0	ダイヤルアップネットワーク
	(リモートアクセスサービス)
Macintosh	Apple Remote Access3.0 (ARA3.0)



- ・「Apple Remote Access」は米国アップルコンピュータ社の商品です。
- ・「Apple Remote Access」はMacintosh間を接続するための通信ソフトウェアです。mini-SでARA通信をするときは「Apple Remote Access3.0以上」でないと通信できません。ARA3.0に関して詳しくは各ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
- ・MN128シリーズ以外の機種とピアツーピア通信をする場合、機種によっては接続できない可能性があります。
- ・ピアツーピア通信するために必要となる各種ソフトウェアは、mini-Sには添付しておりませんので、別途ご用意していただく必要があります。詳しくは各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
- ・Windows98 (Second Edition) /95用のダイヤルアップネットワークと WindowsNT4.0用のダイヤルアップネットワーク (リモートアクセスサービス) は基本的に OS (Windows) に標準添付されていますが、別途インストールが必要になる場合があります。詳しくはコンピュータ機器のマニュアルを参照するか、各コンピュータ機器の販売店等へお問い合わせください。また、Macintoshに関しては基本的に標準添付の通信ソフトウェアが無い場合が多いので市販品を購入する必要があります。
- ・Apple Remote Access3.0はインターネットに接続するためのソフトウェアではありません。Macintosh同士を接続するための通信ソフトウェアです。
- ・各種通信ソフトウェアの購入またはインストールなどに関しては各ソフトウェア販売店などにお問い合わせください。

○設定方法

ピアツーピア通信するときには基本的に片側をサーバー側、片側をクライアント側として通信します。

下記例を参照してください。

1. Windows98 (Second Edition)/95 (クライアント) — Windows98 (Second Edition)/95 (サーバー)
 - Windows98 (Second Edition) をサーバーとして利用する場合は、「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」→「Windowsファイル」→「通信」→「詳細」から「ダイヤルアップサーバー」をインストールします。
 - Windows95 をサーバーとして利用する場合は、Microsoft PLUS! 95 をインストールし、「ダイヤルアップネットワーク」で「ダイヤルアップサーバー」を設定します。
2. Windows98 (Second Edition)/95 (クライアント) — WindowsNT (サーバー)
 - WindowsNT (サーバー) 側のリモートアクセスサービスの構成で着信設定をします。
3. Maintosh (クライアント) — Macintosh (サーバー)
 - クライアント側にARA3.0 (クライアント)、サーバー側にARA3.0 (サーバー) をインストールし、サーバー側で着信設定をします。



- ピアツーピア通信をする場合、発信側と着信側の設定やプロトコルを合わせておく必要があります。例えば、発信側で64kbpsの同期手順で発信する場合は着信側でも64kbpsの同期手順で着信できる設定をしておく必要があります。また、発信側と着信側のプロトコルも合わせておく必要があります。発信側/着信側のそれぞれの設定方法に関しては、各通信ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。

○Windows98 (Second Edition)/95/NT4.0 を利用するとき

- mini-Sの設定は通信速度に該当するデバイスの登録、選択だけで、基本的にはインターネットに接続するときと同様に行なってください。P.149～を参照してください。
- クライアント側、サーバー側それぞれの通信ソフトウェアの設定方法に関してはソフトウェアのマニュアルを参照するかソフトウェア販売店などへお問い合わせください。

○Macintoshを利用するとき

- ARA3.0を利用するときは添付のCD-ROM内のCCLファイルを利用してください。CCLファイルに関してはCD-ROM内のReadmeを参照してください。
- ARA3.0の設定に関してはソフトウェアのマニュアルを参照するか、ソフトウェア販売店などへお問い合わせください。

■ Apple Remote Access で通信する

○ Apple Remote Access とは

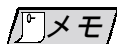
電話回線 (mini-Sを利用するときはISDN) を使ってMacintosh間を接続するための通信ソフトウェアです。mini-SではARA3.0を使用し、PPPで最高128kbpsの同期手順で通信することができます。

○ 設定する前に

クライアント側とサーバー側を同じ設定にしておく必要があります。64kbpsで通信するなら、共に64kbps通信用の設定にしておきます。

○ 設定方法

mini-Sに付属のCD-ROM内のCCLファイルを登録します。ARA3.0の設定画面で、回線速度に見合ったDTE速度を設定します。



- mini-SでARA通信をするときはPPPを利用して通信するために、ARA3.0以上を使う必要があります。
- mini-SをDTEポートにパソコンを接続してARA3.0で64kbps/128kbpsなどの通信をするためには、115.2kbps (64kのときは57.6kでも可) のDTE速度の出るパソコンが必要です。
- ARA3.0は市販のソフトウェアであり、mini-Sには添付しておりませんので別途ご用意ください。詳しくは各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
- ARA3.0のインストール、設定方法など詳しいことは各ソフトウェア販売店へお問い合わせください。

■パソコン通信をするためには

○パソコン通信会社との契約

パソコン通信をするためには、まずパソコン通信会社との契約が必要です。契約に関しては、各パソコン通信会社へお問い合わせください。

○アクセスポイントにはアナログ回線対応とISDN回線対応がある

パソコン通信のホストコンピュータには、ISDN回線から接続できるものとアナログ回線だけからしか接続できないものがあります。また、ISDN回線から接続できても、ISDN回線用とアナログ回線用の電話番号が異なる場合があります。詳しくは各パソコン通信会社へお問い合わせください。

○通信ソフトウェアの用意

ISDNの64kbpsアクセスポイントに接続するときは、非同期通信用の通信ソフトウェア（ターミナルソフト）などでは接続できません。使用する通信ソフトウェアはパソコン通信会社が提供するソフトウェアを使用する場合が多いので、通信ソフトウェアの入手方法、使い方などは契約されているパソコン通信会社へお問い合わせください。

■パソコン通信に接続する

○ISDN の 64kbps 用アクセスポイントに接続しよう

mini-S の DTE ポートに接続したパソコンからパソコン通信をするときは、ISDN の 64kbps 用のアクセスポイントに接続してください。それ以外の非同期 9600bps などのアクセスポイントには接続できません。

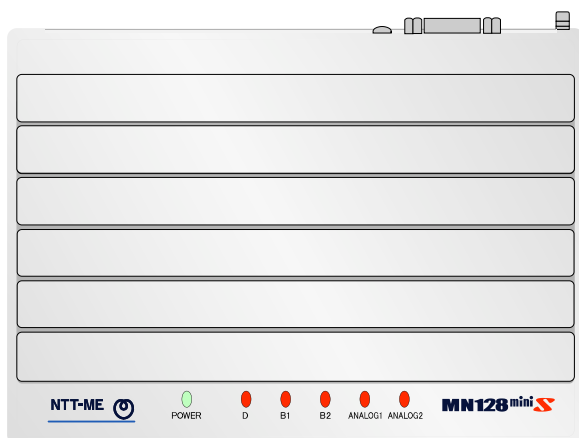
○アナログ回線対応のアクセスポイントに接続する

- アナログ回線対応のアクセスポイントに、mini-Sから直接ダイヤルしても接続できません。その場合、アナログモデムを使う必要があります。アナログモデムの接続に関しては、P.35を参照してください。
- モデムのコマンド設定方法や通信ソフトウェアに関しては、各通信ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェア販売店等にお問い合わせください。

メモ

- モデムを使って接続できないときは、「アナログポート 接続機種」(32/AT@E) で接続機種をモデムに設定してください。設定については、P.132を参照してください。

DTE ポート設定 AT コマンドリファレンス



DTEポートを設定する「ATコマンド」のリファレンスです。

■ AT コマンド書式

mini-S の DTE ポートに接続したパソコンからデータ通信を行うときの AT コマンド書式を説明します。書式の見方は、以下のとおりです。

AT コマンド書式 : AT 設定コマンド(例 : &Z) 設定値(例 $m=s$)

(例) AT & Z 0 = 0123456789 

(相手先
の登録)

(登録
番号)

(回線番号)

- 上記の例で設定値の「s」を省略すると、登録を解除します。
- 設定値に 0、1、2 … の数値で機能を選択するコマンドは、数値を省略すると「0」とみなして動作します。
- [] は省略可をあらわします。([] は入力しません)
- 次ページ以降の表でこの () 網かけがしてある書式は、購入時設定です。

AT コマンドの入力方法は、P.99 を参照してください。

機 能		ATコマンド	設定値
● 直前に入力したATコマンドの再実行		A/	
書 式		A /	※「AT」とは不要です。  の入力
● 呼び出しで手動着信		A	
書 式		AT A	
● 発 信		D	
回線番号で指定した相手に発信		AT D s [Sn]	※ [] は省略可をあらわします。 s=31桁までの相手先回線番号 sub=19桁までのサブアドレス m=0～9:「AT&Z」の登録番号 n=12:64kbpsで通信 n=14:128kbpsで通信
サブアドレス付きで発信		AT D s *(sub)	
「AT&Z」で登録した回線番号に発信		AT DS =m [Sn]	
最後に発信した相手に再発信		AT DL [Sn]	
説 明	- 設定値(s)の相手先の回線番号には「数字(0～9)」、「#」、「*」が入力できます。ただし、「*」は購入時設定ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。 - Sレジスタ174番(P.208)でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは、回線番号としては使えません。 「*」は購入時設定でサブアドレス指定キャラクタに設定されていますが、Sレジスタ174番(P.208)で変更しているときは、変更したサブアドレス指定キャラクタを入力してください。 - サブアドレスには「アルファベット(大文字と小文字を区別)」、「数字(0～9)」を入力できます。 - 相手先回線番号の最後に「#」を指定しても即時発信のための役割はしません。		
● エコーバックの有無		E	
書 式	エコーバックなし	AT E 0	
	エコーバックあり	AT E 1	
● 回線が接続しているときに切断		H	
書 式		AT H	
説 明	・回線が接続されているときは、「+++」コマンドで入力モードにしてから「ATH」コマンドで回線を切断します。		
● 製品情報表示		I	
書 式	使用可能な最高の通信速度を表示	AT I 0	※ 左記以外の数値を指定すると、「Error」になります。
	製品名「MN128mini-S」を表示	AT I 2	
	ファームウェアのバージョンを表示	AT I 3	
● コマンド入力モードからオンラインモードにもどる		O	
書 式		AT O	
説 明	※ オンラインモードでは、コマンドを入力できません。		
● 応答コードの表示の有無		Q	
書 式	応答コードを表示	AT Q 0	
	応答コードを表示しない	AT Q 1	

機 能		ATコマンド	設定値
● Sレジスタ設定/設定内容表示		S	
書 式	Sレジスタの内容を設定	AT S $r=n$	$n=0\sim 255$:Sレジスタ番号
	Sレジスタの内容を表示	AT S $r?$	$r=0\sim 255, \$00$ から\$FF:設定値
説明	※Sレジスタ番号、設定値は、P.208を参照してください。		
● 応答コードの表示形式の設定		V	
書 式	数字形式で表示	AT V 0	
	単語形式で表示	AT V 1	
説明	※応答コードは、P.209を参照してください。		
● RINGの表示形式の設定		W	
書 式	RINGのみ表示	AT W 0	
	RING (発信者電話番号) (サブアドレス)の形式で表示	AT W 1	
● 応答コードの選択		X	
書 式	応答コード0	AT X 0	
	応答コード1	AT X 1	
	応答コード2	AT X 2	
	応答コード3	AT X 3	
説明	※応答コードは、P.209を参照してください。		
● ブレーク信号による動作の設定		Y	
書 式	何もしない	AT Y 0	
	回線切断	AT Y 1	
● 内部ファイルの読み込み		Z	
書 式	内部ファイル0から読み込み	AT Z 0	
	内部ファイル1から読み込み	AT Z 1	
説明	・「設定の保存」(AT&W) で保存した内部ファイルを読み込みます。 ※読み込むのは、ATコマンドとSレジスタの設定値です。 ※AT&Z、AT\$C、AT\$E、AT!D、AT!M、AT&Yの設定内容は、読み込みません。		
● DCD信号制御の設定		&C	
書 式	DCD信号を常にON	AT &C 0	
	DCD信号は回線接続中にON	AT &C 1	
● DTR信号OFF時の動作設定		&D	
書 式	何もしない	AT &D 0	
	コマンド入力モードへ移行	AT &D 1	
	回線切断	AT &D 2	
	回線切断後、Sレジスタを初期化	AT &D 3	
注意	・AT&D0の場合、通信ソフトで切断する前にパソコンがフリーズしたときなどは、回線を切断しない場合があります。必ず mini-S の B1/B2 ランプが消灯し、きちんと切断したことを確認してください。		

機 能		ATコマンド	設定値
● 回線接続時の速度表示内容の設定		&E	
書 式	回線速度を表示	AT &E 0	
	DTE速度	AT &E 1	
● 購入時設定にもどす		&F	
書 式	購入時 設定にもどす	AT &F	
説 明	※初期化するのは、レジスタと購入時設定値を持つATコマンドだけです。 ※AT&Z、AT&C、AT&E、AT ! D、AT ! M、AT&Y の設定内容は、初期化されません。		
● 通信モードの設定		&Q	
書 式	HDLC (PPP) モード	AT &Q 5	
	HDLC (PPP) /DTRモード	AT &Q 6	
説 明	・ HDLC (PPP) モードは、回線速度が64kbps、128kbpsのときに使用できます。パソコンからの非同期PPPデータをHDLCフォーマットに変換します。 ・ HDLC (PPP) /DTRモードは、基本的な動作はHDLC (PPP) モードと同様ですが、パソコンのDTR信号がOFF～ONに切り替わったときに「発信相手先回線番号の登録」(AT&Z) で登録番号「0」に登録されている回線番号に発信してHDLCフォーマットで通信します。		
● DSR信号制御の設定		&S	
書 式	DSR信号は常にON	AT &S 0	
	DCDと同じ動作にする	AT &S 2	
● MN128mini-Sの動作チェック		&T	
書 式	LEDのチェック	AT &T 0	
	RAMのチェック	AT &T 1	
	ファームウェアのチェック	AT &T 2	
	ISDN回線のチェック	AT &T 3	
説 明	・ チェックのあと、正常であれば「OK」、正常に動作していないときは「ERROR」を表示します。 ・ ISDN回線をチェックするときは、INSネット64回線がきちんと接続していることを確認してからチェックしてください。		
● 発信相手先登録回線番号の表示		&V	
書 式	発信相手先登録回線番号の表示	AT &V	
説 明	・ 「発信相手先登録回線番号の登録」(AT&Z)で登録したすべての登録番号、回線番号、サブアドレスを表示します。		
● 設定の保存		&W	
書 式	内部ファイル0に保存	AT &W 0	
	内部ファイル1に保存	AT &W 1	
説 明	・ 保存するのは、レジスタとATコマンドの設定内容です。 ・ AT&Z、AT&C、AT&E、AT ! D、AT ! M、AT&Y の設定内容は、保存しません。		

機 能		ATコマンド	設定値
● 起動時に読み込むファイルの選択		&Y	
書 式	内部ファイル0から読み込み	AT &Y 0	
	内部ファイル1から読み込み	AT &Y 1	
説明	・ 読み込むのは、Sレジスタと ATコマンドの設定値です。		
● 発信相手先回線番号の登録/削除		&Z	
書 式	回線番号を登録	AT&Z m=s	s=31桁までの相手先回線番号
	回線番号とサブアドレスを登録	AT&Z m=s*(sub)	sub=19桁までのサブアドレス
	登録した回線番号とサブアドレスを削除	AT&Z m=	m=0～9:登録番号
説明	・ 「発信」(ATD) で発信する相手先の回線番号とサブアドレスを登録/削除します。 ・ 相手先回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ・ 相手先回線番号には「数字(0～9)」、「#」、「*」が入力できます。ただし、「*」は購入時設定ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。 ・ Sレジスタ174番(P.208)でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは、回線番号としては使えません。 ・ 「*」は購入時設定でサブアドレス指定キャラクタに設定されていますが、Sレジスタ174番(P.208)で変更しているときは、変更したサブアドレス指定キャラクタを入力してください。 ・ サブアドレスには「アルファベット(大文字と小文字を区別)」、「数字(0～9)」を入力できます。 ・ 相手先回線番号の最後に「#」を指定しても、即時発信のための役割はしません。 ・ このコマンドは「AT&W」での保存や「ATZ」での読み込みは必要ありません。		
● フロー制御形式の設定		¥Q	
書 式	なし	AT ¥Q 0	
	XON/XOFF	AT ¥Q 1	
	RTS/CTS	AT ¥Q 3	
● 設定内容/課金情報の表示		¥S	
書 式	設定内容を表示	AT ¥S 0	
	課金情報を表示	AT ¥S 1	
説明	・ 「DTE」ポートに設定されている内容、課金情報を選んで表示できます。		
● 無通信監視タイマーの設定		¥T	
書 式	無通信監視をしない	AT ¥T 0	n=1～255: n×10秒通信しないと回線切断
	設定した時間通信しないと回線切断	AT ¥T n	
● DTE着信時の最高回線速度の設定		%B	
書 式	着信しない	AT %B 0	
	64kbps	AT %B 12	
	128kbps	AT %B 14	
● すべてのレジスタの設定内容表示		%R	
書 式	レジスタ内容の表示	AT %R	

機 能		ATコマンド	設定値
● ダイヤルイン追加番号の登録/ 削除		\$ C	
書 式	ダイヤルイン追加番号の登録	AT \$C s	s=31桁までのダイヤルイン追加番号
	ダイヤルイン追加番号の削除	AT \$C	
注 意	• すべての番号からの着信を許可するときは、ここで番号を登録しないでください • ダイヤルイン契約をしていないときは、ここで番号を登録しないでください。		
説 明	• ダイヤルイン追加番号を登録すると、着信があったときにここで登録した番号と一致したときだけ着信させることができます。 • ダイヤルイン追加番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 • ダイヤルイン追加番号には「数字(0～9)」、「#」、「*」が入力できます。ただし、「*」は購入時設定ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。 • Sレジスタ174番 (P.208) でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは、ダイヤルイン追加番号としては使えません。 • このコマンドは「AT&W」での保存や「ATZ」での読み込みは必要ありません。 • i・ナンバー契約の場合、本設定は無効です。		
● サブアドレスの登録/ 削除		\$ E	
書 式	サブアドレスの登録	AT \$E s	s=19桁までのサブアドレス
	サブアドレスの削除	AT \$E	
説 明	• サブアドレスを登録した場合、着信番号で指定されたサブアドレスが登録したサブアドレスと一致しない場合、またはサブアドレスを指定しない着信番号で着信があったときは着信できません。 • サブアドレスには「アルファベット (大文字と小文字を区別)」、「数字 (0～9)」を入力できます。 • このコマンドは「AT&W」での保存や「ATZ」での読み込みは必要ありません。		
● 発信時の回線速度の設定		\$ S	
書 式	DTE速度	AT \$S 0	
	64kbps	AT \$S 12	
	128kbps	AT \$S 14	
注 意	• パソコン側のDTE速度が57.6kbps未満に設定されているとき、または57.6kbps以上の速度に対応していないときは mini-S を利用してデジタルデータ通信はできません。		
説 明	• 「DTE速度」に設定したとき、パソコン側で設定しているDTE速度が57.6kbpsまたは115.2kbpsのときは、自動的に回線速度が64kbpsになります。		

機 能		ATコマンド	設定値
● 発信者番号通知の可否設定		!B	
書 式	通知しない	AT!B 0	「186」付加で契約者回線番号通知
	契約者回線番号を通知	AT!B 1	「184」付加で通知しない
	ダイヤルイン追加番号を通知	AT!B 2	「184」付加で通知しない
	NTTとの契約に従う	AT!B 3	
	通知しない	AT!B 4	「186」付加でダイヤルイン追加番号通知
機 能	・ 電話をかけるとき、相手先に自分の回線番号とサブアドレスを通知するかどうかを設定します。		
説 明	・ サブアドレスは「サブアドレスの登録」(AT\$E) で設定したときだけ通知します。 ・ ダイヤルイン追加番号は「ダイヤルイン追加番号の登録」(AT\$C) で設定した回線番号を通知します。 ・ 電話番号を通知するかどうかは、以下のように決まります。		
	NTTとの契約	T Aの設定	相手の電話番号の前に…
	常時非通知	無関係	無関係
	通話ごと非通知	通知しない(回線番号) (AT!B 0)	く 何もなし
		契約者回線番号通知 (AT!B 1)	「186」をダイヤル
		追加番号通知 (AT!B 2)	く 何もなし
		NTTとの契約に従う (AT!B 3)	「184」をダイヤル
		通知しない(追加番号) (AT!B 4)	く 何もなし
			「186」をダイヤル
			する (ダイヤルイン追加番号)
	回線ごと非通知	通知しない(回線番号) (AT!B 0)	く 何もなし
		契約者回線番号通知 (AT!B 1)	「186」をダイヤル
		追加番号通知 (AT!B 2)	く 何もなし
		NTTとの契約に従う (AT!B 3)	「184」をダイヤル
		通知しない(追加番号) (AT!B 4)	く 何もなし
			「186」をダイヤル
			する (ダイヤルイン追加番号)

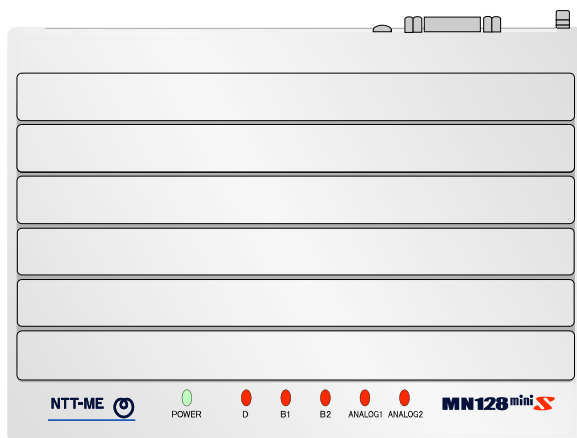
機 能		ATコマンド	設定値
● 識別着信の設定		!C	
書 式	すべての相手先から着信許可	AT!C 0	
	「AT!D」で登録した相手先からだけ着信許可	AT!C 1	
● 識別着信番号の登録/削除/表示		!D	
書 式	回線番号を登録	AT!D m=s	s=31桁までの相手先回線番号
	回線番号とサブアドレスを登録	AT!D m=s*(sub)	sub=19桁までのサブアドレス
	回線番号/サブアドレスを削除	AT!D m=	m=0~9:登録番号
	回線番号、サブアドレスの表示	AT!D ?	
説 明	・「識別着信の設定」(AT!C)で「『AT!D』で登録した相手先からだけ着信許可」を設定しているとき、ここで設定している回線番号とサブアドレスに該当する場合だけ着信します。 ・相手先回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ・相手先回線番号には「数字(0~9)」「#」「*」が入力できます。ただし、「*」は購入時設定ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。 ・Sレジスタ174番(P.208)でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは、回線番号としては使えません。 ・「*」は購入時設定でサブアドレス指定キャラクタに設定されていますが、Sレジスタ174番(P.208)で変更しているときは、変更したサブアドレス指定キャラクタを入力してください。 ・サブアドレスには「アルファベット(大文字と小文字を区別)」「数字(0~9)」を入力できます。 ・相手先回線番号の最後に「#」を指定しても即時発信のための役割はしません。 ・このコマンドは「AT&W」での保存や「ATZ」での読み込みは必要ありません。		

機 能		ATコマンド	設定値																
● グローバル着信の可否		!E																	
書 式	グローバル着信しない	AT!E 0																	
	グローバル着信する	AT!E 1																	
注 意	「グローバル着信しない」にすると、着信できなくなることがあります。通常は、NTTのダイヤルイン契約の「グローバル着信 有り/無し」にかかわらず「グローバル着信する」設定でお使いください。 - i・ナンバー契約の場合は、「グローバル着信しない」にすると着信できません。「グローバル着信する」設定でお使いください。																		
説 明	- グローバル着信を使うとダイヤルインサービスを利用している場合に、特定の機器にだけ着信させられます。 - この設定による動作は、下記ようになります。																		
	<table><tr><th>NTTとのダイヤルイン契約</th><th>かかって来た番号</th><th>着信のしかた</th></tr><tr><td rowspan="2">グローバル着信有り</td><td>契約者回線番号</td><td>「グローバル着信の可否」(AT!E) の設定に従います。</td></tr><tr><td>ダイヤルイン追加番号</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">グローバル着信無し</td><td>契約者回線番号</td><td>「ダイヤルイン追加番号の登録」(AT\$C) で登録されている番号と一致したときだけ着信します。</td></tr><tr><td>ダイヤルイン追加番号</td><td></td></tr><tr><td>ダイヤルイン契約なし</td><td>契約者回線番号</td><td>「グローバル着信の可否」(AT!E) の設定に従います。</td></tr></table>			NTTとのダイヤルイン契約	かかって来た番号	着信のしかた	グローバル着信有り	契約者回線番号	「グローバル着信の可否」(AT!E) の設定に従います。	ダイヤルイン追加番号		グローバル着信無し	契約者回線番号	「ダイヤルイン追加番号の登録」(AT\$C) で登録されている番号と一致したときだけ着信します。	ダイヤルイン追加番号		ダイヤルイン契約なし	契約者回線番号	「グローバル着信の可否」(AT!E) の設定に従います。
	NTTとのダイヤルイン契約	かかって来た番号	着信のしかた																
	グローバル着信有り	契約者回線番号	「グローバル着信の可否」(AT!E) の設定に従います。																
		ダイヤルイン追加番号																	
	グローバル着信無し	契約者回線番号	「ダイヤルイン追加番号の登録」(AT\$C) で登録されている番号と一致したときだけ着信します。																
ダイヤルイン追加番号																			
ダイヤルイン契約なし	契約者回線番号	「グローバル着信の可否」(AT!E) の設定に従います。																	
NTTと「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約をしていて、ダイヤルイン追加番号だけに着信したときは、「グローバル着信しない」に設定すると、本設定だけで契約者回線番号では着信せずに、ダイヤルイン追加番号だけに着信します。																			
● 通信フォーマット選択		!F																	
書 式	8ビット、パリティなし	AT!F 0																	
	7ビット、奇数パリティ	AT!F 1																	
	7ビット、偶数パリティ	AT!F 2																	
注 意	電源を入れ直すと、有効になります。																		
● 自動MP変換機能の設定		!H																	
書 式	自動MP変換機能を使わない	AT!H 0																	
	「発信時の回線速度」(AT\$S) が「64kbps」に設定されているときに自動MP変換	AT!H 1																	
	「発信時の回線速度」(AT\$S) が「128kbps」に設定されているときに自動MP変換	AT!H 2																	
注 意	- 自動MP変換機能をする設定にしても、以下の場合、この機能は使えません。 (1) mini-S に接続したパソコンのドライバや通信ソフトがMP対応のとき。 (2) 接続相手先がMPに対応していないとき。 - MP通信をするとき相手先の認証方式は「PAP」または「CHAP」をサポートする必要があります。「CHAP」で認証を行うときは、「ユーザ名とパスワードの登録」(AT!M) が必要です。																		
説 明	自動MP変換は、PPPとMPを自動的に変換する機能です。これにより、MPに対応していない通信ソフトを使用して、MPに対応した通信相手とMP通信ができます。																		

機 能		ATコマンド	設定値
● 初期接続Bチャンネル数の設定		!I	
書 式	2つのBチャンネルを使用	AT!I 0	
	1つのBチャンネルを使用	AT!I 1	
説 明	・ MP通信するとき、相手先と最初に接続する通信 (B) チャンネル数を設定します。空いているBチャンネルが1つしかないときは、設定には無関係に1つのチャンネルしか接続できません。		
● スループットBODでのBチャンネル追加/削除		!J	
書 式	追加/削除をしない	AT!J 0	
	追加だけをする	AT!J 1	
	削除だけをする	AT!J 2	
	追加/削除をする	AT!J 3	
注 意	・ スループットBOD機能を利用するときは、「自動 MP 変換機能」(AT!H) を使う設定にしてください。 ・ ここでの設定とは無関係に、Bチャンネルが追加/削除されることがあります。		
説 明	・ 「リソースBODでのアナログ機器優先モード」(AT!S) が利用する設定になっているときは、この設定よりも優先されます。		
● スループットBODでのデータ送信/受信時のBチャンネル追加		!K	
書 式	送受信でしきい値を上回ったとき追加	AT!K 0	
	送信でしきい値を上回ったとき追加	AT!K 1	
	受信でしきい値を上回ったとき追加	AT!K 2	
説 明	・ スループットBOD機能を使って Bチャンネルを追加するとき、データ送信時または受信時のどちらかの回線利用率がしきい値を上回った場合に Bチャンネルを追加するかを設定します。しきい値は、Sレジスタ179番 (P.208) で設定します。 ・ 「リソースBODでのアナログ機器優先モード」(AT!S) が利用する設定になっているときは、この設定よりも優先されます。		
● スループットBODでのデータ送信/受信時のBチャンネル削除		!L	
書 式	送受信でしきい値を下回ったとき削除	AT!L 0	
	送信でしきい値を下回ったとき削除	AT!L 1	
	受信でしきい値を下回ったとき削除	AT!L 2	
説 明	・ スループットBOD機能を使って Bチャンネルを追加するとき、データ送信時または受信時のどちらかの回線利用率がしきい値を下回った場合に Bチャンネルを削除するかを設定します。しきい値は、Sレジスタ184番 (P.208) で設定します。 ・ 「リソースBODでのアナログ機器優先モード」(AT!S) が利用する設定になっているときは、この設定よりも優先されます。		

機 能		ATコマンド	設定値
● ユーザ名とパスワードの登録/表示		!M	
書 式	ユーザ名の登録	AT!M 0=s	s=31桁までのユーザー名
	パスワードの登録	AT!M 1=s	s=31桁までのパスワード
	ユーザ名とパスワードの表示	AT!M ?	
説 明	- MP通信で発信するとき、通信相手からCHAPでの認証を要求された場合、2回目以降のCHAP認証に使うユーザ名とパスワードを設定します。 - ユーザ名とパスワードに使えるのは、ターミナル画面から入力できる31桁までの文字列です。 - このコマンドは「AT&W」での保存や「ATZ」での読み込みは必要ありません。		
● リソースBODでの アナログ機器優先モードの設定		!S	
書 式	優先しない	AT!S 0	(82/AT@U) の設定に関係なし
	発信のときだけ優先	AT!S 1	
	着信のときだけ優先	AT!S 2	
	発信/着信のどちらのときも優先	AT!S 3	
	(82/AT@U) の設定に従う	AT!S 4	
説 明	自動MP変換機能を利用して128kbpsでMP通信をして2つのBチャネルを使うとき「アナログ機器優先モードの設定」(82/AT@U) の設定よりここでの設定を優先してアナログ通信にBチャネルを割り当てます。		

困ったときは－Q & A－



技術サポートセンターにお問い合わせの多い項目をまとめました。該当する項目がない場合や、「対策」を行っても症状が変わらない場合は技術サポートセンターまでお問い合わせください。

■ ハードウェア

ACアダプタ

Q 電源が入りません

A 専用ACアダプタが正しく接続されているか、ご確認ください。(P.22参照)

Q 専用ACアダプタが熱くなります

A 多少熱くなりますが異常ではありません。発熱するものと重ねたりしないでください。さわれないほど熱くなる場合は、故障の可能性がありますので、技術サポートセンターまでお問い合わせください。

Q 停電時に、アナログ電話機は使えますか？

A 停電時には、mini-S に接続したすべての通信機器は使えません。オプションのバックアップ電池ボックスを利用すれば、停電時でも mini-S に接続したすべての通信機器がお使いになれます。

mini-S 本体

Q B1・B2のランプが点滅します

A ISDN回線の異常表示です。P.28を参照し、ご確認ください。

Q ランプが1つもつきません

A ACアダプタがきちんと接続されているか、POWER ON/OFFスイッチがONになっているかなどをご確認ください。(P.22、28参照)

シリアルケーブル

Q 付属のシリアルケーブルではパソコンに接続できないのですが

A mini-DIN8ピン変換ケーブル、D-Sub25ピン変換アダプタはオプションで用意してあります。
ノートパソコンなど一部の機種では、シリアルポートの形状が合わない場合があります。その場合、市販の変換ケーブル/変換アダプタ（ストレート）を別途ご用意いただく必要があります。ただし、その場合の動作保証はできません。

Q ノートパソコンに接続できないのですが

A ノートパソコンのシリアルポートと付属のシリアルケーブルの形状が合わない場合、お持ちのノートパソコンのシリアルポート形状に合った変換ケーブル/変換アダプタ（ストレート）をご用意いただき、付属の専用シリアルケーブルと接続して使用する必要があります。ただし、この場合動作保証はできません。

Q シリアルケーブルを延長したいのですが

A 延長する場合は、市販のストレートケーブルをご用意いただき、付属の専用シリアルケーブルとつなぎ合わせてお使いください。ただし、この場合動作保証はできません。

ISDN 回線

工事関係

Q モジュージャックを移動、延長したいのですが

A 配線工事が必要になる場合があります。詳しくは、NTTへご相談ください。

Q 配線工事は必要ですか？

A 現在のモジュージャックの位置でお使いの場合は、基本的には必要ありませんが、場合によっては工事が必要となります。詳しくは、NTTへご相談ください。

Q モジュージャックのコンデンサを取り外す必要がありますか？

A 場合によっては、取り外す必要があります。詳しくは、NTTへご相談ください。

Q 保安器を取り替える必要がありますか？

A 場合によっては、取り替える必要があります。詳しくは、NTTへご相談ください。

ISDNサービス

Q アナログ回線の時に申し込んでいたキャッチホンや銀行振り込みなどは、ISDNに切り替えても使えますか？

A すべて申し込み直す必要があります。詳しくは、NTTへお問い合わせください。

Q フレックスホン（三者通話、着信転送など）を使いたいのですが

A NTTとの契約が必要です。契約済みの時は、設定が必要です。設定方法については、P.76～81、112～116を参照してください。キャッチホン機能をお使いになる場合、ISDN回線の設定が通信中着信通知サービス許可になっている必要があります。詳しくは、NTTへご相談ください。i・ナンバー契約時、かんたん利用モードでは、着信転送を利用できません。詳細はP.112を参照してください。

Q INSマジックボックス、INSボイスワープ、迷惑電話お断りサービス、Fネットを使いたいのですが

A NTTとの契約が必要です。また、あわせてダイヤルイン契約もしている場合は、mini-Sで発信者番号通知の設定を行う必要があります。設定方法については、P.123～124を参照してください。

Q i・ナンバーを使いたいのですが

A NTTとの契約が必要です。mini-Sの購入時設定でi・ナンバーを利用できます。詳細は、P.38～41を参照してください。

Q 擬似なりわけサービス、擬似ナンバー・リクエストが利用できないのですが

A INSナンバー・ディスプレイを契約していないと、アナログ回線からの着信時には番号が通知されませんので、擬似なりわけサービスと擬似ナンバー・リクエスト機能は利用できません。

■ ANALOG1/2 (ポート 1/2)

アナログ機器の接続

Q アナログ電話機なら何でも使えますか？

A

ISDNではプッシュボタン(PB)信号の出る電話機しか使えません。お持ちの電話機の設定を「PB」または「トーン」に設定してください。設定方法は、各電話機のマニュアルを参照するか電話機販売店などにお問い合わせください。

Q 電話機とFAXを同時に接続できますか？

A

mini-S にはANALOG1/2 (ポート1/2) があります。それぞれに電話機とFAXを接続できます。ただし、ANALOG1/2 (ポート1/2) ごとに着信を区別するには、i・ナンバー、またはダイヤルイン契約をお勧めします。i・ナンバー、ダイヤルインの詳細ことは、NTTへご相談ください。

Q 1 階で電話、2 階でFAXを使いたいのですが

A

配線工事が必要とする場合があります。配線工事について詳しいことは、NTTへご相談ください。ただし、配線延長した場合は、一部正常に動作しない可能性があります。

Q ダイヤルイン機能付きFAXは使えますか？

A

ISDN回線では、その機能は使えません。FAXの設定で、「ダイヤルイン機能を使用しない」に設定してください。詳しくは、FAX販売店などにお問い合わせください。

Q 電話機とFAXをサブアドレスで使い分けたいのですが

A

mini-S でサブアドレスを指定している場合に、サブアドレス指定なしの番号からの着信はできません。また、サブアドレスを付加して発信できるのは、ISDNに接続された一部の通信機器だけになります。この場合、i・ナンバー、またはダイヤルイン契約をお勧めします。

ANALOG1/2 (ポート1/2) の設定

Q 電話機1 台だけ接続している時は、mini-S の設定は必要ありませんか？

A

設定することをお勧めします。P.108を参照してご確認ください。

Q 2つのANALOG1/2 (ポート1/2) 間で内線通話、外線の内線転送をしたいのですが

A

購入時設定のままです。P.51～53を参照してください。

Q 電話機に契約者回線番号、FAXにダイヤルイン追加番号を着信させたいのですが

A

設定が必要です。設定方法については、P.108～110を参照してください。

Q グローバル着信有りでダイヤルイン契約した場合、契約者回線番号をANALOG1 (ポート1) だけに着信させることはできますか？

A

できます。ただし、mini-S の設定が必要です。設定方法については、P.108～110を参照してください。

Q ANALOG1/2 (ポート1/2) に電話機とモデムを接続し、モデムには着信させたくないのですが

A

電話機を接続したANALOG1/2 (ポート1/2) だけで着信するように設定する必要があります。設定方法については、P.108～110を参照してください。

Q アナログポートに接続したモデムが正常に動作しません	
A	モデムを接続したアナログポートを音量調節 (24/AT#A) で送話音量と受話音量を両方とも大きくしてください。設定は、P.135を参照してください。
Q ANALOG 1 (ポート1)が通信中の時はANALOG 2 (ポート2)に着信させたいのですが	
A	ANALOG1(ポート1) に優先的に着信させるには、設定が必要です。設定については、P.108～110を参照してください。
Q 設定しましたが消えてしまいました	
A	ATコマンドで設定した時は、必ず最後に保存してください。保存しないと、mini-S の電源が切れた時に設定が消えてしまいます。コマンドは、「AT@B」です。
Q アナログポートから配線を延長したいのですが。またはどのくらい延長できますか？	
A	ターミナルアダプタのANALOG1/2(ポート1/2) からの配線を延長する場合の延長可能距離は、接続する通信機器・配線の種類・設置環境などにより変動します。配線延長などに関する動作保証はできません。また、1つのANALOG1/2(ポート1/2) に複数のモジュージャック (コネクタ) を接続した場合も、動作保証はできません。

フレックスホン

Q キャッチホン (コールウェイトン) が使えません	
A	ISDNに切り替えた場合、アナログ回線時に申し込んでいたサービス (キャッチホンなど) は、すべて申込み直す必要があります。
	キャッチホン (コールウェイトン) 契約をしている場合は、設定が必要です。P.76、112を参照してください。
	P.112を参照し、設定などを確認してください。
	ISDN回線の設定で、「通信中着信通知サービス」が「許可」になっていますか？詳しくは、NTTへご相談ください。
	疑似キャッチホンを使わない設定にしてください。疑似キャッチホンとの併用は、できません。
Q フレックスホンの着信転送ができません	
A	転送開始設定がしてあるかなどP.115～116を参照し、設定をご確認ください。
	i・ナンバー契約時、かんたん利用モード (購入時設定) では利用できません。P.80～81、115～116を参照してください。
	NTTとの契約が必要です。詳しくは、NTTへご相談ください。

電話機の不具合

Q ダイヤルしてから発信するまで時間がかかります	
A	購入時設定では、ダイヤル終了後から5秒後に発信します。ダイヤルの最後に「#」を押せば、すぐに発信します。

電話機の不具合

Q 電話の発信・着信ができません

A P.30～33を参照して確認してください。

Q 電話の発信はできますが、着信ができません

A P.108～110を参照して着信ポートの設定を確認してください。

Q 電話の着信はできますが、発信ができません

A プッシュボタン(PB)信号の通話機しか使用できません。お持ちの電話機の設定を「PB」または「トーン」に設定してください。設定方法は、各電話機のマニュアルを参照するか電話機販売店などにお問い合わせください。

Q 電話機にかけてもFAXに着信してしまいます

A ダイヤルイン契約をしている場合は、P.108～110を参照して設定内容を確認してください。
ダイヤルイン契約していない場合は、契約することをお勧めします。ダイヤルイン契約についてはNTTへお問い合わせください。すでに契約している場合、mini-S の設定が必要です。設定方法についてはP.108～110を参照してください。

Q 電話機に雑音が入ります

A ISDN U点ケーブル、電話用ケーブル、電話機用コードなどは、できるだけ短く束ねてください。

Q コードレス電話機に雑音が入ります

A コードレス電話機と mini-S の設置場所は、できるだけ離してください。

Q パソコンのシリアルケーブルを接続すると電話機に雑音が入ったり使えなくなります

A mini-S とパソコンのアースをとってください。パソコンにアースをとる方法など詳しいことは、各パソコンのマニュアルを参照するか、販売店等へお問い合わせください。

G3-FAX

Q 電話機とFAXで同時に通信できますか？

A できます。ただし、着信を区別するには、i・ナンバー、またはダイヤルイン契約をお勧めします。
i・ナンバー、ダイヤルイン契約については、NTTへお問い合わせください。すでに契約している場合、ダイヤルインはmini-S の設定が必要です。設定方法については、P.108～110を参照してください。

Q パソコンでFAX着信する方法はありますか？

A RVS-COM（市販ソフト）を利用してパソコンからFAXの送受信が可能です。詳しくは、P.55～56、125～126を参照してください。
FAXモデムをアナログポートに接続してパソコンからFAXの送受信が可能です。詳しくは、P.55～56、125～126を参照してください。

Q 特定のFAXへだけ送信できません

A 相手先がG4-FAXの時は、mini-Sの「アナログポート接続機種」で端末種別をFAXに設定してください。P.132を参照して設定してください。

■ パソコン通信

パソコン通信

Q mini-S からパソコン通信に接続できません

A アナログ回線にしか対応していない番号にダイヤルしても接続できません。その場合、モデムが必要です。P.35を参照してください。また、mini-S は回線速度が64kbpsまたは128kbpsだけに対応しています。したがって、9,600bpsなどの回線速度では、接続できません。詳しくは、各パソコン通信の会社へお問い合わせください。

Q mini-S からモデムを使わないでパソコン通信に接続する方法は？

A ISDN対応64kbps（または128kbps）のパソコン通信にしか接続できません。それにはパソコン通信会社と契約が必要です。ISDN回線に切り替えた場合は、契約をし直す必要がある場合があります。詳しくは、各パソコン通信の会社へお問い合わせください。

Q mini-S のアナログポートに接続したモデムからパソコン通信に接続できません

A この場合、mini-S はモデムにアナログ回線を供給しているだけなので、ほとんどの場合設定は必要ありません。（端末種別の設定「32r1/AT@Er=1」だけ設定することを推奨）モデムの設定方法、コマンド、接続などについては、各モデムのマニュアルを参照するか各モデム販売店などにお問い合わせください。

Q アナログポートからパソコン通信するのに mini-S に付属のCD-ROMは必要ですか？

A 必要ありません。必要なのは、通信ソフトウェアです。詳しくは、各パソコン通信の会社へお問い合わせください。

■ RVS-COM

RVS-COM

Q RVS-COMが添付CD-ROMに入っていない

A RVS-COMは市販ソフトです。CD-ROMの中には入っていない。ソフトウェア販売店などでお求めください。詳しくは、P.55を参照してください。

Q RVS-COMが使えません

A メガソフト株式会社 RVS-COMサポートセンタへご相談ください。
TEL 06-6386-2072 FAX 06-6386-2123

■ DTE ポート

ATコマンド

Q ATコマンドの入力方法は？

A 通信ソフトウェアから入力します。詳しくは、P.99～105を参照してください。

Q ATコマンドで設定できません

A シリアルポートの指定が間違っているなどの原因が考えられます。パソコンのマニュアルを参照するかパソコン販売店などにご確認ください。

Q ATコマンドを入力すると「Error」になります

A mini-S 以外の通信機器（モデムなど）を認識している可能性があります。通信ソフトウェアで指定しているシリアルポート（COMポート）を確認してください。または入力しているATコマンドが正しいかご確認ください。

Q 「AT」の文字が表示されずに「OK」という表示だけが出ます。

A その状態で「ATE1」と入力してください。（P.187参照）

通信ソフトウェア

Q 通信ソフトウェア(J-Termなど)の使い方は？

A 通信ソフトウェアで設定する必要がある項目は、P.99を参照してください。また、各通信ソフトウェアの使い方については、各通信ソフトウェアのマニュアルを参照するか各ソフトウェアのメーカーなどへお問い合わせください。

Q 通信ソフトウェアはどんなものを使ったらいいのですか？

A ATコマンドをキーボードから入力できるものを選びましょう。P.99を参照してください。詳しくは、パソコンメーカーやソフトウェア販売店などへお問い合わせください。

Q 通信ソフトウェアからダイヤルしてもつながりません

A mini-S のDTEポートからアナログしか対応していない番号（177、117など）にダイヤルしても接続できません。デジタルデータ通信できる機器が接続されている通信先にしか接続できません。P.35を参照してください。

■ インターネット

インターネット	
Q	コントロールパネル→モデム→検出結果→詳細情報で、AT1*がほとんど「Error」になっています
A	mini-S はAT10/2/3だけ表示し、あとはすべて「Error」で表示する仕様になっています。詳しくは、P.187を参照してください。
Q	NECのパソコンで64kbsなど高速でインターネットに接続できません
A	COM1を使用している場合、機種によってCOM1用のドライバの入れ替えが必要な場合があります。COM2では殆どの場合、問題なくお使いになれます。これについては各パソコン販売店などにお問い合わせください。
Q	「モデムからの応答がありません」というメッセージが出て接続できません
A	mini-S を接続しているシリアルポート (COMポート) を正しく設定しているかを確認してみましょう。P.101～103を参照し、通信ソフトウェアで「AT12」で「MN128mini-S」という表示がでることを確認し、その時のCOMポートをダイヤルアップネットワークでも設定しましょう。設定方法は、P.157～161を参照してください。
	各プロバイダによって設定が異なる場合があります。契約しているプロバイダへご相談ください。
	送信パツファと受信パツファのレベルを下げてみましょう。ダイヤルアップネットワークのウインドウで、アイコンを選択→マウス右クリックで「プロパティ」を選択 → 設定 → 「接続のタブ／ポート」の設定で送信・受信共に「低」に設定します。
	パソコンのDTE速度を230.4kbpsに指定しているときは、115.2kbpsにしてください。
Q	「64000bpsで接続しました」と表示されましたが、インターネットの画面が表示されません
A	「Netscape」や「Internet Explorer」などのWWWブラウザを起動してください。お持ちでない場合は、雑誌の付録や商用のネットなどから入手するか、市販ソフトウェアを購入する必要があります。詳しくは、ソフトウェアの販売店などへお問い合わせください。
Q	URLを入力しても「Error」が表示されてインターネット画面が閲覧できません
A	ドメインネームサーバ (DNS) のアドレスを指定してください。また、確認してください。詳しくは、ご契約の各プロバイダへお問い合わせください。
Q	インターネットからのデータ転送速度が遅いです
A	転送速度は、接続する時間帯、接続先のプロバイダのサーバの処理速度などによって変動します。mini-S では、設定した回線速度で接続することだけ行い、接続後に転送する速度については mini-S の設定は関係ありません。
Q	増設の高速シリアルボードは使えますか？
A	技術的には可能ですが、弊社で技術検証はしておりませんので、動作保証はできません。それに關する設定方法などについては、各ボードのメーカーなどへお問い合わせください。

インターネット

Q 10回に1回くらいしか接続できません

	接続先のプロバイダの回線がすべて使用中のときは、接続できません。
A	Windows98 (Second Edition)/95の場合、送信バッファと受信バッファのレベルを下げてみましょう。ダイヤルアップネットワークのウィンドウで、アイコンを選択 → マウス右クリックで「プロパティ」を選択 → 「設定」→「接続」のタブ → 「ポートの設定」で送信・受信共に「低」に設定します。

Q 128kbpsでインターネットに接続できません

	128kbpsで接続可能なインターネットのプロバイダと契約することが必要です。これについては、各プロバイダへお問い合わせください。
A	MN128mini_Series (MP 128k) を選択しているかご確認ください。 パソコンのDTE速度が230.4kbpsに設定しているときは、115.2kbpsに設定を変更してください。また、115.2kbpsが出ないパソコンをご利用の場合は、128kbpsでの動作保証はできません。

Q DTE速度が57.6kbpsの場合、64kbpsのインターネット接続はできますか？

A	スループットが若干落ちますが、ほとんどの場合接続できます。
---	-------------------------------

Q 「NO CARRIER」で回線が切断されます

	接続先の電話番号がデジタルデータ通信対応の番号か、確認してください。アナログだけに対応している番号には、接続できません。詳しくは、各プロバイダへお問い合わせください。
A	回線切断時の応答コード3にして切断理由を参照してください。P.209を参照してください。応答コード3にするには、初期化コマンドに「X3」を追記してください。 Windows98 (Second Edition)/95の場合はP.162、WindowsNT4.0の場合はP.167を参照してください。

■付属のCD-ROM

CD-ROM

Q 何に使うのですか？

A	インターネットに接続するために必要な設定ファイル (infファイル) などが入っています。詳しくは、CD-ROM内の「Readme.txt」ファイルを参照してください。
---	--

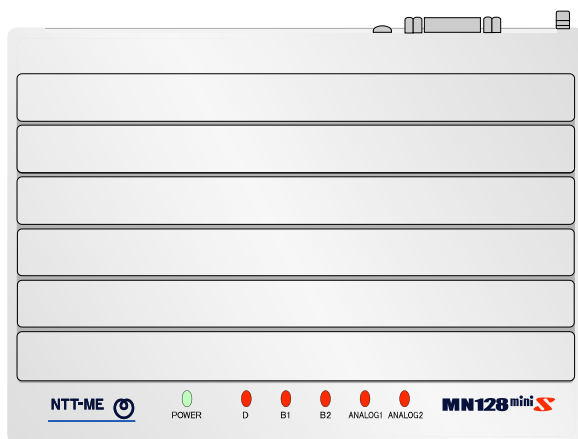
Q 通信ソフトウェア(ターミナルソフト、PPP対応通信ソフトなど)が入っていません

A	通信ソフトウェアは添付していません。お客様ご自身で、別途ご用意いただく必要があります。詳しくは、P.143を参照してください。
---	---

Q ATコマンドを入力するにはCD-ROM内のどれを使うのですか？

A	簡単設定ユーティリティをインストールして、ATコマンドを入力できます。詳しくはP.58～65を参照してください。
---	--

付 録



S レジスタ

- ・ S レジスタで設定した内容は「AT&F」で購入時設定に初期化され、「AT&W」で内部ファイル 0 番または 1 番を選んで保存できます。
- ・ S レジスタは AT コマンド「ATSr=n」で設定できます。また、「ATSr?」で内容を一覧表示できます。(r=レジスタ番号、n=設定値)

レジスタ番号	購入時設定	設定値の範囲	設定内容（標準）					
0	1	0	自動着信しない					
		1~255	自動着信時、設定された回数だけRINGを3秒間隔に端末へ送出してから着信					
3	13	0~255	CRコード					
4	10	0~255	LFコード					
5	8	0~255	BSコード					
7	30	3~50	相手応答待ち時間（単位：秒）					
レジスタ番号	購入時設定	設定値の範囲	設定内容（MN128mini-S用）					
134	0		高位レイヤ整合性の設定					
		0:	制限なし	33:	G4-FAX	50:	ビデオテックス	65: O S I
		1:	電話	36:	ミックスモード	53:	テレテックス	
		4:	G3-FAX	49:	テレックス	56:	MH S	
135	13		起動時のDTE速度の設定					
		5:	9600 bps	8:	38400 bps	13:	115200 bps	
		7:	19200 bps	11:	57600 bps			
174	42 (*)	0~255	サブアドレスを指定するときのキャラクタをASCIIコードで設定します。初期値は「*」で10進数で「42」です。					
176	10	1~255	スループットBODを利用しBチャネルを追加するとき、回線利用率を算出するための評価時間を設定します。（単位：秒）					
177	0	0~255	スループットBODを利用しBチャネルを追加したとき、レジスタ「177」と「178」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは削除されません。（単位：256秒）					
178	10	1~255	スループットBODを利用しBチャネルを追加したとき、レジスタ「177」と「178」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは削除されません。（単位：秒）					
179	50	0~100	スループットBODを利用しBチャネルの追加を行うとき、回線利用率がここで設定したしきい値を上回ったときにBチャネルを追加します。（単位：パーセント）					
181	10	1~255	スループットBODを利用しBチャネルを削除するとき、回線利用率を算出するための評価時間を設定します。（単位：秒）					
182	0	0~255	スループットBODを利用しBチャネルを削除したとき、レジスタ「182」と「183」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは追加されません。（単位：256秒）					
183	10	1~255	スループットBODを利用しBチャネルを削除したとき、レジスタ「182」と「183」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは追加されません。（単位：秒）					
184	0	0~100	スループットBODを利用しBチャネルの削除を行うとき、回線利用率がここで設定したしきい値を下回ったときにBチャネルを削除します。（単位：パーセント）					

■ 応答コード一覧

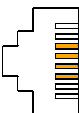
AT コマンドをパソコンから mini-S に送ったときに、mini-S は処理結果 (応答コード) をパソコンに対して返します。応答コード表示内容は、下記の 4 つのパターン (X0 ~ X3) から選べます。応答コードの選択方法は、各通信ソフトウェアの初期化コマンドが追加コマンド欄に指定してください。例えば応答コードを「X3」にするときは、「X3」を追記します。

Windows98/95での追記に関してはP.162、WindowsNT4.0ではP.167、Macintosh (FreePPP)での初期化コマンドの入力方法はP.173をご参照ください。

数字形式	単語形式	応答コードの指定				表示内容																																																																																																																
		X0	X1	X2	X3																																																																																																																	
0	OK	○	○	○	○	ATコマンド正常実行																																																																																																																
1	CONNECT	○				回線を接続した																																																																																																																
2	RNG	○	○	○	○	着信した																																																																																																																
3	NO CARRIER	○	○	○		回線が接続できなかった																																																																																																																
4	ERROR	○	○	○	○	ATコマンドエラー																																																																																																																
7	BUSY			○		相手先が通信中																																																																																																																
8	NO ANSWER			○		相手先からの応答なし																																																																																																																
12	CONNECT 9600		○	○	○	9600bpsで接続した																																																																																																																
14	CONNECT 19200		○	○	○	19200bpsで接続した																																																																																																																
18	CONNECT 57600		○	○	○	57600bpsで接続した																																																																																																																
19	CONNECT 115200		○	○	○	115200bpsで接続した																																																																																																																
28	CONNECT 38400		○	○	○	38400bpsで接続した																																																																																																																
31	DELAYED		○	○	○	再接続規制のため発信できない																																																																																																																
34	CONNECT 64000		○	○	○	64000bpsで接続した																																																																																																																
35	CONNECT 128000		○	○	○	128000bpsで接続した																																																																																																																
201 ~327	LINE OFF 001~127				○	INS網からの切断理由 (下記)																																																																																																																
<table><tr><th>番号</th><th>切断理由</th><th>番号</th><th>切断理由</th></tr><tr><td>1</td><td>欠番</td><td>58</td><td>現在利用不可伝達能力</td></tr><tr><td>2</td><td>指定中継網へのルートなし</td><td>63</td><td>その他のサービスまたはオプションのクラス利用不可</td></tr><tr><td>3</td><td>相手へのルートなし</td><td>65</td><td>未提供伝達能力</td></tr><tr><td>6</td><td>チャネル利用不可</td><td>66</td><td>未提供チャネル種別指定</td></tr><tr><td>7</td><td>呼が設定済みのチャネルへの着呼</td><td>69</td><td>未提供ファシリティ要求</td></tr><tr><td>16</td><td>正常切断</td><td>70</td><td>制限デジタル情報伝達能力</td></tr><tr><td>17</td><td>着ユーザービジー</td><td>79</td><td>その他のサービスまたはオプションの未提供クラス</td></tr><tr><td>18</td><td>着ユーザーレスポンスなし</td><td>81</td><td>無効呼番号使用</td></tr><tr><td>19</td><td>着ユーザー呼出中/レスポンスなし</td><td>82</td><td>無効チャネル番号使用</td></tr><tr><td>21</td><td>通信拒否</td><td>83</td><td>指定された中断呼識別番号未使用</td></tr><tr><td>22</td><td>相手加入者番号変更</td><td>84</td><td>中断呼識別番号使用中</td></tr><tr><td>26</td><td>選択されなかったユーザーの切断復旧</td><td>85</td><td>中断呼なし</td></tr><tr><td>27</td><td>相手端末故障中</td><td>86</td><td>指定中断呼切断復旧済</td></tr><tr><td>28</td><td>無効番号フォーマット</td><td>87</td><td>QUGのメンバーでないユーザー</td></tr><tr><td>29</td><td>ファシリティ拒否</td><td>88</td><td>端末属性不一致</td></tr><tr><td>30</td><td>状態問合わせへの応答</td><td>91</td><td>無効中断網選択</td></tr><tr><td>31</td><td>その他の正常クラス</td><td>95</td><td>その他の無効メッセージクラス</td></tr><tr><td>34</td><td>利用可回線/チャネルなし</td><td>96</td><td>必須情報要素不足</td></tr><tr><td>38</td><td>網障害</td><td>97</td><td>メッセージ種別未定義または未提供</td></tr><tr><td>41</td><td>一時的障害</td><td>98</td><td>呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義</td></tr><tr><td>42</td><td>交換機調整</td><td>99</td><td>情報要素未定義</td></tr><tr><td>43</td><td>アクセス情報破壊</td><td>100</td><td>無効情報要素内容</td></tr><tr><td>44</td><td>要求回線/チャネル利用不可</td><td>101</td><td>呼状態とメッセージ不一致</td></tr><tr><td>47</td><td>その他のリソース使用不可クラス</td><td>102</td><td>タイム満了による回復</td></tr><tr><td>49</td><td>QOS利用不可</td><td>111</td><td>その他の手順誤りクラ</td></tr><tr><td>50</td><td>要求ファシリティ未契約</td><td>127</td><td>その他のインタワーキングクラス</td></tr><tr><td>57</td><td>伝達能力不許可</td><td></td><td></td></tr></table>							番号	切断理由	番号	切断理由	1	欠番	58	現在利用不可伝達能力	2	指定中継網へのルートなし	63	その他のサービスまたはオプションのクラス利用不可	3	相手へのルートなし	65	未提供伝達能力	6	チャネル利用不可	66	未提供チャネル種別指定	7	呼が設定済みのチャネルへの着呼	69	未提供ファシリティ要求	16	正常切断	70	制限デジタル情報伝達能力	17	着ユーザービジー	79	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス	18	着ユーザーレスポンスなし	81	無効呼番号使用	19	着ユーザー呼出中/レスポンスなし	82	無効チャネル番号使用	21	通信拒否	83	指定された中断呼識別番号未使用	22	相手加入者番号変更	84	中断呼識別番号使用中	26	選択されなかったユーザーの切断復旧	85	中断呼なし	27	相手端末故障中	86	指定中断呼切断復旧済	28	無効番号フォーマット	87	QUGのメンバーでないユーザー	29	ファシリティ拒否	88	端末属性不一致	30	状態問合わせへの応答	91	無効中断網選択	31	その他の正常クラス	95	その他の無効メッセージクラス	34	利用可回線/チャネルなし	96	必須情報要素不足	38	網障害	97	メッセージ種別未定義または未提供	41	一時的障害	98	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義	42	交換機調整	99	情報要素未定義	43	アクセス情報破壊	100	無効情報要素内容	44	要求回線/チャネル利用不可	101	呼状態とメッセージ不一致	47	その他のリソース使用不可クラス	102	タイム満了による回復	49	QOS利用不可	111	その他の手順誤りクラ	50	要求ファシリティ未契約	127	その他のインタワーキングクラス	57	伝達能力不許可		
番号	切断理由	番号	切断理由																																																																																																																			
1	欠番	58	現在利用不可伝達能力																																																																																																																			
2	指定中継網へのルートなし	63	その他のサービスまたはオプションのクラス利用不可																																																																																																																			
3	相手へのルートなし	65	未提供伝達能力																																																																																																																			
6	チャネル利用不可	66	未提供チャネル種別指定																																																																																																																			
7	呼が設定済みのチャネルへの着呼	69	未提供ファシリティ要求																																																																																																																			
16	正常切断	70	制限デジタル情報伝達能力																																																																																																																			
17	着ユーザービジー	79	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス																																																																																																																			
18	着ユーザーレスポンスなし	81	無効呼番号使用																																																																																																																			
19	着ユーザー呼出中/レスポンスなし	82	無効チャネル番号使用																																																																																																																			
21	通信拒否	83	指定された中断呼識別番号未使用																																																																																																																			
22	相手加入者番号変更	84	中断呼識別番号使用中																																																																																																																			
26	選択されなかったユーザーの切断復旧	85	中断呼なし																																																																																																																			
27	相手端末故障中	86	指定中断呼切断復旧済																																																																																																																			
28	無効番号フォーマット	87	QUGのメンバーでないユーザー																																																																																																																			
29	ファシリティ拒否	88	端末属性不一致																																																																																																																			
30	状態問合わせへの応答	91	無効中断網選択																																																																																																																			
31	その他の正常クラス	95	その他の無効メッセージクラス																																																																																																																			
34	利用可回線/チャネルなし	96	必須情報要素不足																																																																																																																			
38	網障害	97	メッセージ種別未定義または未提供																																																																																																																			
41	一時的障害	98	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義																																																																																																																			
42	交換機調整	99	情報要素未定義																																																																																																																			
43	アクセス情報破壊	100	無効情報要素内容																																																																																																																			
44	要求回線/チャネル利用不可	101	呼状態とメッセージ不一致																																																																																																																			
47	その他のリソース使用不可クラス	102	タイム満了による回復																																																																																																																			
49	QOS利用不可	111	その他の手順誤りクラ																																																																																																																			
50	要求ファシリティ未契約	127	その他のインタワーキングクラス																																																																																																																			
57	伝達能力不許可																																																																																																																					
329	LINE OFF LAYER1				○	レイヤ1エラー																																																																																																																
330	LINE OFF LAYER2				○	レイヤ2エラー																																																																																																																
331	LINE OFF ATD STOP				○	回線接続中にキーが押された																																																																																																																
333	LINE OFF ATD TIME OUT				○	指定時間内に接続できなかった																																																																																																																
339	LINE OFF DTR OFF				○	DTR OFFにより切断																																																																																																																
340	LINE OFF COMM TIME OUT				○	指定時間通信が行われなかった																																																																																																																
341	LINE OFF DTECT BREAK				○	ブレイク信号検出により切断																																																																																																																

ハードウェア仕様

■ インタフェース

ISDN	DSU	内蔵 (切り離し可)	
	適用回線	INSネット64 (2B+D)	
	適用サービス	Bチャンネル回線交換	
	インタフェース形態	P-MPI呼毎 または P-MP常時	
	Bチャンネル通信速度	64/128 (kbps)	
U点	ポート数	1 (スイッチでDSU切り離し可能)	 NOR時/REV時 ③ L2/L1 ④ L1/L2
	コネクタ形状	6ピンモジュラージャック (RJ11)	
	伝送方式	2線式時分割方式 JT-G961 準拠	
	極性	スイッチで反転可能	
	DSU折り返し機能	あり (電話局からの試験データに自動応答)	
S/T点	コネクタ数	1 (バス接続用)	 ③ 送信 (TA) ④ 受信 (RA) ⑤ 受信 (RB) ⑥ 送信 (TB)
	コネクタ形状	8ピンモジュラージャック (RJ45)	
	伝送方式	4線 AM符号 ITU-T I430 準拠	
	給電	あり (DSU使用時)	
	終端抵抗	内蔵 (スイッチで切替可能)	
DTE	ポート数	1	 ① DCD ④ DTR ⑦ RTS ② Rx/D ⑤ GND ⑧ CTS ③ Tx/D ⑥ DSR ⑨ R1
	機械的仕様	D-Sub9ピン・コネクタ (付属の専用シリアルケーブル使用)	
	電氣的仕様	RS-232C準拠	
	接続制御手順	Hayes互換ATコマンド	
	シリアル通信速度	9.6、19.2、38.4、57.6、115.2 (kbps)	
アナログ	ポート数	2	 ③ L2 ④ L1
	コネクタ形状	6ピンモジュラージャック (RJ11)	
	電氣的仕様	2線式アナログインタフェース	
	給電電圧	-48V (無負荷時)	
	発信手順	押しボタンダイヤル (FB)	
	ブランチ接続	動作保証外	

■ ユーザインタフェース

状態表示LED	6個 (POWER、D、B1、B2、ANALOG1、ANALOG2)
スイッチ	リセットスイッチ、DSUスイッチ (DSU ON/OFF)
	U点極性反転スイッチ (REV/NOR)
	終端抵抗切替スイッチ (S/T TERM ON/OFF)

■ 一般仕様

使用電源	DC12V±5% (専用ACアダプタ付属)
消費電力	10W以下
環境条件	温度5～40℃、湿度20～70% (但し結露しないこと)
外形寸法	175 (W) × 128 (D) × 30 (H) mm (突起物を含まない)
重量	約300g
電波障害防止	VCCB
オプション	Mac (mini-DIN8ピン) 用変換ケーブル D-Sub25ピン用変換アダプタ MN128miniシリーズ専用バックアップ電池ボックス

機 能

■ 通信機能		備 考
Hayes互換ATコマンド	○	
全自動非同期同期PPP相互変換機能	○	
128kbps MP通信機能	○	
アナログ優先機能（リソースBOD）	○	
スループットBOD機能	○	
RVS-COM（FAX送受信）	○	ソフト別売り
■ アナログ部		備 考
ナンバー・ディスプレイ	○	
擬似ナンバー・リクエスト	○	
発信者番号通知の設定	○	
発信者番号の設定	○	
内線通話/転送	○	
送受話音量調節	○	3段階
着信ポートの選択	○	
外線/内線呼び出しレベル音切替	○	3種類
擬似なりわけサービス	○	
擬似キャッチホン	○	
フッキングのタイミング調節	○	4種類
■ I N S 6 4 基本機能		備 考
グローバル着信	○	
発信者番号通知サービス	○	
サブアドレス通知サービス	○	
通信中着信サービス	○	
■ I N S 6 4 付加サービス (有料)		備 考
i・ナンバー	○	
I N Sマジックボックス	○	
フレックスホン キャッチホン	○	
三者通話	○	
着信転送	○	
通信中転送	○	
ダイヤルイン	○	
迷惑電話おことわりサービス	○	
I N Sボイスワープ (無条件転送、無応答時転送、話中転送)	○	
I N Sボイスワープセレクト (登録番号だけ転送)	○	
I N Sナンバー・ディスプレイ	○	
Fネット	○	

■ ハードウェア機能	
	リセットスイッチ、DSJスイッチ (DSJ ON/OFF)
	U点極性反転スイッチ (REV/NOR)
	終端抵抗切替スイッチ (S/T TERM ON/OFF)
■ その他	
動作確認OS	Windows98 (Second Edition)、Windows95、WindowsNT4.0
(すべて日本語版です)	MacOS8.6、MacOS8.5、MacOS8.1、MacOS8.0、MacOS7.6、 漢字Talk7.5
設定方法	簡単設定ユーティリティ、A T コマンド、アナログ電話機
ファームウェアの更新	可能(ダウンロード)

※ Windows98 Second Edition のインターネット共有接続サービスを利用した場合の自動接続/切断に関する料金トラブルについては、 当社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。

MN128mini-S お問い合わせシート

MN128mini-S の設定内容を記入して保存しておきましょう。

また、技術サポートセンターに問い合わせるときは、このシートに記入してFAX でお送りください。

お客様氏名			ご購入日	平成 () 年 () 月 () 日
ご連絡先	TEL ()	携帯 ()	FAX ()	
ご住所	〒			
パソコン	メーカー () 機種名 () OS ()			
バージョン	mini-S ファームウェア		Ver. ()	
	MN128miniシリーズ 簡単設定ユーティリティ		Ver. ()	

アナログポートの設定内容

ダイヤルイン契約	【あり / 無し】 追加数 ()	i・ナンバー契約	【あり / 無し】
電話番号		着信するポート	
契約者回線番号	()	【両ポート / ANALOG1 / ANALOG2 / 着信しない / その他 ()】	
追加番号	()	【両ポート / ANALOG1 / ANALOG2 / 着信しない / その他 ()】	
	()	【両ポート / ANALOG1 / ANALOG2 / 着信しない / その他 ()】	
	()	【両ポート / ANALOG1 / ANALOG2 / 着信しない / その他 ()】	
	()	【両ポート / ANALOG1 / ANALOG2 / 着信しない / その他 ()】	
ポート	接続する機器		
ANALOG1	【電話機 / FAX 電話機かモデム / FAX / ナンバーディスプレイ電話機 / その他 ()】		
ANALOG2	【電話機 / FAX 電話機かモデム / FAX / ナンバーディスプレイ電話機 / その他 ()】		
その他の設定メモ			

利用するサービス

INSマジックボックス/ INSボイスワープ	・利用する → カスタマーコントロール機能利用番号 【契約者回線番号 / 追加番号】 ・利用しない
フレックスホン	・キャッチホンを利用する → 話中着信するポート 【ANALOG1 / ANALOG2】 ・利用しない
擬似キャッチホン	・利用する → 話中着信するポート 【ANALOG1 / ANALOG2】 ・利用しない
その他のサービス	

質問内容

取扱説明書の訂正

取扱説明書に、以下の誤りがありました。ご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、以下のとおり、訂正・追加説明をさせていただきます。

P47 ※2. 最後の文

誤) (「通常通知」のときは「186」を付加した場合)



正) (「通常非通知」のときは「186」を付加した場合)

P68 表の最下段

誤) アップルメニュー (Macintosh版)



正) アップルメニュー (Macintosh版)

P129 「内線通話の設定」 注意欄

誤) フレックスホンの4つの機能のうち、「通信中転送」、「三者通話」、「着信

 転送」のどれか1つでも「使う」に設定すると、内線通話はできません。

正) フレックスホンの4つの機能のうち、「通信中転送」や「三者通話」を「使う」に設定している場合や、「キャッチホン(コールウェイティング)」や「疑似キャッチホン」を設定している場合の割り込み着信中には内線通話/転送できません。

P48 「■INSナンバー・ディスプレイを利用する」！ 注意 への追加

アナログ優先モード(リソースBOD)設定を、「アナログ機器の発信／着信どちらのときも優先」、または「アナログ機器への着信のときだけ優先」とした場合は、MP(Multilink Protocol)通信(P146)を使用して、128 kMP通信中も着信は受け付けられますが、発信者番号などはアナログポートに接続したアナログ通信機器に表示されません。

P51 「■内線通話」・P52 「■内線転送」！ 注意 の追加

内線通話、内線転送時の呼び出し時間は約70秒で設定されています。
内線転送機能をご利用のときは、約70秒で外線が切断されますので、転送先の応答がないときは、フックボタンを押して、再度、外線通話に戻って通話するようにご利用をお願いします。



ここに別紙「技術サポートセンターの
連絡先」のシールを貼ってください。

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー
〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目2番2号
URL <http://www.ntt-me.co.jp/>